

の上流社會の子弟が往々若い時からこゝに遊學して幾年経ても學位が取れぬのがあつたのを慨し、「ともかく日本人でこゝに來學するには内地で十分普通學を鍛えあげ、殊に英語、英文學、英國史に精通しておかねば利益が少い」と注意して居つた、それは尤もである。

女學生のホール

オクスフォードでは二三百の女學生が居る、そのために四個のホールがある、このホールは家塾の如きもので、そこに寄宿して然るべき學院の講義を聴きにゆくのである。夕方は一定の時刻以後外出を許さない。僕等はチェアウエル河畔の聖ヒルダスホールを訪ねた。塾主は五十恰好のしどやかな銀髪の老婦人で、自ら案内して何れとなく説明した。學生の聴講に出掛けない時の閲覧室がある、五六の少女が靜かに讀書して居つた、客間にいろ／＼の美術に關する圖書や物品が飾つてある、塾主はこの塾では定期の講義はないが、二人の歴史と美術の先生を頼んである、是等の人の指導の下に塾生らは時々この客間に集り、各自の研究の結果を披露し先生の批評をうけると告げた。この塾は最も小さいホールで塾生三十名許よりない。併し最も新しい創立に係り、小じんまりとしておる、庭園には種々の草花咲き小奇麗であ

る。園外の眺めも廣く、側を流る、チェアウエルの岸には塾生用の棹さし舟二三隻繋いである。昨年津田梅子女史もこゝに來て逗留したそうである。塾を辭する時塾主はこの地でも倫敦大學のやうに婦人の學位許可が遠からぬ内に實現するでしょうと告げた。婦人に學位許可すべきや否やは目下現大學副長カルズン卿が全大學の再考を促がしつゝある新提案の一である。

印度學生

オクスフォードには四十名許の印度學生がある、智力殊に思索的方面に於て或は日本學生に優つてゐるが、とかく意氣地に乏しい憾があるさうである。併し近年東亞の風雲の興起に際し、印度の政治上不平漸く高まりたるにつれ、彼等の或る者は故國の革新者を以て自任して居るものがある。是等の青年愛國家の重なる鼓舞者はクリシュナヴァルマである、氏は印度の無政府黨の名士にして財産家、目下巴里に住し「印度社會學派」を發刊してゐる、氏はオクスフォード大學にハーバート・スペンサー基金を寄附して有名なる社會學者をして時々公開講演をやらしたが、氏の過激主義の明かとなるに隨ひ、目下その基金を返却すべしとの議が起つてゐる。又た此の六月の初の大學の雜報「ブルシチー」の如きは、氏のエム・エーの學位褫奪の議さへ

唱へ、且つ在學中の印度學生の態度を疑ひ、將來印度人の來學を奨勵しないがよいとまでいつてゐる。それは偕おき、果然七月一日夕倫敦の印度學生招待のアド・ホームの席でロンドン・ユニヴァルシチ・カレッジの工科學生たる印度人デングラといふ者が印度大臣の副官アー・カルゾン・ウイラー氏を短銃で暗殺したから、英國國民は一時驚愕し、目下ではこの兇行の源泉を、在巴里のク氏が平生政治上暗殺は正當である、決して殺人犯でないとの煽動的主張に歸して之を非難してゐる。然るにク氏は冷かにこの説は自分の發明ではない、單に英國國民の尊敬せるスペンサー氏の學説を敷衍したに止まると辯解して居る。而して兇行學生の警察に於ける宣言が面白い、その要は「吾輩は殺人犯でない、印度の同胞は英人のために最近五十年間に八千萬の生命を失ひ、毎年十億圓の財産を奪ひ去らる、若し假りに英人の最も恐怖せる獨逸が英國を占領し、宛も英人が印度に於てなしつゝあると同じ亂暴狼藉をこゝに行ふとせば、英人は必ず吾輩が敢てしたると同じ手段を取るであらう、吾輩の行爲は正當である」とある。今後の印度學生の一舉一動は益々英國社會の注意を惹くに違いない、何となればそれはやがて英國の印度帝國統治權問題に接觸して居るからである。但しいかに政治上の辯解あるも、暗殺は卑怯である、罪惡である、故に印度革新運

動の一派は法律上正當なる平和手段を主張してゐる。

運 動

オクスフォード観光として運動の記事は缺くべからずである。各學院内には広い立派な庭園はあるが、これは徜徉の場所で、眞の運動の場所は院外にあるのである市の東北の端にはユニヴァーシティーパークといふ大公園がある、その内で英國の國技たるクリケットやテニスが行はる、尙ほその外に市はづれの廣い野原に各學院専用の運動場がある。僕は或る午後例のB君の案内で市の南端を流れてるアイシス（テムスの支流）の南岸に沿ふて散歩した。河幅は三十間位で、尤も流は極めて緩かで水量は十分にある、北岸には鬱葱たる森を背景として幾多の見物兼俱樂部用の船が繫留してある、南岸は廣い芝生で、それが幾多の區劃に分たれて各學院學生がクリケットやテニスをやつて居る。僕等の散歩路には運動シャツ一枚で自転車を驅つてゐる元氣な男が多い、河には種々のボートや棹さし船が青年學生を載せてゐる、その内最も目につくは所謂「エイツ」と稱する八人漕の長約六十尺巾二尺といふ細長い輕快な競漕用端艇である、艇の幅がかく狭いから、長い櫂の槓杵點は舷側から外方二三尺の處へ突き出した金屬製のフレームの上にある、漕手はその臀部を腰かけ

の上で前後に述べらしてごく一種の漕方をやる、そして艇の速力は早い。然らば運動はこの大學々生々活の如何なる部分を占めて居るかといふに、僕の見聞並にかの日本紳士の談話等から綜合するに、宗教的教育と相並んで車の兩輪の如き關係をなして居るかと思ふ水陸いづれの運動も皆盛んなもので、現に僕等の観光中は試験季節であるに拘らず、スポーツは決して平生とは變つて居らなかつた。

學風の悠揚

僕のオクスフォード観光は四日間であつたが、前記の紳士並に學生の好意や、大學關係の人々の談話や圖書などにより、略ぼその學風一斑を察知しえた。上述の宗教的教育や、ホールに於ける會食や體育の外に、教場以外に於て學生の薰陶に資するものは、ボドレアア圖書館の傍にあるシエルドニア・シアタの奏樂や、學生の聯合討論俱樂部や、大學博物館並にハスモレア博物館（希臘羅馬その他の美術並に考古品を所藏す）等種々あるのである。而して特筆すべきは學生と教授並に先輩との交通が講堂並にホール以外に於ても頗る親密自由なことである、或る教授の如きは聽講學生等を順次に幾人かづゝ自宅に招いて談話するさうである。全體の傾向は日本に比べると教場内よりも教場以外の感化を重んじてゐるやうである、聖ジョンの教

授連が日本の帝國大學の授業時數幾許との間に、僕が一日少くとも四時間、時としては六時間と答へたら、彼等はそれで學生の自修が出来るかと驚き、僕が日本の學生は可成多く聽講したがるといつたら、彼等はこゝでは一日二時乃至三時間の講義あるばかりだが、それでも學生は猶出来るだけ少からんことを希望すると告げた。東西各いろゝ事情を異にするから事の可否は特に審議を要するが、とにかくこれで一層オクスフォードの學風悠揚なることが髣髴すると思ふ。序に學費のことである、一體に社交が発達し且つ貴族的中等社會の子弟が多いから、一人一學年（四ヶ月の夏期及び其他の休暇を除けば實際六七ヶ月）の平均學費は一千五百圓から二千圓である、かの南亞のクライブと稱せられた故セシル・ローツの獎學金は休暇を含めて一年三千圓、即ち日本政府の堂々たる文部省留學生費の殆ど倍額である。尤も近年薄資學生のため就學の道を講ずる計畫が起つてゐる、前に述べた大學總長カルゾン卿の新提案の内に實にこの問題が提議せられて居るのである。猶上述の長い休暇を學生は如何に消光するか疑問が起る、彼等は日本の學生が動もすればする晝寐小説でくらすこと、海水浴や温泉場で徒らにごろゝ暮すやうなことを好まぬ。或者は海を越えて米國や歐洲大陸を旅行して見聞を弘め、又はアルプスなどの高山登

をなして氣を養ひ、或者は自分の研究問題のために専心讀書する、又或る者は休暇中家庭教師の職に就くなど、要するに何かの活動に休暇を利用するのである、これといふなすこともなく只だぶら／＼長い休を徒費するは馬鹿の骨頂として居る。或る教育家は休暇とは學期中に得られない、他の確實なる利益を得るために設けられた一個の活動期であるといつて居る。僕は是れが單に學生に對してのみならず教師に對しても同様であると信ずる。

一八 ウィンブルドンの庭球試合

一九二二年七月八日、土曜、ウィンブルドン。

祖國の若き人たちよ。

日本では今頃は夏のスポーツシーズンで定めて盛んなことであらう。しかし借問す若き人たちよ、諸君のうちに世界のスポーツマン又はスポーツウーマンたりうるもの果して幾人かある。さきに私が紐育を立つ前に、そこに在留の舊友の一人は、私のためにボーログラウンドの野球仕合見物に骨折つてくれたが、この折にふれてのこの紳士が慷慨していつたことが、私の耳に残つてゐる、曰く一體わが日本の

偉らいのは陸海軍ばかりだといふのが通り相場だ、それを除いて、どの方面にも世界的大人物は殆んど出てゐない。只庭球界に於て熊谷清水をし出たばかりだ、彼等はまだ一息で世界のチャンピオンシップを獲得する所だつた。夫で大いに日本の名聲をあげた。これは日本人一般に對する皮肉だ、しかも好い刺戟だ。何でもよい、何の方面にでも世界一の人が出てほしいものだ。夫から、私は名にしおふオツムピツク號に乗つて出た。此の船中の食堂で、私の食卓ボーイは、こゝと一つのシートを指さして昨年ミスタ・シミズが坐つた所だと、自分と私との御互の誇りを振り分け顔に語り出した。して見ると、私は清水君の着いたと同じテーブルにつくの大きな光榮とすべき譯で、いな、さうしなければならなかつた。現に今日このウィンブルドンでもだ、その觀覽中に又もやふり出した驟雨しのぎに、私が日本から、世界見物の棕十然と、殆ど雨のふらなかつたアメリカを経て、はる／＼ロンドン三界まで提げて來た、西洋では珍しい、巾廣の蝙蝠傘を、その場でひろげて、始めて久しぶりに雨傘の用を成さしめた時、それで、偶然私と相合傘になつた隣の英國婦人は、莞爾やかに且つ慇懃に謝して、時にミスタ・シミズは今年は何せ來られないのですか、私は去年こゝで見ましたが、彼は實にフライン・プレーヤでしたよと附け加へ

た。之を聞いた私は心申すまま、日本の政治家も、實業家も、はたまた學者でも世界の舞臺では一清水君の名聲には遙かに及ばないのではないかと、痛切に感じなければならなかつた。

さてウインブルドンはロンドン西南鐵道といふものゝ沿道で、都への郊外市であつて、先づざつと東京の大森か、大阪の濱寺と云ふ格だ。そうして有名なオール・イングランド・コートが、この公園にある。その規模頗る壯大だ。このコートの數はすべて十幾つもあるだらうと思はれた、その内、中央コートと云ふのが、今年初めて出來上つた一大圓劇場式で取り巻かれてゐる、だから、宛で羅馬のコロッセムだ、これには初めて見た何人も驚かれやう。勿論演せられる物が物であるから、かのポーロー・グラウンドほどにはないが、優に一萬人以上の觀客を容れうる。一庭球の試合がそんなに多數の人を惹くとは一寸思はれまい。しかし實際屋根つきで拵らへられてある座席だけでも六七千もあらう、これらはすべて番號附で、前以てレジスタ出來る。その外にコートの直接附近を周ぐつて屋根なしでおつ開いた部分に、試合當日毎に賣り出す座席と立見場所とがある、これらは毎日十二時半に賣り出す、開技は二時だ。私の行つた日、前記の豫約出來る座席はすべて前日までに賣

切れて仕舞つてゐる。されば突然行動を起した私は勿論當日賣出しの切符買ひに走らなければならなかつた。グラウンド附近に着いたのはたしかに尙ほ十一時前だ、その時既に自動車を飛ばして來るものが續々あつた。さうして賣出しのある二つの入口ともに老若男女の群集は長蛇の陣を作つて待つてゐる。その内女は随分多く來て居て、私の眼に映つた所では、或は男よりも多からうと思はれた。それで私は辛じて試合開始前に入場しえた。して見ると私は二時間半以上立ちつくしたのだ。それでも私の贏ちえたのは、やつと立見の席で、私は尙ほ試合をぶつ通ほして數時間立ん坊すべしとの宣告をうけた譯だ。それもその筈だ、翌日の新聞をみると、この日切符買ひにかけつけたのは、イの一番が夜明けの六時ごろ、それが八時頃には二百人に達し、それから二時間立つと早くも四千人に殖えたと云ふのだ、私の立ん坊は寧ろ勿怪の仕合せとしなければならぬ。或座席券は四五ポンドまで糶り賣りされたと聞いてゐる。さて入つて場内を見渡す、さしも廣大なアレナの周圍の座席といはず、立見席の如きは通路まではみ出て、守衛は制止あぐんでゐる。實に同じ新聞には總見物人一萬五千と註してゐる。これはこの中央コートの設備者にも思ひがけない事で、この勢なら、この二倍の産席と餘地とを作つておいたとて決して十分で

なかつたらうといはれてゐる。これ程までにテニス趣味が一般社會に普及し、それほどまでに今日この地のトルナメントが世界の公衆の熱狂を惹いたのである。

勿論こんな大人氣を呼んだのは、先日来、男女の各單及複試合と男女混合複試合とが、いづれも數日に互つて幾たびか繰返して戦はれた結果、昨今多くはその終局に近づいたから*。

殊に最後の試合は本年婦人選手權争ひのファイナルである。



テニス合戦の背景

*で、就中、今日中央コートでは第一フランスとベルギーの選手の複試合第二、先年の選手權保有者バタイン対アンダーソンのセミファイナル試合、第三、昨年の選手權保有者佛人シユザンヌ・ラングラン嬢對米國の選手マロリ夫人

これには一年越しの曰くが附いてファンの興味を惹いてゐる。といふのは、昨年ラングラン嬢がウイアンブルドンから凱旋した後で、大西洋を渡り、そこで米國選手權の保有者マロリ夫人と顔を合せた、これで眞に全世界の女流選手權が決定される譯であつた、が、フランスの少女は不幸にも第一セットを失ひ、病氣のため退場してから、爾來世界の問題となつてゐるのである。さうしてその眞の解決が今日ウイアンブルトンで行はれると云ふ譯になつて來たのだ、何故なら今回はマロリ夫人が完全な勝負で天晴覇權を握らうとて、みづから海を渡つて來てゐるからだ。それだから溜らない、人氣の沸騰したのも當然だ。就中婦人客の多いのは怪しむに足らない。現に私等の居るコート脇の無蓋の席などに居る婦人は多くはレインコートを用意して甲斐々しくも又勇敢だ、第二の試合の途中、けふもふりだした大驟雨のために、試合は中止となつた一時間と四十分と云ふのを、彼等は男子と同じく、座席を失ふまい、さうしてバタインとアンダーソンとの何れが果してファイナルに入りうるだらうか、別してはシユザンヌの活動振りを見なければならぬ、いやマロリ夫人は如何に確實に彼女の覇權の掌握を證明するために、健闘するだらうかと、だら／＼ぶりの雨中で、辛棒強くも立ん坊して、試合の再開を今か／＼と待つてゐる。

祖國の若き人たちよ、これは日本婦人には到底想像出来ない圖だ、此日圓劇場の北向の貴賓席には、國王ジョージ五世皇后アレキザンドラ兩陛下も入御された。それから、ポルトガル國王も見えた、バルフォアもアスキスも來た、その他の名士も雲の如くに集つて居る。彼等の多くは夫人又は令嬢同伴だ。眞にこの日の觀客は英國の上下貴賤老若男女を代表してゐるのみならず、多數の英國植民地人、米國人、大陸諸國の人を網羅してゐる。要するに見物人までが世界的だ。

若き人たちよ、試合そのものについて多くの報道を私から要求する勿れ、それには、私は多くの時間を持たないから、只第一の試合については、ベルギ選手ワットソン及びワットソンが勝ち、第二に於ては、バタソンがファイナルに入つたと云ふだけで私を容赦せよ。但しこの第二の試合については、英國選手ライセットは現に前日にファイナルに入つてしまつてゐるから、バタソン對アンダーソン（何れも濠洲人）のいづれが勝つかは、頗るイギリス社會の深い注意を惹いたらしい。兩選手とも脊の丈け六尺前後と見える偉大漢だ、その中でもアンダーソンはたしかにそれ以上だらう、しかしバタソンの軀幹は少し低いが敵よりも嚴丈に出來てゐる。この人の打ちおろすサーズは痛快にして確實だ、それが第一サーズをフォールトし

てもだ、第二に於ても尙ほ頗る猛烈な勢で這入り、その威力はアンダーソンの第一サーズに劣るまい。彼が遂に三對二セットでよく克つたのは、主として彼のこのサーズの武器に因ると考へられる。しかし、最後の婦人試合については私は多少の報道を要求せられると信ずる。抑も此の日、既記の如く驟雨が全體の進行を妨げたから二人のスカート姿がアレナに現れて來たのは、既に七時近い夕方であつた。北國の夏とて日影はまだ十分にあつた。されば待ちにまち焦れてゐた一萬五千の觀衆は鯨波の聲をあげ拍手して兩女戰士を迎へた。見るから——いや私の見て居るのは、無蓋の場所からであつたから、頗る近い距離で凝視めることが出來た、で私の觀測は頗る確かな筈だ——ラングンは白哲圓顔にして隆鼻巨眼而もブルネットて眞黒な髪をふさ／＼と束ね、その上から燃えるばかりの眞紅のターバンを締めて雄々しくも又可憐に見える、それに、白フランネルのスウエタに、同じ色の何か輕快な短いスカートの扮装だから、中々引き立つ、要するに如何にも南歐人、いや全くフランスの少女だ、それが豊かな頬と愛嬌ある口元から笑みを漏らして、貴賓席を見上げ、その他の見物人にも、然るべく挨拶する、その風情は中々趣がある。相手のマロリ夫人も勿論年若で、顔面に焼けてきり／＼としまり、身體いとも強健に見えた。さ

うしてごちらかといへば、人種の類型はラレングランと同じく廣義のブリュネットに屬するが、しかも仔細に見るとラングランとは違つて、その髪も皮膚も寧ろ褐色がちに見えた、それに黄色の鉢巻、白スカートとの上に褐黄色のスウェタと云ふ扮装だ、思ふにその名から考へて見ても、彼女は米國のアイランド人か。されば二人のチャンピオンは其甲斐々々しき勇ましきはいづれ劣らなかつたが、恰好、風采、色彩、服裝に於て可なりに顯著な好對照として現はれて來た。

さてこの二人の試合は、前回のバターソン對アンダーソンのに比して、さすがに女性のだ、頗る溫和に如何にも優美に見えた。勿論一つは、前回のが餘りに痛快に猛烈だつたからであるかも知れない。ともかくこの試合は始めから終りまでを通じて殆ど全くベースラインからの打ち合ひであつた。ネットプレーは殆んど無かつたと記憶する。思ふにもう一つは兩方とも大事を取つたのだらう。しかしサーブはいづれも立派だ、殊にラングランのフォームは見事だ。彼等は虚々實々、互に相手方のすきを狙つて打つた、殊に互によくバックを衝いて互によくバックを返した。さうして前に落ちた球を拾ひ上げることも中々巧妙だ。だから球は随分長く往來した。全體の技倆から察して、日本内地の選手男子たちも、若し立合つたら、若干を

除いては、多くは苦戦しなければなるまい。それで最初のゲームの四五回は殆んど互格に進んだ。雙方の妙技毎に喝采が起つた。この勢ひではどうなることかと、満場の見物人は一時は片唾を呑んだ。現に私の附近からは柔しい金切り聲で、ホアツト・ハブンドとか、ハウとかアアとか切りに叫ばれるのが聞える。されども一回一回ごとにラングランのねばりと作戦は優勢を告げて來た。「まあ何たるスユザンヌの勇ましさよ」の贊辭がところ／＼から、別して婦人客の口からしば／＼喝破される。それで最初のセットは六對二、第二のは六對零、但しその内のゲームでは／＼デュースを重ねた大接戦もあつたが、所詮二對零でフランスの女流チャンピオンは再びウインブルドン世界選手權の名譽を保持し、又昨年米國に於ける辱を雪いだ。その瞬間の拍手喝采は非常であつた。すると直ぐ若き二人は互にネット際へ馳せ寄つて堅い握手を交はし、形の如く敗者の方から勝者の天晴れの勝利に對するの祝辭を述べた。この刹那に兩人が言ひ交はしたと報道されてゐる挨拶は、やさしみの裡に尙ほ薔薇のとげがある。それはかうだ、「昨年あなたの方へ参りました時、私は加減が悪うござりましたね」それを受けて「あの時私があなたに勝ちましたやうに、今年は貴女が私を負しました」。

やがていざ退場といふ瞬間は宛るで劇だ。黄昏るゝアレナの真只中で勝利に誇つたフランスの少女は、さらでだにドラマツクな態度を一しは發揮し、雙頬に溢るゝ嬌焉やかさで、且つは優にやさしき而も派手やかな手まねと身振とで、折から満場から、貴賓席からもだ、浴びせられる拍手喝采を受けつゝ、コリドアの方へ消えて行つた。再び言ふ、宛で羅馬の昔もかうかと思はるゝばかりの劇だつた。これは私が後から傳聞したことだが、この時コリドアでは、數多のフランスの若殿原は勿論のこと、その國からの少からぬ淑女紳士たちが待ち受けて、われもくゞと健氣なユザンヌの豊頬に熱い接吻の雨をなげかけた。しかし、この瞬間に尤も心から喜んだのは、連日付き添うてゐる嬢の兩親たちであつたに相違ない。別して父なる人は愛嬢のために影の形に隨ふが如く、いつでも如何なる場合にでも付き添うてコーチしてゐる。彼がユザンヌに與へた格言として傳へられるところは、一種の教訓である、曰く「汝の力で勝たうとするな、敵自らのゲームで勝て」と。さうして、かくの如くして彼の愛子が最後の月桂冠を戴いたのだ。

若き人たちよ、想ふても見よ、このラングラン親子が、かくの如く、ウインブルドンウィンブルドンの天晴の勝利の夕に、相互の心のうち深く感じ得たと思はれる、それと同じや

うな幸福を享けることの出来る親子はひろい世界に幾許かある。私は同じやうなど言ふた。それが單にスポーツの場合のみを意味するのではない、祖國の若き人たちよ。

一九 ドーヴ 飛行の今昔

倫敦からドーヴへは、先年はチェアリングクロス驛發、トンブリッジ經由で行つたこれは内地を走り、ドーヴニ近い海水浴場フォルクストンで、始めて海に出る。今回はウォータロー驛發、カンタベリー經由であつた。これでは、先づ大倫敦の南郊を斜に馳せるから、かの水晶宮の立つて居るシデナムの地下の長いトンネル抜けて、かのグロートの生れたベツケナムへ出る。このベツケナムから東は即ち有名なケント縣の豊饒な平野である。ケントは歴史上からいへば、最も早く大陸の文明に接觸した地方で、羅馬のガリアを經略するや、この地、シーザルの遠征の目的となり、基督教のアングロサクソン教化も亦たこの地より始まつた。見わたす限り満目ホップ栽培の畑で、町村、田野極めてよく整頓し、英國田舎の富を代表し、これをドーヴ上陸後の北フランス沿道に比して非常の差を示す。途上、エリザベスの創立にかゝる王立船渠で有名なチャタム市を過ぐ。即ちこの線は多く東海岸に近い方面を走つ

てゐるのだ。

この線上の主要驛カンタベリーには、下車し得なかつたのを遺憾に思ふ。この地、羅馬時代のドウロウエルスムで、アングロサクソンの侵入定住以來今の名となつた即ちケント人の市の義である。羅馬法皇グレゴリ一世に派遣された聖オーガスチン（天國の著者オーガスチンでない、それとは區別してカンタベリのといふ）五九七年こゝでケント國王イーセルベルトを教化してこゝの大監督となつてから、この地は英國教會の最大本山となる、只だヨークのみ北方に對立するも、尙ほ全國首班はカンタベリーに在る。爾來幾多の名僧こゝに鎮座し、例へば中古ではランフラン、アンセルム、トーマス・ベックト、ステフェン・ラングトン、近代では教會改革時代のクラメル、ビュリタン革命時代のロードの如き、英國の教化、時としては政治、憲法の問題に多大に關與し、カンタベリの名人口に膾炙してゐる。現在の大伽藍は原地域に於ける第三回目の建築で、十一世紀の末つたランフランの時建立に著手し、一四九五年まで、約四百年間にて竣工し、單に建築史上からいつても、世界の名刹の一つである。この地、かの古來有名な「巡禮街道」の上にあることは勿論であつて、遠く大陸へ赴き得ない者は、この大伽藍を以て巡禮の最大目的とした。近代英

文學の始祖、倫敦兒、チヨースが、當時の浮世鑑ともいふべき「物語」を語るに當つて、このカンタベリー參拜を假つたのは、當然である。

ドイヴがヘスチングス（一〇六六年ノルマン征服の決戦地）、ロムネー、ハイス及びサンドウイツチと相並びて五港と總稱し、近代まで海軍を出す特權を有つてゐた誇ある市であつて、今日は他の四港を擱んで、海峡に於ける軍事上又た交通上重要港となつてゐることはいまでもない。私はこゝから先年はオステンドへ、今回はカレーへ、前後二回海峡を横切つた。この海面は對岸のダンキルク、カレー、ブローヌなどの諸港と相映つて、百年戦役、アルマダの役、英蘭の衝突、それから又「近世の百年戦役」に於ける馳聘場裡だ。最近の世界戦役のそれはいふまでもない。されば、ドイヴを出帆して、英國海岸特有の眞白に露出する石灰岩壁の影の見えなくなるまで、アルピヨンの別を惜むだ時、私は幾多の歴史上の聯想を禁じ得なかつた。だから、語るべきもの太だ多いのに苦む。この際私は、私の印象と思出の内から、飛行の今昔を取り出すのが、最もよろしからうと思ふ。それには、私が十三年前に物したものを、そのまゝ引用する方が、却て面白からう。

時は明治四十二年、西曆一九〇九年の七月、場所は勿論倫敦であつた。私の印象

は次の如く書かれて居る。

近時諸強國間の通商植民上の競争大いに起る。就中、ドイツは新興帝國の勢を以て銳意海軍擴張に従事しつゝある。英國はかねてから自己の海上帝國維持策として立て、居た對二國標準が、どうやら覺束なくなつて來たのに、今更のやうに驚き、自分も海軍擴張の必要を感じた。それでこの問題は現に目下開會中のウエストミンスタ議會で大いに議せられてゐる。大藏大臣ロイド・ジョージもそれで大童になつてゐるのを、私は先日傍聴した。それで政府は大西洋艦隊を招致し、内國のそれと聯合し、ドレッドノート以下百四十九隻の大海軍が、倫敦市長の招待に應じて、テムズ河口を訪問してひろく國民に觀せるといふ計畫を立てた。これがベーンゼントとて親みのある名で、ネーヴル・ベーンゼントと稱されて、一般民衆の心を唆るやうになつてゐるのは、巧妙な宣傳だ。十九日、タワーに遊んだら、その橋側に逐驅艦二隻潜水艇の母子各一隻づゝ繋留して一般に示すを見る。大艦隊は既にその前日から河口一帯に集屯してゐたのだ。二十三日 郵船支店は偶入港中の北野丸を利用して、花客先を招待して觀艦會を催した。私たちはI君の好意で乗込む。一同前夜より乗船して河口へと下る。久邇宮兩殿下、加藤大使等内外の賓客無慮五百名に上る。夜

明くれば船は既に河口外にあり、朝チルベリから出發してサウスエンドに向ひて回航し、これにて全艦隊を一週觀覽し了り、夕方歸著す。市がこの機會に編纂公行了たブログラムはその序説の内に注目すべきことを記して居る。これは、一六六六年オランダ海軍がテムズ河口を深く侵入して倫敦市に砲撃を加へたといふ、極めて不祥な歴史を繰り返し、若し今日このオランダの代りに或る他の國が同じ無禮を加へるとしたらば、倫敦市民は果して枕を高くして眠りうるかと反問し、又た半世紀前に、自由貿易の鼓吹者コブデンがその選舉區民に向つて「若しフランスの國民の政府がわが英國と同等になるやうな海軍擴張の計畫を立てたならば、自分は之を容すことが出來ない、たとひ一億磅の豫算といへども、必要な限り、繰返して協賛を辭しない」と告げたのを引用し、若し今日この佛國民の代りに、現に吾人の通商を窺ひつゝある如何なる他の國民を以てすべしとするも、コブデンの主張は永久に眞理たるを損しないのである。以て當局が、このネーヴル・ベーンゼントを舉行した深意の那邊に存してゐるかを洞案すべきである。海上に於てその名に負へる「何物をか恐るべき」ドレッドノート式の巨艦、及びこれに伴ふ有ゆる海上施設が、從來のまゝだけでは、今は不安となつて來た。加ふるに近時空中飛行が擡頭しつゝある。中

にもドイツでは昨年来ツェッペリン伯の飛行船が成功したとの報道が來てゐる。ツェッペリン船はドレツドノートの殆ど四十分一の費用で作られ、如何なる今日の海軍砲も有功に射撃しえざる高度から、二十五個の水雷を積載して六百哩を飛び來り、水雷又は壓搾有毒物を下方の軍艦、砲臺、市街に投射しうべしと説かれた。それでは水面ばかりでない、空中からも危険が迫りつゝある。かくて詮するところ英國海上帝國の防禦の安否が、ますます目下の大問題となつてゐる。

されば一面は、大陸の國が果して空中からアルビヨンの浦安き國へ到達しうるか否やが、先決問題となつて、昨年十月以來倫敦のデーリメール新聞社は一千磅の賞を懸けて、空氣より重き飛行機で、日中に海峽を飛び渡る者を募つた。苟も最高文明の開拓者を以て自任するフランス人である、彼等の内からラタムとブレリオとが現はれた。彼等は英國海峽の梶原佐々木である。彼等は先陣を争ふた。この七月、ラタムはカレーに在つて無風快晴の機會を窺ひつゝあつたが、十日の朝思ひ切つて出發したが、前距離の四分の一を進行したところで、海中に下り、救護艦に身を托しなければならなかつた。月の二十五日、ラタムの失敗から二週間後、この日の末明ブレリオ蹶起し、約三十分間飛行して首尾よく二十三哩の海峽を渡りてドーワに達

し、同地人民の寢ばけ眼を驚かした。ラタム之を聞いて男泣に泣いたが、思ひ直はして敵に祝電を發してその成功を喜んだ。何はさてこの一躍は天下を衝動した。巴里では恰も新内閣組織の係争中であつたが、朝野共に政治問題そつちのけとなつて擧つて當の英雄の凱旋を歓迎し、これにレジョン・ド・ノールを授けた。翻つて倫敦では、そのデバートメントストアの一であるセルフリッジの店主はこの報を聞くや早速ブレリオに掛け合つて、その機を倫敦に取寄せ、翌二十六日から店の地下室に置いて公衆に展覽せしめた。私は馳せて之を見る、恐らくば日本人としてイの第一番であつたらう。この時觀者は長蛇の陣を作り一丁四面の店を取りまいて尙ほ餘つてゐる。私はやつこの事に入りて檢するに、機は單葉にして誠に簡單なるに一驚を喫した。即ち全長二十四尺半、後尾に機の左右方向轉換用の舵機と、舵機の下に、機の昇降用の小板とが具つつけ、前頭に二十四馬力のアンザニ自動及び推進の機械一個、並に七〇リットル(約三斗餘)入のガソリン容器がある。而して機體の前方兩側には全體を空中に於て支持するために二個の大きな薄板を具ふ、各板巾六尺長十四尺、その状態は鳥の兩翼の如く左右に張り出す。機全體のフレームは木材及びアルミニウムにて作り、上に述べたる大小の板及び舵機は油を塗布した薄絹にて張る。

乗者は一人前頭に乗る、全體の形は鳥又は蝶に似、重量は乗者共に約七十二貫、比重無論空氣よりも重い。これフランスの天才の一發現だ。凡そ創作に於ては、英國人は佛人ほど得意でない。飛行に於ても、英國人よりも、却て米國が偉い、こゝではライト兄弟あつて、佛人と月桂冠を争ふてゐる。英人なるもの一番の奮發を要する。さればブレリオの成功は非常に英國の社會を感動せしめ、即日、その貴族デ・フォレスト男は四千磅を懸けて、英國製の空氣よりも重い飛行機を以てブレリオ以上の速力を出して英國海峡を渡るべき英國人を募るの旨をデーリメール社に申出で、同社も亦た懸賞一萬磅を以て倫敦マンチェスタ間(百七十哩)の飛行者を求むるの旨を發表した。抑もブレリオのドーヴ海峡飛越は飛行界に一新紀元を開いたものだ。さらぬだにドイツの海軍擴張のために不安を感じつゝあつた英國の島國性に更に一大不安を加へたことを實地に證明したのである。ドイツがその強大な海軍と新に成功を告げつゝあるツェツペリン飛行船とを以て水上と空中との雙方から英國を攻撃するの目が出てくるかも知れないといふ不安である。この點に於て、ブレリオのドーヴ海峡飛越は、かの前述のテームス河口に於けるネーヴル・ベセントと殆ど同時に相並びて、ブリタニア海上帝國の國防上警戒の示威の用をなしたともいひうる。

月の二十六日、大艦隊が辛うじて倫敦訪問から引揚げて、市民の念頭には、海上問題の雲が棚引いて居り、その上にブレリオの來訪によつて更に空中侵入の豫感を抱かさしめられた時、ウエストミンスターでは、一議員の口を籍りて、飛行機購入の計畫の有無が質問され、陸軍大臣ハルデーこれを首肯し、又た同日海軍大臣マッケンナは一九一二年までに超ドレッドノート四隻建造案を提出説明し、全院の傾聴を惹いたのである。

以上は當時の印象記そのまゝである。之を五ヶ年間の世界大戦役を中に夾むだ今日までの變化と現状とに比べるならば、種々相異なる方面から、多大の今昔感を催さざるを得なからう。國際關係からも、國防問題からもだ。しかし、それらは俚置き、單純に飛行問題として考へても非常の變化に驚かざるを得なからう。大西洋も飛び越えられた。歐洲から濠洲へ飛んだ。羅馬から東京への訪問も實行された。而して今は雷に只だ戦時の用ばかりでなく、又た一時の快を貪るの具に止らない、寧ろ實用に近かしめやうと努力されてゐる。現に英佛獨間では重なる都市の間で定期旅客運搬に供されてゐるではないか。

二〇 巴里の雜觀

巴里は羅馬時代のルーテチア・パリジオルム、即ちパリジ人のルーテチアと稱する市から始まつた。パリジ人とはガリア人の一部落であつて、當時このセーヌ河の中流地方に散住してゐた。その内でも、この河中の一つの島で、今日シテと稱する部分を根據として町を作つた。羅馬人はこれをパリジ人のルーテチアと呼んだが、時と共に人民の名の方が残つて来て、今の巴里となつたのだ。

シテは、つまり巴里の「中の島」である。昔はいざ知らず、今日では長、^{アルシュニク}監督橋から新橋まで、千メートル、巾廣いところで三百メートルに過ぎない。羅馬の支配者も、羅馬の支配を繼いだフランク王國のメロヰング王家も、みな相ついでこゝに住居した。こゝには、羅馬帝國が基督教會化した紀元後第四世紀當時から、早くも今日のノートル・ダム大伽藍となるべき教會が建立されてゐた。九世紀の半すぎ、北方の野蠻人で諸國に向つて海賊の出稼してゐたノルマンは、當時衰へゆくフランク帝國を犯したが、このノルマンの侵入の絶頂點は即ちこの巴里の圍であつて、つまり、このシテといふ島城を攻めたのである。これで西歐の發展史上一大エポックを

作つたことは、世上によく知られてゐる。この圍から間もなく、流石のノルマンも基督教に轉宗し、セーヌ河口に收容されてノルマンチ公國に封せられ、今後信仰にも武勇にも名高いフランス武士の中堅となるべきであつた。今日、巴里から急行一時間半程の河下にあるルーアン市は即ちその首府で、ノルマン武士の遺跡遺物を保つてゐる。これと同時に注意すべきは、如上のノルマンのバリ包圍に對して、よくこれを勇最に防禦して遂に撃退した土豪の内に、バリの知事（バリ伯）^{ゴット}オードーといふ人傑が居たことだ。この人の成功の御蔭で、彼の一族の内から、間もなくこの地方に割據獨立するだけの武門が現はれ、十世紀後半ガベール王家として確立し、爾來、よしやその相續につきては多少の経緯はあるにしても、ともかく大革命の時まで八百餘年間同一の王統が連綿と繼續すべきであつて、それでフランス中央集權の基礎となつた。かくの如くして、フランクの羅馬帝國の内から換骨脱胎してフランスの名を負ふ、どちらかといへば、矢張り羅馬風な一大王國が、西方歐羅巴に起るといふ世界的發展があるのだ。この島は威張つた名であつた。之を核心とする今日のセーヌの縣に、中古以來、王政時代を通過して、イール・ド・フランス（フランス島）といふ傲慢な名を與へて、他の封建諸領に對立し、フランス王國のいは

心臓として鼓動し、王國統一運動の中心地方を形作らしめて居た。猶ほ古代に於て、チベル河畔の羅馬クワドラータがラチウムの中心となり、ラチウムがやがてイタリア統一の中心となつたが如きである。またシテは、今日こそ最早巴里の生活の中心でなければ、その起源と發達とに於ては、倫敦のシチに當り、その大伽藍ノートル・ダムは正さしく聖ポールに比すべきであつた。

但し、倫敦の古城(タワー)が早くから王の住まないやうになつたと同じく、シテの王宮も新に對岸にルーヴルが建てられ、その跡は中古末から巴里高等法院となつた。これは大革命の時までフランスの憲法史上入釜しいものだ。今日はバレー・ド・ジユスチスとなつてゐる、随分大きな複雑な建物だ、その内、國王の建てた古建築で残つてゐるのは、只サント・シャベル(王宮の祈念寺)、その他僅かしかない。

拉丁區 巴里の擴大

島だけでは、榮えゆく巴里の生活には手狭と感せられたのは、随分古い昔であつたらしい、それで早くから河の左右(南北)兩岸の濕地を開拓して建築の經營が始められたらしい。右岸には町が出来た、これをヴィーユと呼ぶやうになつた。今日そこにオテル・ド・ヴィーユ(市役所)があるのは、この發展を象徴する。左岸はそれと

は違つた傾向を取つて發展した。それはこゝにカルチエ・ラタンが出来ることだ。

今日サン・ミシエル橋から南へ歩むこと七八分程に、クリュニ博物館、實はオテル・ド・クリュニがある、本とベネチクチン教團の一本山として中古の文化史上有名なクリュニ(ブルゴーニュ地方にある)派の管長が、一派の巨富に任せて、自分の都住居の料にと建てた御殿であつたが、大革命の時沒收されて國家の所有に歸した。今は博物館となつて、美術と工藝とに關する古物を澤山珍藏して有名である。普通の漫遊客には、單にそこに陳列されてゐる十字軍時代の遺物の内に眞操防護用の錠前附紐帯がある位で、持囃されてゐるらしいが、仔細に觀覽すると津々たる趣味の出る博物館である。こゝには羅馬時代の浴湯テルマイの殘墟があつて考古のよすがともなる。これに關連して西方の鎮將コンスタンチウス・クロルス(コンスタンチン大帝の父)がこゝに本陣を構へてゐたと稱される。その事實如何はさておき、コンスタンチン家の最後であつて、古典と基督教と、新舊信仰の衝突の移變り目に立つたロマンチックなジュリアン「背教者」の帝位に即いた場所が、こゝであつたことは確かだ。このクリュニの遺跡ばかりでない、否なそれよりか大事な考古學的歴史的發展が同じ左岸方面に見られる。といふのは、こゝ一帯に早くから寺やら修道院やが増設

され、學林も出來て、今尙ほ幾多の昔を偲ばせる建築物が多い。こゝに醗酵された教學の空氣の裡から、十字軍時代の初期、十二世紀の前半といふ早い、窮屈な社會に、アベラールといふ學僧が出て、スコラ學者として、尤も自由大膽な思想を吐いたこと、又た彼が若き女弟子エロワーズと自由戀愛に落ちたことの如き頗る近代的なローマンチックな現象は、全く當時の巴里の教學壇が如何に時代を抽んで進んでゐたかを物語るのである。因みに二人の比翼塚は都の東、ペール・ラ・シェーズ墓地に在る。やがてサン・ルイ王の時、王の祈禱僧ソルボンが建てたので(一二五三年)、その名を負ふソルボン學問所も出來、これ今日の大學の前身である。その後、その隣にコレージュ・ド・フランスも組織され、巴里の學事がますます盛んになつた。それで、中古末期には、巴里大學は、歐洲の、よしや最初でなくとも、最大最進の學林となり、世界の碩學來つて講じ、天下の英才の集るところとなつた。つまり、シテの左對岸地は古來學徒の集り住むところで、所謂拉丁區カルチエ・ラタンとて、ミューズの兒らの町となるの運命を有ち、今でも現にさうである。それでこの區はシテについて最も古い巴里であるといへる。その右對岸が、上に述べたやうにヴィーユと呼ばれたに對して、こちら側が中古以來起つた傲慢な名稱のユニヴェルシテと單に稱せられたこ

とがあるのも、偶然でない。

拉丁區カルチエ・ラタンの建築上目標は萬神殿パンテオンである。これは左岸全體の内の最高地點である巴里パリスケ岡ド・パリ(海拔六〇メートル)、巴里全體の最低は二五メートル、最高はモン・マートルモン・マートル二九メートル)の上に建てられた高八三メートルの大建築であるからだ。その恰好は羅馬のパンテオンを思ひ出さず。而して由緒が亦た頗る古巴里的なところ注意に價す。巴里の守護女尊者である聖ゼノウエセント・ウエ(五世紀)の墓が本どこの岡の上に拵へてあつた。それが壊れたから、十八世紀に再建して出來上つたのが今の建物だ。但しこの時偶大革命起り、その最中に、國民議會はこの新しい尊者の墓を一個の萬神殿パネオンに變改した。と言ふ心は祖國に功勞ある諸名士をこゝに合葬せうといふのだ。それで、その時大革命の收拾を自任したミラボーが暴かに死んだから、この英雄は眞先にこゝへ入れられた。これが抑もの始である。しかし、之より先に死んだ二大革命新文豪ウオルテル及びルソーも亦た間もなくこゝへ配祀されてゐる。中ごろではウイクトル・ユゴーがある。二十世紀に入つてからは、化學者ペルトロー及びその夫人、文學者ゾラもあるといふやうな次第である。尙ほ殿内には苟もフランス祖國の名譽に關する歴史的事績が、壁畫や彫刻やで記念されてゐる。例へば百年戰爭

の危機に、少女ジャヌ・ダークの神來を感ずるところの如き、大革命の國歩艱難期に於ける國民協議會の會盟の如き、いづれもフランス人ならずとも、見る者をして感動せしむるに足る。これは、倫敦のウエストミンスター・アペーのやうに寺でないから、隨て、ここでは式や説教は行はれないけれども、國民の選良か長へに神集ひにつどひすむ*

拉丁區は、今日、左岸市中の東部を占めてゐる。次にその西にサン・ゼルマンの區



念紀ルナヨシナ・ンヨシンヤンゴ・ラ ンオテンバ

*即ちいは、國葬院とでもいふべき性質のものとしては相似てゐる。だから、この萬神殿は上にいつたやうに拉丁區の建築上目標であるばかりでない、精神上からいつても、この巴里の教學區域の何よりの象徴といつても差支なからう

が出来た。こゝにも随分古刹がある。例へばサン・ゼルマン・デ・ブレ院の如きである、殊にこれはベネチクチン教團の一派に屬し、その學僧マービヨンらの研究によつて近代古文書學が起つて有名である。そこから正南へリユクザンブル公園へゆく途中に、十二世紀に劍められた聖シユルピスがある。但し今の建築はルイ十四世時代のもので、左岸で最も富麗な寺院である。その前の廣場に、ルイ時代の有名な説教者ポスユエーやフェヌロン、その他の立像がある。

一體巴里は何の方向に尤も多く擴がつたかといふと、それは西方だ、即ち河下に向つてだ。この左岸市でもさうだ。こゝの方面の西部は最初廣大な野原で、フランス時代から軍隊の集合や訓練に用ゐられて居て、古代羅馬カンブス・マルチウスに當るれものであつて、今日のシャン・ド・マールと稱して昔の名残を留める。その河岸に二十餘年前の博覽會以來、べらぼうに高いエッフェル塔が矗立してゐるのは、巴里見物道者のよく知る所である。

右岸で、オテル・ド・ヴィーユから下つて、サン・ゼルマンの對岸にルーヴル王宮が出来た。この基を据えたのは、カペー家の明君フィリップ・オーギュストであつた。少くも彼はこゝに築城したのだ。彼は申すまでもなく十二・十三世紀の交に治世し、

かのノルマンデ出身のイングランド王家のフランスに蟠つてゐる勢力を撃破し（就中、一二一四年、フランドルに於けるブーヴィーヌの役）、又たアルビ十字軍の實行者となり、南北統一の基礎を鞏めたので有名であつて、オーギュストの尊稱も溢美でない。彼はセーヌの兩岸に亘つて頗るひろく、かのルーヴルを含めて、周壁を作り、以て巴里を且つは防護し且つは盛大にした。所詮、この王宮の創立と周壁の擴築は王國の發展の何よりの象徴だ。こゝに近代フランスと相並びて近代巴里の萌芽があるのである。近代巴里が、その後、十六世紀のフランスのルネッサンスに至りて始めて非常に發展し、爾來、ルイ十四世紀時代、それからナポレオン一世、次に同三世の時代に於て、各梯次的に一步又一步大躍を成して、いつでも、歐洲都市中の最大都市、天下の文明の中心を以て任ずるに至つたことは勿論である。

三 登 高

大都會を大觀して、その概念を得るには、高いところに登覽するのと、回遊自動車で見出しところを一瞥するのどに限る。それから後で、自分の選擇に従ふて然るべき局部々々をゆる／＼看ればよい。

巴里の登高といつては、その最高は無論エッフェル塔だ、しかしこれは俗だ、吾輩

などの趣味に合はないから、私は二回ともこゝには登らなかつた。その他は、飛行機は別として、大抵のところは盡く試みた。その他は曰くノートル・ダム大伽藍の塔上。これは奇怪な屋上屋側の裝飾の間から、いや人間界を馬鹿にしたやうな面構の怪物たちと一緒になつて、下界を瞰下すのだ。別して古巴里の中心から古巴里を一瞥し、セーヌの流を尤もよく見通し、橋々の趣、兩岸の有様を大觀するのはこゝに限る。曰くペール・ラ・シェーズの墓地の高所。これは巴里の東岡にあつて幾多偉人の永眠するところ、中にも、正門を入つた要の所に、一八九五—九九年バルトロメ作「死者のため」の記念彫群像は尤もあはれ深い。それはさておき、或る晴れた朝まだき、この墓地に登り、數百年來地下に眠れる諸靈を起して相與に、今しも朝日に輝く燦たる人界十萬の薨を睥睨するも、亦た一種の味がある。曰くレトワールの凱旋門上。これは巴里の西部の中心にある、この門が如何にして何に象つて出来たかは、いふも野暮だ、門内門側に刻してある地名人名を味つてみれば分る。登つてみると、門の立つ廣場から宛ら星の光を放つが如く、廣い立派なアヴニユが幾條となく八方に走り出し、近代巴里の最新街路計畫を眼下に直指してくれる。門そのものといひ、街路計畫といひ、兩ナポレオンの偉業と現代巴里兒の意氣とを示して

餘ある。それらにはフランス人の誇になる地名人名が附けてある。例へば真東には大ナポレオンの東プロシヤ蹂躪を偲ばすフリードランドが走る。このアヴニユのつゞきはブルワール・ドースマンでモン・マートルの下町方面へと走る。この町の名のオースマンとはナポレオン三世の用ゐたセーヌ縣知事だ實にこの人が思ひ切つて都市計畫を實行*クトル・ユーゴー、西には巴里最大公園の名のボア・ド・ブローローニユが走る、實にそ



望遠りよ上門旋凱-フトレ

*し、まだ中古的であつた巴里をば始めて現代化して、他の都市に對して模範を立てたのだ南にはイエーナ、クレーベルの如きが走る、その方向の遠くないところにエッフェル塔が聳え、トロカデロが見える。西南には文豪の名のウイ

の方向で極近いところに一大森林が見ゆるのは、それだ。尙ほウイクトル・ユーゴーの方向には、ボアの森の彼方遙かに、セーヌの對岸に、サン・クルー公園の森がほの見え、更にその蔭にウエルサイユがある筈だ。ウエルサイユはレトワールから一直線に約十五キロメートルの遠方にある。

だが、凱旋門上からの最大偉觀はシャン・ゼリゼー(極樂の野)の大通の方向だ、眞夏に觀れば、この大通自身が一個の森林のやうに見える、いや平生でも全く一大公園と見立て、よろしい。これを見通して遙かに木の間の上にブラース・ド・ラ・コンコルドのオペリスクが窺はれる、尙ほその先がチュイルリ苑、次にルーヴルだ。此ルーヴルまで約三十丁程の間が一直線に見透せて、その間に、左にシャン・ゼリゼー宮(大統領官邸)、右に大小の美術殿を始とし、幾多の記念的若くは美術的の設備がつぎつぎと並び立つてゐるのだ。このバースベクチーヅを天下第一の偉觀と、巴里人の誇るのも無理ではない。

まだもう一つ登高所がある、そして私は特に之を推奨したい。それはモン・マルトルの聖心院大伽藍の塔上だ。この岡は巴里の眞北に立ち、上に一寸注意したやうに巴里第一の最高點で、海拔一二九メートル、セーヌ水面からでも一〇四メートルも

あるから、塔上に登らなくても、眺望は非常だ。この岡の名が、軍神マルス又は交通の神メルキュリからか、たゞしは傳説中の殉教者の血を流したその名残であるかは別として、この地點は巴里第一の形勝である。古來巴里を制するに當つて、いつも重要視された歴史は言ふまでもない。宗教史では一つ注意する、イグナチウス・ロイヨラが、後東洋傳道に殉じたフランシス・ザヴィエー等同志數人と登つて神の爲に身を捧げやうと誓を結び、それで間もなく有名な耶蘇會なるものゝ起るのであるから、この會の精神的基礎は實にこの岡の上で築かれたといつて差支ない。こゝにも大墓地がある。

因にいふ、これは、近代巴里には前述のペール・ラ・シェーズと河南の郊外モンパルナスと相並びて、近代巴里の三墓地の一つであつて、大さと立派さとは第二に位する。人若し前に注意した中古巴里の比翼塚の外に、詩人ではミュッセ、ペランゼー、フォンテーヌ、モリエールの如き、文豪ではドーデー、バルザックの如き、美術家ではダヴィー、コロー、ドラクロアの如き、作曲家ショパンの如き、革命思想家アベ・シエースの如き、化學者ラウオアジエーの如き、歴史家ミシュレーの如き、歴史家にして政治家チエールの如き、政治家ではカシミエ・ペリエー、カルノーの如き、

將軍ではマツセナ、ネーの如き、富豪ロスチャイルド（これはイスレール部にある）の如きを吊はんと欲せば、須くかの東岡に朝すべきである。この北岡の地には、その設備は上に述べたものほど盛んでないが、カヅエイニヤック家がある、その内には一八四八年の將軍が居る、文學者にはゾラ、ヂュマ、それにドイツの變り者である詩人ハイネも居る、美術家では、ミレーも、グルーズも住む、又た異端の宗教家であつてセミチック言語學に通じ、耶蘇評傳で有名なルナンもこゝに永眠してゐるから、これらの間を逍遙するのも亦た思出淺くはない。

さてこゝに近時聖心院サクレ・クワールのローマネスク・ビザンツ式大伽藍が建立されつゝある。そのクボラは高八〇メートル。高きが上に高い譯だから、この塔上の眺望は殊の外に雄大だ。試みに登覽して眼を放つてみよ、南の方四キロメートルにあつて、かの萬神殿パジエンと相對し、全巴里市、それを越えて東、南、西の郊外まで遠く望まれ、西南十八キロメートル程の森の中は即ち近代史上巴里と相離るべからざるウエルサイエだ。

四 革命の巷 バスチーユ

巴里はしばしば騒動の巷となつた。近代では、一五七二年の聖バルトロメオの虐

殺、ルイ十四世の初年のフロンドの亂、十八世紀末の大革命、一八三〇年の七月革命、一八四八年の二月革命、それに普佛戦役の時の巴里の圍後のコンミュニンの亂、目星しいものだけでもこれだけある。それでもその間々には平和と繁昌との長い時期があつて、一段一段と發展し、中古の巴里は近代巴里となり、近代巴里は現代巴里となつた。その内でも、大革命は近代巴里の發展の、確かに一エポックであつた。それで、私は二回巴里に遊びて二回とも革命の巴里の昔を訪ねるのを樂とした。大革命當時の都は、西は今のコンコルド廣場から、東はバスチーユ廣場までを限とし、北は今の大ブールワールの線上にあるサン・ドニ門並にサン・マルタン門から南はロワイアル門までを限とした。だから北ではモン・マルトル、西ではシャン・ゼリゼー、東ではサン・タントワース、南ではモンバルナス、いづれも都の郊外にあつた。その頃の都の人口は合計六十五萬であつた。當時のフランスは王國であつて、歐州の最大の市であつた。其と同じく、六十五萬の巴里は歐洲最大の市で、優に天下の文明の中心を以て居つた。しかしその内人口十二萬人は公の救助費を受けて生活を維持してゐる。さうして都の大夏高樓の屋根裏に住む貧民と前記のサンタントワースの勞働者とを合して八萬人は職業組合に入つてゐないもの、即ち市民の權利なき無

頼人口であつた。大革命の結局がブルジョワシの勝利となるのであるのは、勿論であつたが、大革命の氣焰を揚げた勢力は、實に前記のプロレタリアに他ならない。當時いざ事がある、示威運動が要る、何かぶつ壊さなければならぬとなると、主としてこのサントワースから無数の無袴連サンキユットが潮の如くに湧き出して働いたものだ。彼等の最初の勝利はいふまでもなくバスチーユの破壊だ。この牢獄は恰どサン・タントワースから都への入口を塞ぐところに立つてゐた。こゝへ、一七八九年の七月十四日、カーライルの語を假りていへば「サン・タントワースは舉つて一人の如く慕進し」、遂にこれに乗取つて破壊し、革命第一の血祭とした。勿論武器掠奪が第一目的であつたのだ。ウエルサイユの深宮で、善良な國王が、バスチーユ陥落の報を齎らしたリアンクール公に「や、叛亂？」と叫びたるに、公から「陛下、叛亂ではござりませぬ、革命レウオリユションでござります」とたしなめられた、即ち、憐れなルイ・カペーが始めて革命といふ語を耳にしたのは、この日の夜であつた。バスチーユの破壊はプロレタリアの氣焰を高めた。ます／＼ウエルサイユの議會を動かした。そこでは一夜は電に打たれたが如く一切の特權の廢止が決議された。一日は人權が宣言された。秋十月ウエルサイユ宮中軍人に餉を賜ふた。巴里は飢えてゐる、「パンよ、パン

よ「ウエルサイユへ、ウエルサイユへ」の聲大いに起つて護國隊司令ラファイエットを促す。流石の「シビオ・アフリカヌス」も之を制し得ない。「サン・タントワームは大砲小銃持ったもの彼の先驅となり、あらゆる武器持ったもの又は何も持たぬもの、烏合の衆は彼の周囲を取り巻いて行つた」。その内には多数の嬖共も小供も居た。中には音頭取つたのは女丈夫テロアーニユ嬢である、革命のバラス・アテーネと呼ばれてゐる。一行はウエルサイユ宮中へ闖入した。王及び皇后ら王室を拉して巴里に還り、チュイルリに入らしめた。今は「バン焼手もバン焼の嬖も連れて歸つた」都はもう飢餓の心配はあるまいといはれる。議會も亦た後を逐ふて巴里に移る。このウエルサイユ行はバスチーユ破壊について獲られた亂民の勝利であつた。やがて牢獄を開き放つた鍵は大西洋を起えて、ウォシントンの卓上に安置せらるべきである（二〇六頁）。バスチーユは今はその名の廣場となり、中央に「七月碑」^{コロンヌ・ド・ジュリエ}が立つてゐる。これは、その後の革命、一八三〇年七月の市街戦の記念だ。さう高くはないが頂上の眺望は頗る廣い。一八四八年六月の亂にも、この廣場は一八七一年五月コンミューヌの亂にも、こゝは柵を築いて市街戦の巷となつた。だからバスチーユの廣場は、よしやレトワールやコンコルドやの雄麗は固より無いけれども、王政顛覆

から今日の第三共和國まで、フランスが辿つた曲折多い政變を偲ばしめる。それだけ、サン・タントワームは巴里の騒動と密接の關係を有つてゐた。今日は家具製造の主要地となつてゐる。尙ほ序にも一つ注意すべきは、「セウイラの理髮師」及び「アイガロの結婚」の著者ポーマルシエーの記念像が、バスチーユ廣場からサン・タントワーム町へ一寸入つた右側に立つて居ることだ。彼は巴里の時計屋の息子で、文筆でアンシャン・レジームを痛撃した快男子の記念としては、適所に置かれてゐる。彼の名のつくブーワールが、その近くに同じ廣場に注ぎ込んでゐるのも、好記念だ。私はサン・タントワームの氣分になつて、バスチーユから西へ同じ名の町を辿り、

オテル・ド・ツイーユはシテの對岸にあり、同じ名の廣場と共に、古來歴史上事件の舞臺となつた。中古末期、十四世紀の中葉、百年戦役の初期、市民のチャンピオンとなつて巴里の自由のために奮闘したエチアンヌ・マルセルの騎馬像が、オテルの一面の廣場に立つてゐるのは、巴里市民の自覺の頗る早きを思ひ出さしめる。それはさておき、大革命の時、市民の權利を主張する示威運動がはしく、こゝの河岸の廣場で行はれた。殊に、バスチーユ後三日、一旦ウエルサイユから拉し歸られた

國王が親しく三色の新色章を帽子につけてバルコンに現はれ、人民の歡呼をうけて一般を安堵せしめたのは、こゝだ。一八三〇年七月の革命にオルレアン公ルイ・フィリップがバルコンに現はれて、大革命以來の元老政治家ラファイエットと公衆の面前で相抱擁して示して民心を安堵せしめ、又は一八四八年の革命に、労働者の使徒と呼ばれたルイ・ブランが階段の上から新共和國を宣布したのも、みなこゝだ。

五 ルーヴル 革命場

ルーヴルの歴史は、近代巴里の發展の縮圖でもあり、隨てまた近代フランス國民の歴史の小模型と見立て、も差支なからう。それほどフランスの利害は巴里の一都に集中し、巴里のそれはルーヴル王宮に繋つて居た。ドイツの歴史ではさうは行かない、かしこでは國民が更に幾多の部に分れ、各部獨立の形跡が著しく、それで、今尙ほ聯邦の姿に残つてゐる。フランスは中央集權國だ。巴里は唯一最大の中心だ。昔に王政の時代ばかりでない、今日の共和國でも尙ほさうだ。而してルーヴルは巴里、特に近代巴里の心臓だ。こゝは少くともフィリップ・オーギュストから、ルイ十四世が晩年にウエルサイユに移るまで、カペー家の王宮であつたからだ。それから王政の顛覆と共にそこが世界無比の博物館と化して、遂に天下の學藝界の渴仰の中

心となつてゐること、その事は、美にあこがれ眞を求め、文明向上の努力に於て地球上の如何なる國民にも後れを取らないと自任する現代フランス人に取りて、何よりも應はしい現象である。所詮、ルーヴルはフランス史的だ、少くとも近代フランス史的である。

かく前置して、極古いことから稽へてみると面白い。ルーヴルの名は拉丁語ループス(狼)から來たルーバラの轉化であるといはれる。だから、昔の狼狩の時代の匂がする。羅馬フランク時代は必ずや狼の狩場であつて、カペ家の遠祖も尙ほこゝでフランス武士と共に狩くらしただけではなからうか。少くともこゝに獵の御小憩所があつたらう。そこが王宮となつたのは上に述べた通り、フィリップ・オーギュストの治世(一一八〇—一二三三)に始るらしい。少くも彼はこゝで或る若干の築城した。爾來歴代の手がしばしば加はつた。今残つてゐる最古いのは十六世紀のフランスの豪華を代表するフランソワ一世のものだ。次にカタリヌ・ド・メヂチ、ヘンリ四世、最後にルイ十四世のものが附加はる。つまりルーヴルはフランスのルネサンスの結晶である。現にベルニニ(一五九八—一六八〇)を首め當代イタリアの最善天才がルイに招聘されてこゝで働いて居る。當時半尙ほ少壯のクレストファ・レンが六箇

月間見學に來て本國に報道した手紙に「ルーヴルは私の日々訪問の目的だ。こゝに一千より少からざる人の手が間斷なく使はれてる、或は偉大な基礎を作る、或は階を重ねる、圓柱を建てる、エンタブラチュアを冠する、その材料は廣大な石片、その器械は大きい有功なのを用ゐる、或は大理石を彫る又は箴め込む、それから塗る、畫く、鍍金する、すべてこれ建築の一學園にして、恐らくは歐洲に於けるその最良流派を成すだらう」とあるのはこの時だ(一六六五年)。

かゝる間に城外のチュイルリが發展して、既に前記のフランソワ一世以來王家の所有に歸し、ルーヴルについて而も相並びて經營されて來た。チュイルリの名は、明かに瓦焼の竈を意味する、中古の巴里城外の田舎の職業生活が思はれる。それが盛となつて來たから、兩宮連結の企は王政時代に早くからあつたが、その完成されたのは帝國時代である。即ち、かのコルシカからの成上つた砲兵士官が、一躍してチュイルリ宮中の主人公となつてからである。その後、小ナポレオンも亦た偉大な伯父に劣らず建築好きであつた。今日のルーヴルには是等兩皇帝の手が大いに加はつてゐる。チュイルリの故宮は一八七一年コンミュニエヌの亂に兵火にかゝり、殆んど全部除去されて仕舞つた。だから、フィリップ・オーギュストから十九世紀まで數

へると、約七百年の星霜の間に、破壊、改築、増築、新築といふ幾多の勞作が重り合ふて、今日のルーヴルの變化と大とを成した。その結果、ルーヴルの中庭式建築(古ルーヴル)が基底となつて、その西正面の兩端から左右の翼(新ルーヴル)を放出し、廣大な而も複雑な不正なU字形大建築となり、このUで更に圍まれた庭(スケール・デュ・ルーヴル及びブラリス・デュ・カルーゼル)は路を隔て、此の方チュイルリ宮苑に連り、遙かにコンコルドのオペリスクヤレトワールの大凱旋門の方向に向つて開いてゐる。その眺望雄大にして絶佳。この庭に、北より數へて、カルーゼルの方には、ナポレオンの一八〇五年オーストリア撃破を記念する凱旋門が立つてゐる。ルーヴルの方には、一八七〇一年の國難防禦の大功あるガンベッタ記念碑、新舊兩世界の英雄ラファイエットの騎像が並び立つてゐる。因に最後のものは、一九〇〇年米國の學校兒童が、故人の獨立戰役參加の高義に報ずるために、寄捨したものである。されど、かくの如く庭中に立つてルーヴルの懐古の眺に耽るも、さることながら、河岸に沿ふた南側の外廓の建築美も亦た捨てがたい。就中カルーゼル橋と美術橋との間、カタリヌ・ド・メヂチの作り残したルネッサンス式ファサードの美は賞翫するに足る。それで、全建築は庭面を含めて約一九八、〇〇〇平方メートルの

面積を蔽ふてゐる、即ちワチカノ及び聖ピータの面積の約三倍、實に世界に於ける最も偉大な宮殿建築である。だから、單に建築史からいつただけでも、ルーヴルは全くフランス史的だ、少くともフランス近世史と相共に變遷して來て居る。

若しそれ近世史そのものがこの王宮及びその附近に於て如何に行はれたかを考へ考するならば、われ／＼の歴史感は一しほ油然として起つて興趣盡くる所を知らなからう。早い話に、有名な聖バルトロメオ虐殺はどうだ。全くこゝがその本舞臺であつたのだ。ルーヴルの東門前にサン・ゼルマン・ロークセロアといふ十二世紀から十六世紀までに出來たゴチック式の古刹がある、即ち、若し靈あらば、目のあたり當時の虐殺を實見した教會建築そのまゝだ。否、實見したばかりでない、實にその側の一小鐘樓は一五七二年八月二十三日から二十四日、聖者の祭の前夜の深更、加特力派の命令で、新教徒荒療治開始の合圖の鐘を鳴らしたそのものだ。その僅か五日前に新教派の代表者を招いて王妹との結婚式が擧げられたのではないか。それが五日後に慘劇を起す機會となつたのだ。現にルーヴル宮中、今尙ほ「血潮の結婚式」の廣間が陳列室（カリアチードの間）として残つてゐる。虐殺の翌朝、理智に長け、残忍に習れたイタリヤ女カタリヌ太后が悠々出城して神に咀はれた者どもの屍

を檢視したのは、このルーヴルからだ。巴里では二千人以上、地方では二萬人以上の生命は朝露の如くに消え去つた。花婿ナブラのアンリ（後のヘンリ四世）だけは王命によつて僅かに身を以て免れた。然る後に詔勅が出で、ユングノーの首領アマラル・コリニー等の罪狀を數へ、その神罰の當然なることが説かれて、虐殺が認可された。加特力巴里は一齊に歡呼萬歳して一大祝祭の如し。若い、弱い王チャールス九世は虐殺の企を聞かされたのも、また之に同意したのも、最後の人であつた、さうして後悔した最初の人であつた。彼が事後八日経つや、既に深夜悪夢に襲はれて、間もなく、二年の内に天死すべき病の床に就いたのも、このルーヴル宮中であつた。コリニーの記念像は、古ルーヴルの北側、リッザリの町を隔て、向にあるタンブル・ド・ロラトアールの前に、近年立てられて在る。彼はルーヴルの庭で刺されたのであつた。

轉じて大革命の荒波の逆卷く時を憶へ。

ルーヴルとチュイルリと鼎立の形で、今のルーヴル勸工場の向ふに、バレー・ロアイヤルがある。これは王家の一族オルレアン公の持物であつた。公が王位を窺窺する野心家であつて、暗々裡に風雲を煽つて險惡ならしめたのは、當時公然の祕密で

あつた。だから、このバレエ・ロアイヤルの廣庭は亂民の集合に委し、煽動政客の過激な演説が自由に聽かるゝ場所となつた。こゝに今カミーユ・デムーランの像が立つてゐる。當年の青年新聞記者、長髪瘦身、椅子の上に立ち起つて演説す。彼はかくの如くして、七月十二日の日曜日にその才氣映發の風貌と熱烈なる舌鋒とを以て群衆を魅し、遂にサン・タントワヌをして、さながら「一人の如く」にバスチーユへと慕進せしめたのだ。因みに同じ廣庭に、小ナポレオンに反抗したウイクル・ユーゴの記念像も設けられてある。

さてかのウエルサイユ行で、王室及び議會は巴里に拉し歸られてから、巴里は一時小康を得た。それから明くれば、バスチーユの恰ど一周年には、新立憲王政の憲法が成つたから、シヤン・ド・マールの大廣野で、壯大な全國同胞式が舉行されたがしかし實は形勢はまだ收らない。次の一年の内に風雲再び悪化した。何せなら明る春になつて、ミラボー死し、それからよく人民を制するものがなくなつた、加ふるに、その夏の始に王は拙い東方への逃亡を企て、失敗し、之より却て人民から嚴重に監視されることになつたからである。更に次の一年の内には、王を救ひ出さうといふ宣言の下にドイツ軍が侵入して來たのと、革命家の運動と相俟ちて、サン・タ

ントアースは再び起たせられた、即ち、八月十日のチュイルリ宮總攻撃となつた。それで王政は廢止され、王室はタンブルに囚へられた。因にいふ、このタンブルは、中古に於て、御堂武士團の本部であつたところ、バスチーユ破壊後は、國の牢獄に充てられてゐた。場所は巴里の東北、今のブラリス・ド・ラ・レビユブリックの附近、スケール・デュ・タンブルといふ小廣場があるのは、その跡だ。

話跡に返つて、王及び議會がいはい巴里市中で囚はれてから以來、革命有志家が私に會合する俱樂部が、國政に對して非常な勢力を發揮するやうになつたのは有名なことである。チュイルリの大庭園の北のテラッセに、テラス・デ・フィヤンとあるのは、即ち當時の俱樂部の一つフィヤンの名残である。ラファイエット等之に屬してゐた。今のメトロ(地中電鐵)の停留場の邊に當るところである。最も過激で有名なジャコベン俱樂部は、こゝからワンドームの廣場までの間に、その名の庵寺があつて、そこに集つてゐたのだ。最初の革命家はやがて溫和派となり、後から現はれるものほど、ますます過激となり、遂に廢王ルイ・カペーを死刑に處した。曾てミラボーが彼の女のみ宮中唯一人の男兒だと稱へられた「寡婦カペー」も、問もなく同じ運命にあふた。是等の死刑執行の場所は、ブラリス・ド・ラ・レウオリユシヨンで、即ち

チュイルリの宮苑の西、今のブライス・ド・ラ・コンコルドだ。當時はそこに立つてゐた、不人望な先代國王の騎像に従ふて、ルイ十五世廣場といつたのを、此時像は鑄つふし、名を革命の廣場と改めたのである。二十三年前、先代の晩年善良なルイの、尙は皇太子であつた時、オーストリアから迎へられた可憐なマリア・アントアネットとの結婚がこゝで奉祝された同じ場所だ、但し當時の慶事は、こゝで花火を行つたが誤つて幾千と數へらるゝ多數の人民が死傷したところで、噫延喜でもなかつた、後から思ひ合はされてゐる。さてこのルイの死刑は一七九三年一月二十一日であつて、これを手始として、一七九五年五月三日まで、この廣場は多數の犠牲のギョチースの舞臺となつた。シャールロットコルデー嬢も、ローランド夫人も、ダントンも、最後にロベスピエールその人もだ。總數二千八百人以上と註されてゐる。その内、ロベスピエールの一人舞臺であつた一ヶ月半あまりの間（一七九四年六月十日から七月二十七日まで）に殆んどその半數近く（千三百七十六人）遣つ附けて居る。それから後で、この革命に打狂じた人心始めてやつと正氣に返り、この廣場の此世ながらの地獄に似たる恐ろしさを思はず名を没して、諸人の「一つ心コンコルド」といふつくしい名稱に改めて今日に至つたのである。

今日こゝに遊べば昔の怖ろしさの名残は一つも見えない、却て、その設備の調つてゐるのと、そのあたりの光景とは、只だ平和と豊麗との瑞祥とばかりに見られる。げに世界の廣場中、最も美はしいものゝ一といつてよからう。さうしてこゝの設備の中で、私の尤も面白く見たのは、その中央に立てられた四十四世紀前のオベリスク（ラムセスの功業を勅した碑、ルイ・フィリップの時ルクナルより移し立てた）よりも、その下にある河の神と海の神とをあしらつた美しい二つの泉よりも、寧ろ廣場の四隅に安置されたフランスの八大市を現はした大理石像である。東北の隅にリールとストラスブール、東南の隅にリヨンとマルセイユ、西南の隅にボルドーとナント、西北の隅にルーアンとブレスト。その内ストラスブールの像は、先年訪ねた時は喪をつけ、それに花環捧げられ、國民の千秋の遺恨が表されてゐたが、今回は喪を撤して晴やかになり、このアルサス嬢がラ・フランスの母國に復歸したる年月が臺石に刻されてあるのを見た。この廣場は花やかな西巴里の中心である。西はシャン・ゼリゼ、東はチュイルリに連り、北は四百歩にして、近代のバジリカ建築の傑作、巨大なマドレーヌに達し、それより東々北に向つて所謂ブルワールの繁華な街路に入るべし。このブルワールの内に有名なオペラもある。コンコルドの南は直に同

じ名の橋に接す。この橋を架けるに使つた石材は、大部分はかのバスチーユ牢獄から取つて来たものだとは面白い。

六 ナポレオンの墓

革命の巷を物色して革命場まで辿りついた私は、ついでに、そのコンコルド橋を南へサン・セルマン方面へ渡つてみる。すると、フランスの外務省の異名になつてゐるケー・ドルセイに出る。橋の突當りは代議院（ブルボン宮）だ。河岸に沿つてその下隣が即ち外務省だ。外務省の次がオテル・デ・サンワリドのエスブラナードで、前はアレキサンダ三世橋で、對岸、シャン・ゼリゼーの美術殿に連る。こちらエスブラナードの庭園の奥（南）にはオテルのドームの金色燦爛たる圓塔が高く聳へて見える。このオテルの建築は随分複雑だが、しかし古くはない、ルイ十四世時代ので、元來は廢兵院であつたのだ。即ち中央にサン・ルイの禮拜堂が立ち、堂の前庭（名譽庭）の左右に砲兵館と戦史館との二博物館がある、さうして堂の拜壇（南）に接續してゐるのが即ち前記のドームである。これは南から入る。此中に、曾てフランス國民の崇拜した大ナポレオンが永眠してゐるのは、言ふまでもない。中に這入ると、先づ雪白の大理石造であつて、それに紫ガラス窓を通してくる光が加つて、光彩陸

離として人目を驚かす。中央、即ち圓塔の眞下の床に、塔と同じ大きさの圓穴を穿ち、床上手欄に凭りて窖の中の寢棺を俯瞰するのであるから、日本の考では偉人に對して甚だ無禮な氣持がする。窖中、寢棺を環つての床はモザイクで花環を現はし、各花環に對して、リウオリ、ビラミード、マレンゴ、オーステルリツツ、イエナ、フリードランド、ワグラム、モスコ、即ち大戦勝の地名を記し、周圍に勝利の女神十二體と戦利の旗幟六組とを立つ。それから、サン・ルイ堂の恰ど拜壇の下に當る地下に降りると、窖墓への入口があつて、其門扉の上楣に、故人の遺言「私の屍はセーヌの河岸に、私の熱愛したフランス人民の裡に憩はせて貰ひたい」と刻してあるのは、いちらしい。ところが、彼の死後二十年経たない内に、フランスの國情は再びナポレオン熱を喚起し、故人の願ひ通り、彼の遺骨をセント・ヘレナから迎へてこのオテル・デ・サンワリドに改葬されることになつた。さうして、上記の如く立派な窖墓が作られたのは、それから間もないことである。今日巴里に遊びて、オテル・デ・サンワリドを訪ねない人はなからう。しかし歴史の公正のために一言する、彼等はこゝで單に大ナポレオンばかりを思ふてはならない。かの上記の二博物館はすべてフランス軍隊の記念を保存してゐる、これらの陳列廊下や、建物の中に

ある中庭やの名は多くはフランス軍國の光榮を思はず地名や人名で名づけられてゐる、ドームの内部にでも、ナポレオンの墓のぐるりに、ナポレオン帝國の君主に封せられた彼の二人の兄弟の像と相並びて、十七世紀の名將チュランヌとウォーバンの像が立てられてゐる、さうしてドーム前の廣場(南)は實にウォーバンの名が附けられてゐる、だからオテル・デ・ザンワリードは、古來フランス軍國を荷ふてゐる光榮の顯彰場である。つまりルイ十四世とナポレオンを中心として、大陸侵略で歐洲を風靡したラ・フランスの面影がこゝで偲ばれる譯だ。

二一 七月十四日

先年私が巴里に來た時は、一九一一年、モロッコ事件のあつた年の秋で、恰も獨佛の妥協がやつと出來たところであつた。一體、妥協といふやつは互譲である、雙方の國民的歎憤心を満足さす筈がない。此時、ドイツ人は、政府が商人の國の藏相ロイド・ジョージの威嚇演説に屈伏したのだ、サーベルの手前、ドイツの威名を奈何すると憤慨する。折角アガチールの手を打つたモロッコ局面を放棄して、その代りに充てがわれたのは、フランスのコンゴのたつた一部ばかりだ、それとも、鴛鳥

の胴體ならばまだしもだ、只つた鴛鳥の細頸ばかりだ、これではかのやつと引つかけやうとした大牢の美味が、どうして忘れられやうか、といふのがドイツ對外硬派の腹であつた。當時ベートマン・ホルウエヒの議會で妥協を報告した時、反對派の質問に對して、恰も傍聽中の皇太子が拍手した、この不勤慎のために、この我儘息子が伯林の聯隊からケーニグスベルグのそれへ流されたといふのは、こゝだ。翻つてセーヌ河畔では、何だ、わがいとしいストラスブルはまた喪をつけてゐるではないか「七十年」の恨は彼しこに在る。モロッコは固より吾輩の繩張だ、大それた晝寤め、それからやつと逐ひ出すと、行きがけの駄賃に、またわがコンゴを喰へて行きやがつた。泥棒犬めと、巴里兒は頻に切齒扼腕した。忘れもしない、その年、私が巴里を引揚げて東に向ふた汽車中、アフリカのフランス植民地アイヴオリ・コーストの一官吏で賜暇歸國中のものと同室であつた。やがてドイツの國境へ近づくと、このフランス紳士は私に向つて、「あゝもう税關だね、君！間もなく犬の吠え聲を聞かせられるよ、あゝ嫌やなこつた」と。粹な意氣なバリジアン(フランス)の耳には、ドイツ語がさながら東夷の語のやうに、かう聞えるのだらう。しかしこれには、言語そのものゝ相違よりも、寧ろ、話手の奥底に横はつてゐる或る主觀の相違が、より強く働いてゐる

るといふのが、より、適當であらう。

今度十一年ぶりに再び訪ねた巴里は、當年のそれとは、全く違つた姿で、私の眼前に現はれた。

私は成るべくだけ自分の小我的主観を斥けて私の観光の對照に臨んだ。勿論、自身の境遇の變化、私の値ふた季節の差異も割引しなければならぬ。私はあの時拉丁區に入つてリュ・ド・ヴォークランの或るバンジョンを宿とした。主人は年七十餘、もと軍人で、普佛戦争で捕虜となつたことがあり、よく食卓で、ドイツ人の「シンケンプロット」を嘲つて一同を笑はした。主婦は五十ばかり、小柄にして黒髪で日本人に近いやうだ、しかし中々きび／＼してゐて、上方女よりも江戸つ子式だ、時々ルーヴル横の「中央市場」へ甲斐々々しく買物に出かけるのに、私はよく見學かた／＼ついで行つたものだ。この時は小やかながら、レトワール附近、アヅニユ・ヂエナの或るホテルに陣取つた。このホテルの荷持男は立派な日本語を使ひ、帳場の小柄な嫺熟なマドモアゼルすら「坂口さんお早よう」位な片言も使ひ、帳筋向には日本の海軍旗が翻り、そのコンミションが構へてゐる。全く戦争の御蔭だ。さればかの時とこの時と、既に自分の境遇の相違がある。季節については、あ

の時は秋既に半ばを過ぎてゐた、拉丁區の散歩場所であるリュクサンブール公園をよく朝夕徜徉したのだが、樹々やう／＼黄ばみ、滞在幾日ならずして早くも落葉地に布くやうになつた。日は短く、陰氣で、とかく雨が多い、見物には不便で、心持は寂しかった。この時は孟夏七月、陽氣の眞盛りである。レトワールから朝夕出入するシャン・ゼヴイ大路を始め、到るところ樹木鬱蒼、倫敦の十日間の雨天つきに比して、著しく晴天多く、満目輝やかしく映じた。旅客の入込み方、人間の町へ出方も、それだけの相違があつたにちがひない。しかしながら、可成的事物を公平に周到に觀ようといふ私の立場から、私はあの時、拉丁區の陋屋にくすぶつてゐても、よく西方の晴やかな場所にも出かけ、この時レトワールに陣取つても、しば／＼古い東方を涉つた。又たあの時も、時には、右岸の大ブルワールに出かけて巴里の繁華を觀じ、この時もしば／＼サン・ミシエルの安料理屋の昔を探つた。あの時、うすら寒い夜ふけての歸るさ、拉丁區の道辻で、よく焼栗のはこ／＼温いのを買喰したが、この時は季節のまだ來ない勢か、私には見當らなかつた。あの時とるどころに澤山あつた平民的な、しかし強い飲料アブサンは戦争以來？禁止されて、この時は飲むべくもあらずなつてゐた。拉丁區からサン・ゼルマン區の河岸に沿ふて

長く相並んで、晴天の散歩時めかけて開店する古本の露店は、巴里の、殊に學徒たちを取つての名物の一で、恐らく他には類例のない、面白い便利なものだと思はれるが、この時も、時々はそのをひやかし廻つた。かゝる折によく同行した博士は私よりもずっと古い、恐らくは約二十年前の曾遊者で、今度は當時ほど良い本が出てゐないと、こぼしてゐられた。或はさうかも知れない、しかし渉り廻る私たちの眼が、昔に比べて多少肥えてゐるのではなからうか。

かくて、ありとあらゆる正常な割引をして考へて見ても、十一年間の巴里は随分變つて居た。巴里のメトロは由來便利にさうして分りやすく出来てゐる、それが今度は大分延設されてゐて一層便利に感せさせられた。巴里の貼紙廣告は有名なものだった。道の辻、その他の建築物の目につきやすいところは、貼紙禁止と貼りつけてあつても、尙も夥しく貼りつけられ、頗る町の美觀を損してゐたが、それが大分減じて來たやうだ。その外、町は一體に昔に比べると清潔になつて來たやうだ。けれども場末にゆくと矢張り可なりの貼紙があつたけれども、昔ほど亂雑でないやうに思はれた。彼の時は、政黨政派簇生分立し、フランス國內不統一で、人心渾濁し、引き緊つてゐなかつたらしい。この時は大戰の後で、戦捷の意氣と對獨關係が尙ほ懸案

中であるのと相俟つて人心緊張し、國內統一し、警察も行届き、その邊の心構がおのづから、都の外貌に現はれて來てゐるのではなからうか。

前回に體驗した重なる事件は、恰ど萬靈の祭日(十一月一日)に遭ふたことであつた。此日ノートル・ダムで、堂内には、敬虔な善男善女の立錫の地なきまでに參詣し、讀經の聲の朗かに澄みわたるのを、親しく聽聞した。これは私は行かなかつたが、此日、東岡(ペール・ラ・シエーズ)や北邨(モン・マルトル)の大墓地は例年の如く多數の老若男女の參詣で賑はつたことであつたらう。然るに今回ののは即ち七月の大きな行事であつた、それは他でない、月の十四日、バスチーユ破壊の記念日、この日を以て、開戦以來、始めて盛んな國民祭を催してゐたのであつた。無論、兩回巴里訪問が季節の相違で、各行事の異なるのは當然であつたのであるけれども、萬靈祭は尤もよく一九一一年の人心の消沈を象徴するとも見られぬことはなからう、之に反して七月十四日祭は極めてよく戦後のフランスの意氣軒昂を代表してゐる、と私は考へざるを得なかつた。それは、よしやいづれにしても、私が今回バスチーユ祭の巴里に際會し得たのは、非常な幸福であつたに違ひない。

七月十四日はフランス國民に取りては極めて重要な意義を有つてゐる、そればかり

でなく、世界のデモクラシたるものは、すべてこの日を記念すべき筋合になつてゐる。何せならこの血祭から連続した大革命の事件の發展が、激して對外的となり、遂にマルセイエーズの進行曲となり、全ヨーロッパの諸國に對してデモクラシの十字軍の發動となつた、それで、始めてヨーロッパの舊政治も敗れて、今日の民主的風潮の大勢を馴致したからである。デモクラシといへば、多くは平和を聯想し、モナーキと呼べば、直ちにミリタリズムを思ふのが、私たちの習慣となつてゐる。しかしデモクラシも時にはミリタリズムを伴ひ、一大軍國を實現することがある。大革命が産み出した當時のフランスのデモクラシは、實にそれであつた、デレクトル政治、コンサル政治、それからナポレオン帝國はその絶頂點を形作つてゐる。私は偶出會つた巴里の七月十四日を、最初は只だ平和の祭だと思ふた。隨てサーベルや鐵砲の行列などがあらうとは豫想してゐなかつた。ところが、實際は、戰爭以來久しく途絶えてゐた觀兵式を行ふといふので、こゝに八年目に大規模な閱兵が、大統領ミランの面前で、壯んに行はれたのだから、この日は正さしくフランス軍國の展觀日で、戦捷國のさながら一大凱旋式であるかの如き趣を呈した。私は此朝レトワール邊で、偶列式の軍隊の一部の歸り來るを目撃し、午後の市中では不斷見慣れ

ない赤帽兵（アフリカの有色人）が三々五々散歩するのを見つけた。さうして、凱旋門下の「無名兵士」の埋葬された石疊の上には、多数市民の憑吊があつて、澤山な花環が供養されてゐた。だから、この日、共和國の平和祭といふよりも、寧ろデモクラシの軍國的氣分が大に漂ふて居た。



墓士兵名無の下門旋凱ルアトレ

時は恰も獨佛兩國の間で、ウエルサイユ條約による支拂について、必死の押問答の幕が切り落されるといふ瞬間で、ドイツからは既に支拂延期を申出して來て居、こちらはこの哀願を峻拒せうと決心し相手が尙も愚圖々々いふのなら

ば將來の保證として、目下のラインランド占領區域をライン河外に延長して、ドイツの最大寶庫であるルール河盆地の炭田及び工業地をも取つちめるぞと、威丈高な態度を示す必要があつたのだ。それで當日の國祭が久しく途絶えた觀兵式を再興したのは、ドイツに對する一大示威運動と見られやう。目下のフランスが、戦後尙ほ強大な陸軍を蓄へ、聯合軍のライン河畔占領の最大部分を受持つてドイツの中原を窺ひ、以て歐洲大陸に於ける唯一最大なる軍國を成してゐる事は、滿天下の齊しく認める所である。かくいへばとて、私は今にもフランスのデモクラシの裡から、二十世紀の大ナポレオンが飛び出たらうと暗示する者ではない。けれども目下の形勢は、少くともルイ十四世時代の「レユニオン」時代に相當するやうになりつゝあるが如くに見える。かの時、ルイは中歐が三十年役後の疲弊と分裂とに乘じ、ルイウオアの軍政、ウオバンの築城作戦、マルチネーの訓練で、歐洲第一の陸軍を擁し、自ら「レユニオン」の國際裁判所を組織し、國境改定に關し、自分の欲するまゝの訴訟を提起し、自分勝手の裁判を下してフランスの權利を確立し、無抵抗の城市を占領せしめた。ストラスブルを取つたのもこの手段に依つたのである。今日の國際聯盟は殆んどフランス委員の手で勝手に操縦しうる。賠償委員會でも、フランス委

員は與國委員と提携して多數を占めてゐる。だからフランス共和國は正さしく二百五十餘年前の「レユニオン」時代の行動の自由自在といふ位置に近づきつゝある。加ふるに今日には國民的復仇心が尙ほ燃ゆるが如くで、盛んに人心を煽つてゐる。ルイ十四世の「レユニオン」は實は君主の個人的贅澤に過ぎなかつた。現代フランスは「七十年」の恨を抱ゐて居る。それから戦争に克つたといつても、實は只だ防禦戦に成功したばかりだ。フランスの寶庫である北方フランスは蹂躪されて未だ恢復しない。戦後の財政は窮乏してゐる。これで償金が取れないとならば、國家は破産の外はない。然るに敵國の山河都城は、尙ほ戦前のまゝに完全である。機會だにあらば、この相手方に一大痛棒を加へなければ腹の蟲が治らない。況んやドイツは國土の若干を削らされても、尙ほ人口衆多、人心剛健にして勤勉と經營とに於て世界一の國民だ、何時恢復して捲土重來するかも知れないに於てをや。この相手が今日猫のやうになつて、支拂猶豫の哀願するのは、確かに曲者だ、決して油斷あるべからず。といふのが、今日のフランスの政治家及びその國民の心中と考へられる。彼等はこの危機に際し、舉國一致、飽くまでも全國を軍國的歩調に保ち、條約の許す限りの權利を、極端まで行使して、帝國主義的政策を展開するのは、目下最も機宜を

得たるものと思ふてゐるらしい。

だから、この年 七月十四日の行事は、單なるデモクラシ宣揚のための祭禮でない、ドイツに對するフランス軍國示威運動であつたのである。

さりながら、この日が巴里の人民祭であつて、市中が大いに賑ひ、一面では平和の大祭であつたことも、これ亦事實だ。私は觀兵式に行き得なかつた代りに、市民と共にこの日を樂まうと考へた。ホテルの帳場に行つて、例のマドモアゼーユと親切さうな主人とに向つて、如何にしてこの午後を消光すべきかを問ふた。彼等が異口同音に一致して示してくれた方針は、かうだ。晝はブローニーの森を逍遙し、就中、そのマドリッドのカフェへ行け、滿都の士女の行樂の様が見られる、夜はモンマートルへ行け、就中、そのフォリ・ベルジエールがよからう、といふのであつた。それで、私は晝食後、ナポレオンの軍隊を思はするグランド・アルメーの廣いアヅニユを打たして、ポルト・マリーヨで目的のボアの入口に這入つた。偶驟雨俄かに到り私は豫定を變更して、そこで電車に飛び乗りて、鬱蒼たるボアを乗り抜け、セーヌ河の西曲のところへ出た。つまり、雨宿りして西郊の野趣を眼前に展開さす、一舉兩得法を取つたのだ。行く手は勝手知つた會遊の地サン・クルーであつた。サン・ク

ルーについては後で別に説かう。

夕のプログラム實行には、S博士を誘ふて行つた。マドレーヌからオペラ邊のブルワールの賑つたら、言語道斷だ。私たちは、オペラ前の自動車で一寸渴を醫した後、ブルワール・モンマートルから左へ横町に入る、多分リュ・デュ・ノ・オブール・モンマートルであつたらう、道中は狭い、路上のイルミネーションは相當だが、今通つて來た明煌々たるブルワールほどでないからであらう、薄暗く感じる。辻を二つ三つ過ぎてから、今度は右に折れて、かの教えられたフォリ・ベルジエールに辿りつた。この途中の前記の辻毎にカフェの前で、狭い大道の上で盛に踊のはづむのを見た。一しきりコンセルトが始る毎に、幾十組かの男女翻々として舞ひ、悪くいへば芋を洗ふが如くに狂じ、その間は一般の通行を杜塞す。これは、少くとも今夜は天下御免と見える。さてベルエールは這入つてみると、建築の前部はカフェ式に出來、後部は寄世芝居である。カフェ部を通つて劇場に入らうとする。その時、二三の怪美人私たちの行手に立ち塞がり突然英語で「マイ・フレンド」と呼んで話しかけられたのは、意外の伏兵起るの感があつた。外來の掠鳥と見れば、英語が第一番の武器と心得られてゐるのだらう、道理！ 目下は世界の漫遊客が巴里に入り込ん

でゐる最中である。さうして、こんな美人も亦た必ずしも巴里人ばかりでなからう。一寸たちろいだが、委細構はず突進すると、彼等に尙も追ひつめて、隔の幕の前を立塞ぎつゝ、「この中は拙らなさいですよ、あちらで御休みになつて……」といふ。私たちが勇敢に幕を排して這入つて了ふと彼等は「それでは一吹を」と、私たちがから巻煙草二三本づゝを掠めて去つた、彼等のデモンストレーションは酒手にもならず煙手ばかりになつたのは笑止だ。みると、場中は一杯で、立見の外なく、舞臺では例の極めて刺戟の強いバレエや、軽い浮世芝居や、印度埃及の粧飾にその風俗を誇張した毒々しい所作事が演ぜられてゐた。それでも、中幕のポーズにだつたか、その日柄のマルセイエーズを演奏し、看衆一同に唱和さすのを忘れなかつた。で、此夜のオランピアとかムーラン・ルージュとかの如き盛り場が想ひやられた。

翌日聞いたのであるが、勿論或る信すべき直接観察者からだ、同じ夜、かの南河岸の拉丁區でも、サン・ミシエルの或るカフェでは、美術家連中の假裝會があつて、その中で、眞つ裸體のモデル女を擔ぎ出し、晩くまで亂痴氣騒ぎしたさうである。曾ては「理の神」や、「最高實在」^{ラレトリス・シユプレム}の信仰を行ふために、如何はしい女性の脚下に跪拜する御歴々を出した巴里のことであるから、當時を記念する七月十四日の國

祭に、美の神を崇め奉つたとあつても、大して平仄の合はないことはなからう。

二三 巴里附近 ウエルサイユ

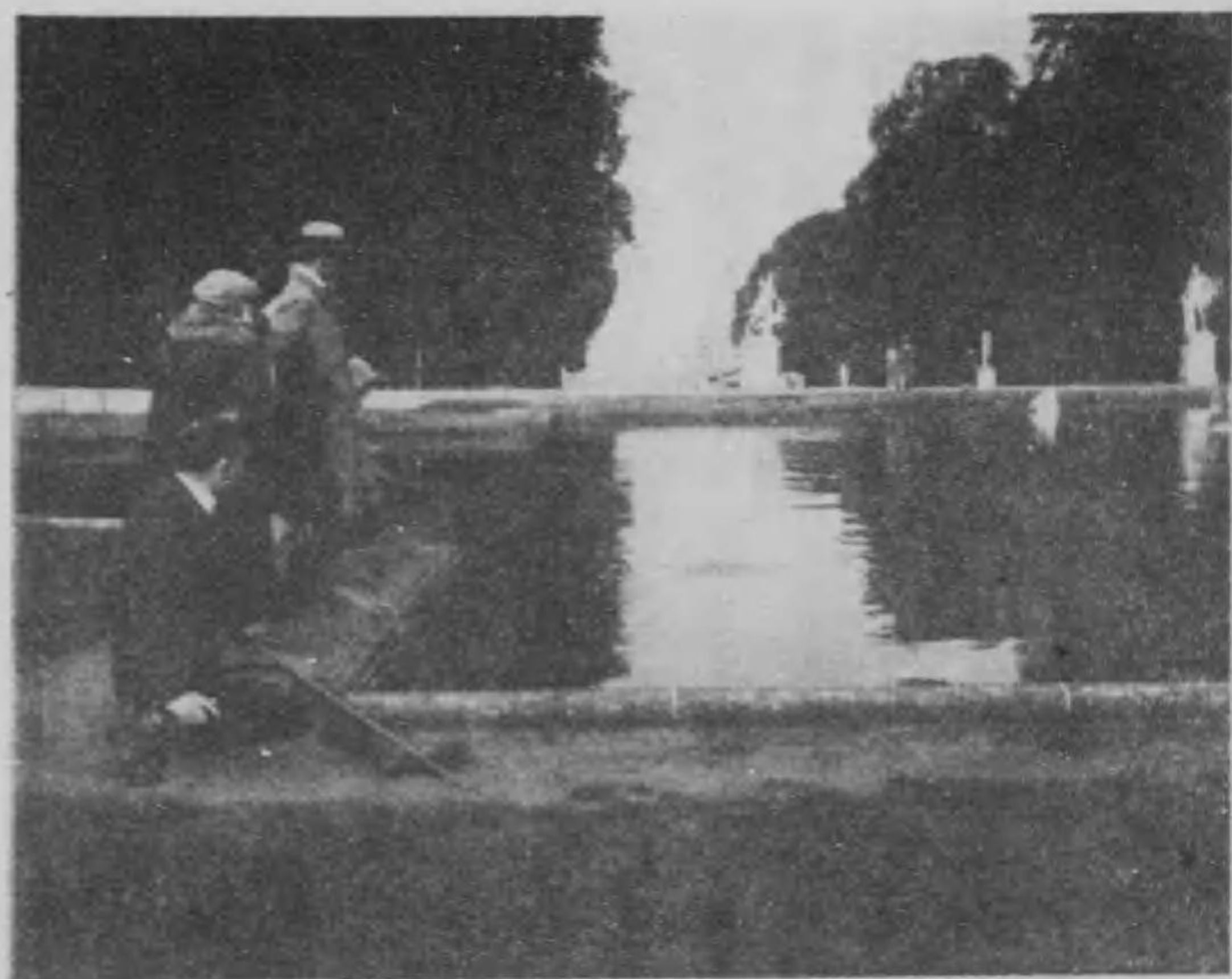
城外のドライヅは、西では、ボア・ド・ブローローニユ、東ではボア・ド・ワンサンヌに於て驅るを良しとす。いづれも直ちに城壁に接す、前者は後者に比せば、その境内より廣大にしてその社會より上品である。歴史的場所としては、二十分至四十分程に都の眞北にサン・ドニあり、西々北にサン・セルマンあり、西々南にサン・クルーあり、又たウエルサイユがある。序にいふ、巴里會議の産物である同盟國との條約調印地はみなこの巴里西郊外に配當されてゐる。ドイツのウエルサイユはいふまでもなく、オーストリアのサン・セルマン、ブルガリアのスイー、トルコのセーウル、みな然り。次に吾々の遠足を一時間以上から二時間内外程に延ばすならば、近きに北にシャンチリ城があり、やや遠きに、西にノルマンデーの都ルーアン市があり、東にランスがあり、南にナポレオン退位で有名なフォンテヌブローがある。以上の地は、多くは風景の勝をも兼備し、いづれも半日又は一日の遊に價す。

サン・ドニは古い修道院を以て有名な古市である。傳に、聖デオニシウスが紀元後

二七三年こゝにて斬首されたその跡だといふ、因てこの市の名がある。この修道院カロリング時代に政治上勢力あり、時に有力な僧を出した。十二世紀の院長シユゼーの如し。アペラルも一時こゝに居た。それからヘンリ四世が加特力轉向式を擧げたのはこゝだ。院の建築は古く前記殉教後間もな 信者たちが教祖追悼の時建てし禮拜堂に基く。但し、爾來しばしば改増築もあつて、就中前記のシユゼー最も力を盡し、その模様大に變じた、されば最古の建築は尙ほ中部地下室及び若干の柱に於て残つてゐる。院内で古きものにはカール・マーテルの墓表がある。近代ではルイ十二世、及びヘンリ二世の各夫妻、フランシス一世、などの墓表が目立つ。地下に入れば、重にブルボン家の諸王及びその家族たちの墓が並び立つ、中にも、ルイ十六世及び皇后マリア・アントアネットのそれは尤も感動を惹く。

サン・クルー並にサン・セルマンはフランス國王の夏御殿のあつたところ、土地高燥にして河に枕み、樹木多く、氣持のよい郊外市である。凡て巴里の河沿ひの地並に巴里から遠くないところへは、晴天の時、セーヌ小蒸汽を利用するのも面白い。サン・クルーへは、先年ルーヴル河岸から乗船して下つて行つた。この時、ゆくゆく兩岸の市中の風景を賞し、ブローニーヌを廻航してセーヴルに上陸し、その有名な

な國立製陶所を一覽し、それから秋の落葉路を踏み分けつゝ目的地へついたのは、當年郊外見物の随一として今も尙記憶に残つて居る。今回は既記の如く、七月十四日ボアの方面から電車で來着、それから折しも夕立する夏木立の中を公園へと登りみる。公園の規模廣



サン・クルー

大、時に雨晴れ、満山濕を帯びて却て快く、就中、林泉に立像をあらひたるところ、小ウエルサイユの趣があり、けふの祭日を幸に逍遙の客少からず、テラスの上か

ら東の方巴里をふり返りみるも亦一興。七月といへば、一八三〇年頑固なる國王チヤールス十世が避暑がてら悠々燕居し、反対派抑壓のために勅令を發して都民の反抗を蔑視してゐた時、忽ち都に三日間の市街戦の起るや、最後の日、遂に使を馳せて勅令を撤回したが、既に手遅れであつたのは、こゝだ。當時王の燕居した離宮は一八七〇年十月、巴里の圍の時兵火にかゝりて今は亡し。

ウエルサイユにつきては語るべきこと多きに苦む。私は只だ重なる感想のみをかき摘もう。ウエルサイユにて觀るべきものは宮城及びその庭園と、更にその離宮たるトリアノン及びその庭園とである。御斷する、ウエルサイユは本來皆離宮であるが、便利上、宮城と離宮に分ける。又た、大革命の時、一七八九年六月二十日、第三階級議員が集まつて自ら「憲法制定を見るまで解散せし」と決議した有名なジュ・ド・ボームは宮城門外、市中にあつて、今は小やかな革命博物館となつてゐる。俗問題の宮城は一大國立博物館となつて一般に公開されてゐる。こゝで先づ、世界の何人も最も深大な興味を以て見るべきは「鏡の間」であらう。ストラスブルを奪取した太陽王ルイ十四世が造營せしめたこの輝く大廣間は、ストラスブルを取返へされた時、プロシヤ國王のドイツ皇帝即位式場となり、因果は廻る小車の今度、

再びストラスブルグを手に入れる條約の調印場となつたのは、奇しき運命である。この鏡の間と春合の室々、及び之につゞく室には、ルイ十四世から十六世までの國王及皇后の常の間である。大革命の時、かの巴里のサン・タントワヌの押寄せてこの宮中まで闖入して來た際、マリア・アントアネットが如何に危くも逃げ出せしか、その跡方をつけるも、亦た興味深い。それから、この中央建築の室の戸や楯間の粧には、「太陽王」の象徴たる日光輪の形をみる。これは、こゝの庭園に、有名なアポロの泉池が等しく太陽王の象徴であるのと、同意義に屬す。因に巴里のルーヴル宮中に於ても、ルイはガレリ・ダボロンを作つた。この名は、當時の有名な王室畫家ル・ブリュンがこの室に於て太陽神アポロを粧飾の中心としたから起る、これはルーヴル宮中最も美を極めたる部分と稱せられる。それと同じ意匠がウエルサイユにて所々に、大規模に散見するのである。その外、こゝでは前述のル・ブリュン外一名の作圖に従ひて、ゴブラン織で太陽王の歴史が現はされてゐる、この織物畫なかく上品だ、成程ゴブラン(巴里南の町はづれ)はこゝが本場であるだけのことがあると思ふた。以上は中央の建物にある。右(北)翼の建物の中には、フランクの建國者クロウイスから以下、フランスの歴史に關する歴史畫が實に時代順に従つて無數に陳

列してある。就中、ルイ十四世時代、ナポレオン一世時代、ナポレオン三世時代に關するものが多い。若し少しでも歴史趣味のある者ならば、幾日を費しても、見飽くことはあるまい。但し断つておく、是等は盡く歴史事實を根據としたものばかりかといふに、必ずしもさうは行かない。又た美術的に良いものばかりかといふに、必ずしもさうは行かない、只だフランスの歴史の光榮と記念を傳ふるために出來てゐる。

宮城の庭園の形式の調ふてゐるのは天下周知のことである。人或はその幾何學的整備を厭ふものがあるのは、理だ。園中よく水を利用し、海神ネプチューンの泉池パサンや、既記の日神アポロのそれや驚くべき巧致な設備で、祭日に於ける噴水は偉觀を極めるさうである。

ウエルサイユ宮城及び庭園はすゞろに人をして經營者ルイ十四世の専制と豪華を思はしめ、アンシアン・レジームの特徴を痛切に感せしめねば止まない。こゝに來て見て、始めて、十七・八世紀に於て、ウエルサイユの朝廷が、政治に於ても、社交風俗に於ても、天下流行の中心となつたといふ、史上の套語の、ますます眞なるを知る。忙がしい觀光客は、ウエルサイユといへば、宮城とその庭園との見物だけを辛う

じて濟ませてやめる。否なそれで卒業させられるのを常とする。しかしそれでは不十分だ。當年のウエルサイユ生活を完全に窺はふと思ふ者は、是非とももう一步深入りしてトリアノン離宮を一覽しなければならぬ。トリアノンは大小二つに分れる。初め、ルイは燕居のためは、宮城外にこの村落を買ひて、田園趣味の離宮を作つたのが是れだ。大トリアノンはマントノン夫人のため、小トリアノンはデユバリ夫人のための造營だ。トリアノンへ行くには、海神ネプチューンの泉池からアヴニユがある、又た日神アポロの泉池から門外に出て、グラン・カナールの頭からアレ・ド・ラ・レーヌの物ふりた林間の逍遙路をぶら／＼ゆく、私は後者の方が好きだ、「女王の路」なんては面白くないか。實際、この邊の路は、上記の宮城の庭園が馬鹿に几帳面に構へて吾々を壓してゐたのに反して、宛ら自然の山林、而も畫にある極樂の庭に分け入つたかの如き、悠くりした心持にする。ゆくこと五六町で離宮に入ると、こゝの宮苑の作り方が全く宮城と異なり、瀟洒と閑静とを旨としてゐるのは、嬉しい。殊に小トリアノンの林池亭榭の鹽梅は全く田園趣味から成り、西洋風ながら必ず日本人の嗜好に投ずる。十八世紀の後半、アンシアン・レジームの豪華の風極るや、その反動起り、殊にルーソーの影響の下に、自然に還れの聲高くなり、上流社會の趣味田園生

活に向ひ、或は殊更ら田舎風にうき身を寢すやうになつた。それでマリア・アントア
ネットもこの小トリアノンを愛し、しばしこゝに閑居した。こゝには一大野池が
あり、その側に田舎風の小屋建ち、名すら「ル・アモー」と稱し、太だ雅致に富む。
又た林中に「愛ル・ランブル・ド・ラ・ムールの堂」が立つ、ローマ風コリント式圓柱二本で支え、アモルを
安置す、亦た可憐である。

二三 學會 學者の記念

フランスの最高學會といへば、一八〇六年に綜合してランスチユート・ド・フラ
ンスと總稱されてゐるのが推される。これは五つのアカデミから成る。その内、最
高位を占めるは、リシユリユの創立にかゝるアカデミ・フランセーズで、その會員
に推されるのは「不レ・ゼン・モル死」の位置に昇るのであつて、學者の最大榮譽とされてゐる
サン・ゼルマンの河岸に、ランスチユートの集會するバレーがある、これは、もと
マザレンの「四コレージュ・カトリック・ナシオン國民學院」であつたところだ。

このバレーの前庭の左右に、十八世紀の二大學者の立像があつて、吾々を導く。
一はウォルテール、他は「人間精神の進歩」の著者コンドルセー、即ち恐赫時代の犧

牲の一人である。この附近にツォルテール河岸といふのがあつた、この文豪が晩年に
錦を著て故郷に歸り、老後の花を咲かして死んだところも、この邊にあるといふこ
とだ。

しかし、

フランスの
最近學術研
究の花は何
といつでも
バスツール
研究所だら
う。ウオー
パンの廣場
から南へ行*



像るふ捕を犬狂童牧 所究研ルツスバ

*くこと數
丁可なり
の廣場に
バスツル
の大理
石大記念
像が立ち
て、オテ
ル・デ・ザ
ンワリー
ドのドー

ムと南北遙に相對立す。更に行くともなくバスツールの廣場に出る。そのとある
横町が即ち研究所だ。無論メトロの便もある。私は日本の多數刀圭家たちの後に尾

いて行つた。K博士が精しく案内してくれる。病院も研究室も大した壯大な規模ではないやうだ。別してアメリカを見て来た眼には。しかし病院の洗濯、料理その他に對する殺菌設備、その世話する宗教婦人の親切、それから實驗室や講堂の備つて居るなど、素人ながら結構なものだと思はされた。研究室には日本人がいつも數人來て勉強してゐるさうだ。だが尤も感心さされたのは、庭内に立つ牧童像と、館内にあるバスツール記念だ。前者は、モンマートルの羊飼の兒が、バスツール先生の許へ持つて行かうとて、今しも嘸みついた狂犬と戰つて生捕らうとする瞬間を表現し、後者は故人夫婦の奥つ城で、學者のものとしては實に立派、いろ／＼の寓意さへ現はされて目出たい。その前では學界の偉人に對する敬度の念が自ら起る。墓の結構さは勿論ナポレオンのに比ぶべくもないが、これらふたりの故人の人生に對する意義からいへば、どちらが偉いかが問題であるからだ。

ことし一九二二年は東洋學でエボックを作つたシャンポリヨン（一八三二年歿）の埃及形象文字讀解の百年、それと關連する東洋學協會の創立の百年に當るから、この協會の主催で、是等二つの記念を兼ねて、世界の東洋學大會が、七月巴里で催された。私は俄に京都帝國大學を代表して參列することになつて、斯學の大家である

東大の代表者S博士と石井大使との斡旋で少からず便利を得た。先づ十日の午後ギメー東洋博物館でレセプションがあり、十一日から十三日まで毎午前にサン・セルマンの地學協學で代表者の祝辭及び報告がある。毎午後には祝典や茶話會招待やが取交せてある。その内、東洋學會祝典はソルボンヌの有名な大圓劇場で擧げられた。この日大統領ミルラン及び文相ベラルール等列席、兩人の演説もあつた。又たシャンポリヨンの祝典はルーヴル博物館の埃及部で、故人の記念胸像の下で、文相列席の前で行はれた。さうして最後の夕には、バレー・ドルセーの大廣間でフランス一流の囃曉たる樂隊演奏の裡に、盛大な歡迎晚餐會が開かれた。

この會に參列して感じたことが三つある。一つは世界の知名の學者を見知つた快感だ。第一にフランスのアカデミシアン連中だ、白髮のアンリ・コルヂエ、壯年のペリオは其の内だ、イギリスからはトーマス、アメリカからはブレストッドも來た。曾て東大の講師して居たルボン氏とはドルセーの饗宴で一つ置きに隣合つた、當時少壯の氏も漸く鬢の霜を見せて居た。二には、かねてから聞いて居ることだが一切ドイツの排斥をこの時實地に體驗したことだ。使用語は佛語の外に英語は使はれたが、その他は一切使はれない、ドイツ語を話すを便とする北歐諸國の人々も遠

慮して之を話さない、ドイツの學者も學會も招待されて居ないのは勿論だ。三つには、前記ソルボンの祝典で感じたことだ、それは式場の内部に於て、いかめしく盛装した兵隊が吾々参列者の通路の要所々に佇立警固し、而もそれが抜剣で威儀を正してゐたことだ、平和な學會に軍人のサーベルの抜身を見せることは、私には始めての光景であつた。この感じは私ばかりでないと思へ、同行のイギリス人である私の友人H君はその場で私に耳打して、こんなことは僕の國では到底見られない圖だと言つた。私は後から考へたのだが、これにはいろいろ思ひやるべき國情の相違があるだらう。第一に一國の元首が公式に一學會に親臨することは、さすが世界第一の民主國にして、文明の魁を以て任じてゐるフランスだ、第二に、この正式の祝典は全く公開同然であつた。三千五百名を容れるといふ廣い圓劇場の後列階段、即ち坐席の半以上には一般公衆が勝手に這入り次第であつた。然らばそこにこの集會は重大に取扱はれるといふ理由が生じやすまいか。即ち、先づ元首のために威儀を正すこと、次に元首の身邊を保護すること、是れである。現に、これはその翌日のことだが、七月十四日の國祭日にミルランが觀兵式からシヤンゼリーに還る途上を爆彈を見舞つた男があつたさうだ。かう考へてみると、如上のいかめしい光景が首肯さ

れるやうだ。何はともあれ、歐洲の最先進民主國に来て、私は、その學界の祝典に於て、意外にも、宛然ルイ大王の宮中か大ナポレオンの朝廷に入つたやうな気分を感じなければならなかつたのは事實である。

チヤンボリ
 ヨンといへば
 ソルボンヌの
 すぐ東に、彼
 の講座があつ
 たコレージュ・
 ド・フランス*



コルベートル像 スンラフ・ド・ツレコ

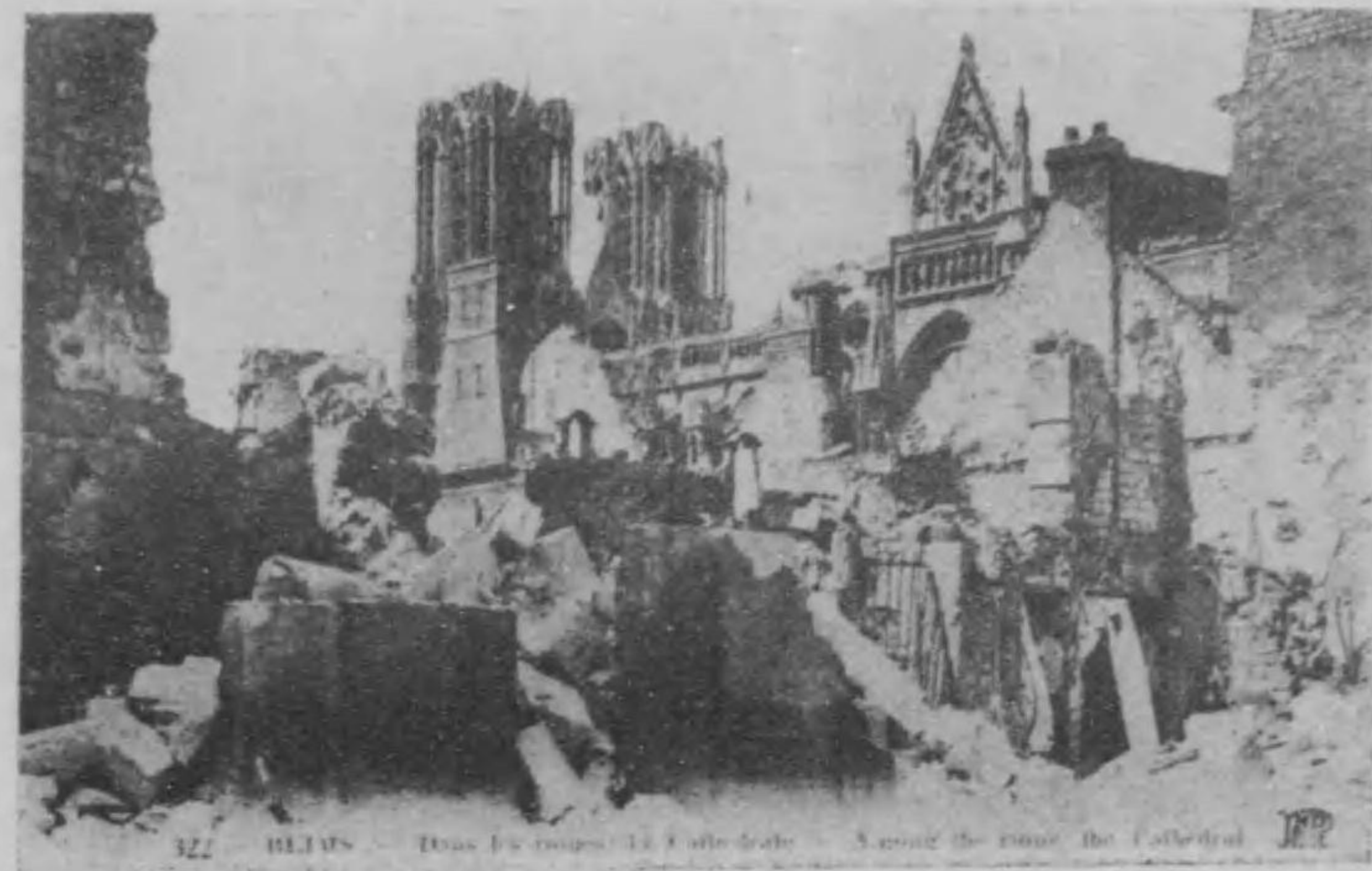
*がある。
 その玄關
 に大きな
 大理石立
 像がある
 バルトル
 デの作で
 ある。ま
 た學校町
 側の庭に
 耶蘇傳そ

の他で有名なるルナンの友人である、化學者ベルトローの銅像が立つ。彼がその夫人と共にバンテオンに葬られてゐることは前に述べた。因にいふ、學者の記念とい

へば、一九二三年は前記バスノールとルナンとの各誕生の百年で、フランスでは盛に之を祝することになつてゐる。世界的學者の記念を世界的に壯んにしうる國民は幸である。

二五 戦 跡

一日早起、ランス及びその戦跡を観る。モーまでは風景美はしいマルヌ河に沿



破壊されたるランス大伽藍

ふて廻る。この河筋は一九一四年開戦の初一旦ドイツ軍の越ゆる所となつた、そこでマルヌの撃退戦となつた戦争の最後である。一九一八年夏この河は再びシヤトー・チエリに於て突撃を被つたのである。モーから左してランスに達す。

戦 跡

この市は南はマルヌ河と北はエーヌ河との中間平野に位す、上記の前後の時ドイツ軍の占領に歸した、當時その皇太子馬を進めてこゝに入り、大伽藍前のグラン・オテルを本營とし、早や巴里入城の日を夢みつゝ居ること一週間にして、忽撤退しなればばならなかつた



ランス大伽藍前 像とゲルダマンヤ 像とオ・ラテ

爾後フランス軍よく守つたから、この市幸にも復どドイツの手に入らなかつた。しかし爾來四年間、ドイツ軍は北方高地より砲撃をつゞけたから、その一萬二千の家屋に

して爆弾の見舞を免れたもの、僅かに二百軒とはないと言はれてゐる。だから戦後四年の今日、市中を巡覧するに、破壊家屋頗る多く、惨状尙ほ歴々たるものがある。就中、最大破壊を蒙つたのは、高さ八一メートル半の雙塔を有する大伽藍だ、成程好目標であつたに違ひない。ゴチック式建築の古典の随一としての名刹が半ば破壊し今は全然修繕中なるのは、痛ましい次第である。上記の皇太子の一旦舎營したグラン・オテルも亦た大破して居る。

ランスは中古のシャンパーニュの北部平野にあつて、その周囲葡萄畑が多い。古代羅馬の時、ツロコートルムと稱し、ガリア民族の作れる市で、レミ部の中心である、因てランスの名起る。羅馬の凱旋門今尙ほ存す。五世紀の末監督に聖レミー(レミギウス)といふが居た(だから、大伽藍の外に、別に其名の古刹もある)。此名僧が、時の侵入者フランクの始祖王クロウイス及びその國民が始めてキリスト教に歸依した折、こゝにて國王の加冠式を行ふたので、早くから有名である(四九六年)。それでこゝの本山はフランスにて最も格式高きものとなり、フランス國王の古式に依る者、多くこゝにて即位式を行ふた。劇的事件としては、オルレアンの少女ジャンヌ・ダークが國難を救ひたるや、チャールス七世を奉じて、こゝで即位式を舉げし

めた(一四二九年)ので一層有名である。それで近時大伽藍前にその勇ましく進撃中の騎馬像が立てられてゐる。この市は戦前人口十萬を越え、この地方の名産シヤンパーニュ醸造の中心で、又た夙に學問、殊に宗教教育の隆盛で知られてゐる。驛頭にかのルイ十四世の



ベリオーのパツク戦跡

財政家コルベールの立像で飾られた廣場がある、この市が彼れの出生地であるからだ。私たちが行は、日英米、その他諸國から旅客四十名ばかり、自動車二臺に分

乗してドライヴした。一順市中を巡覽してから、古羅馬人の作り残した直きこと變の如き道を、一直線に北へ馳せ、ブリモンを経てエーヌ河畔に向ふ。途上、一々十字架を立てた新墓が無數に壘々たり、或は村落の破壊に委したるを見る。又たヒンデンブルグ線を通過す。マルヌ・エーヌ運河のエーヌ河に入る處、ペリ・オー・パツクにて途中下車、その要塞爆破の跡を踏査す。ドイツ軍こゝに據つたが、フランス軍最後に之を爆破し、地下の白堊土これがために露出し、彌望雪の如く見ゆ。附添案内の佛人は本と曹長である、戦に片手の指を失ふ、隨時隨所よく説明す。殊に上記のペリ・オー・パツク爆破跡を談ること尤も雄辯を極む、蓋し曹長得意の場面である。更に乘繼ぎ、遂にシュマン・ド・ダム高地の麓、クラオーヌに達す。この村は舊村全部破壊したれば、之を棄て、別地に新村を造營しつゝある。一行はシュマン・ド・ダムの中腹にて車を駐めて小憩したから、おのがじしにその山腹を攀ち登り然るべき隆起點に立ちて過ぎ越し方を顧みるに、ランスはドームの高塔によりて約三十キロメートルの彼方に於て認められ、満目すべて五年に亘つて争はれた新戰場で、その間に流されし血潮から萌え出でたか、紅の野花所在に咲く。

歸途は西方に迂回し、再びブリモンに出で、ランスに引返す。時に七月中旬の晴

れたる日、日中こそや、暑氣を感じたれ、氣候率ね日本近畿の初秋の如く快し。郊外の夕暉は復舊中の家屋の上に照りはへ、屋上労働に従ふ男ら或は嬉々として車上の一行を歓迎歡送し、特に曹長とはよくボン・ジュールと呼びかわす、蓋し當時の御互に命冥加のあつ



望遠場戦りよムーダ・ド・ンマユシ

た戦友同志か。即夜巴里に歸る。巴里から伯林へゆくには北フランスの重なる戰場を通過する。私たちの列車が、ベルギ境の一小驛で税關調べのために停つた時、恰

も夕ぐれの微かな光にすかして見ると、驛站及び附近の家屋の大破があり／＼と認められた。で、私は下り立ちて、折から驛の間に合せに作られた歩廊で、列車を監視する一憲兵を見つけて話しかけてみる

と、こゝは、かの開戦當初フランス方の頼みとした有名な國境要塞モーブージの極近くであることが分つた*

たび傷き、三たび癒えて、三たび戦線に出たさうである。それでは多分の年金でも、と問へば、彼は肩をすぼめて、貴下！どうして／＼、吾々はまだ一文も頂戴出来ない



跡塞要シ-エリ

*この憲兵は戦争中出役した男であつた。彼は最初この要塞防禦戦に傷きて後退しこれを手始めに、三

い、ドイツからの賠償金が這入つて來ない以上は、と答へた。

ウエルダン、ソム、イーブル等の戦跡へは遂に行く邊がなかつた。けれどもリエージュへは、ドイツに在る日、アーヘンから國境を横ぎつて行つた。是れ正さしく一九一四年八月、ドイツ軍潮の如くベルギー進撃を開始した道筋である。要塞はリ



士兵1ギルベのこあ塞要シ-エリ

エーシ市を環つて十幾つもあると聞いた。其がドイツ軍の西方突撃を二週間喰ひ止めたのだ。その一つであるフォンサン塞が一般に觀せられる、驛からは七八キロもあつたらう、上り下りの多い市中を通過して市外に出で始めて達した

その土地は平野であるが一體に高臺を成してゐるから、ドイツ軍の侵來した方面も可なりによく眺望出来る。この要塞は破壊されたまゝに保存され、近くそこに記念碑を建てる計畫があるさうだ。

二五 ドイツの變化 伯林の大練兵場

北フランス及びベルギーからドイツに入ると、戦争の破壊の跡方は、自然の外観上には殆ど見出され得ない。尤もエルザスの一角と東プロシヤの一部とだけは侵入を受けたけれど、その破壊は、普通の観光客は通らないから、その目にふれない。それでドイツの國內は見るから、山河美はしく、植木茂り、田野整ひ、郡邑町村櫛比し、寺々の高塔相迎へ、外觀上昔に優るとも劣つてゐない。汽車中から何人の目をも惹くなるケルンの大伽藍の如きも、かのランスのそれとは違ひ、何の破壊もなく昔ながらに莊嚴な姿で、天際に屹立し、宛然ライオンランドの完全を象徴してゐる。ラインの水は舊に依つて漾々として大鐵橋の下を流れ、ルール河盆地に林立する煙突は忙はしく黒烟を吐き、ウエストファリアの山村水廓つき／＼しく吟眸に入る。私と偶同行の、今回始めて入獨する同胞數子は、成程ドイツだと頻に感嘆した。

しかし、ドイツの人事と生活の内容とは最早前回滞獨中のものではない。ライン橋頭英國のユニオン・ジャックが翻つてゐる。ケルン驛站には、聯合外國軍人三々五々徘徊するのを見うけた。オウ・ド・コロニーユが中瓶一個價百二十マルクで賣られる、昔ならば大枚六十圓、今七月下旬の相場では四五十錢にしか當らない。伯林に著いた夕、ボツタダマ・ブラツツの或るホテルに投宿してから、早々シエーネベルグの舊友訪問にと出かけた時、そこへ行くのは伯林第一の大通であるに拘はらず、街燈の光明がうす暗くなつて、昔の不夜城の面影の、今は窶つれて見えた。かねて勝手知つてゐるから、古馴みの電車四十番に飛乗つたが、さて賃金五馬克要求されて、一寸驚き氣味で考へなければならなかつた、昔に比べると五拾倍であるからだ。しかし相場にすると僅に一錢五厘か二錢に過ぎないから、實價は却て昔の半にも當らないのだ。よく考へると、汽車賃は尙ほ一層格安だ。自分が乗つて來た巴里伯林間は、佛白の分があるから、氣附かなかつたが、ドイツ内の賃金は外國人に取りては御話にならぬほど廉い。それは、勿論額面では戦前の十五倍になつてゐる、それでもマルクは既に百分の一以下に落ちてゐる。目下は國民の旅行季節だから、當分値上出来ないのだ。國民は三等一キロメートル四十五フェニヒで旅行し得、だが、

之を日本貨幣の價にすると、京阪間の三等が十錢以内、實に六錢位で乗れる割だ。それで國民の生活はどうなつてゐるか。ドイツに入つて最初の停留驛ケルンで、跣足の小供がそつと手を出し、外國の方は御金持だと、物乞した。伯林についてから、或る驛の日曜の夕、暗に乗じてか、小供の群が、頼みもしないに、争ふて私たちの靴を拭ひに來たのには涙がこぼれた。

こんな體驗をあげるなら、數限りがない。私は、その内から特に一つの最も適切な代表例を幾分か詳しく話さう。

伯林のフリードリヒ街を一直線に南へ行つて、大ナポレオン討滅の當年を偲ばすべきベル・アリアンツ場^{プラッツ}から、更らに南へゆくと、郊外にテンベルホーフエルフェルトといふ廣大なひろ場、否な野原がある。これは帝政時代の大練兵場である。戦前當時に於ては、九月の初にセーダンの日があつて、普佛戦役のカタストロフであるナポレオン三世の降伏の記念日として、これは特に國祭といふ譯ではないが、ドイツの軍隊や學校ではそれ／＼壯んに祝はれる風があつた、猶ほ日本で奉天戦、日本海戦を記念するが如きである。さうして同じ月に大演習があつて、然る後にこのランベルホーフエルフェルトで盛大な觀兵式が舉行されたのを、私は尙ほ印象淺か

らず記憶してゐる。それは一九一一年の秋天高く馬肥ゆる時であつた。今回再び伯林を訪ねてみると、今はセーダンの光榮の思ひ出どころか、伯林兒の元氣は昔の夢と消えてゐる。それは何所よりもテンベルホーフエルの野によく現はれてゐる。

見たせば、南北殆ど二千メートル東西裕に三千メートルの廣場、昔は千軍萬馬の馳聘してゐたところ、今は一兵卒の影だになく、野原の大部分は一面に草茫茫と生ひ茂り、あちらこちらに三三五五山羊が放し飼ひにされてゐる。更らに一部分は耕作されて菜園畑となり、他の一部分は自然の草生^{くさば}へのまゝでおのづから青年少年の遊び場となり、そこには埒もベンチも何等の設備もなき有の儘で、小供らが或は紙鳶を揚げるあり、或は稍年嵩なるがアソシエーション式蹴球に熱中してゐた。凡そ軍隊が條約に依つて制限されてから、ドイツの青年は、百餘年前のブルシエンシヤフト時代の如く器械體操^{ツルン}に向つた、否なそれよりもより多く現代的スポーツに傾いて、彼等の元氣を漏らすことになつたらしい。只だこの大野原の中央に、昔ながらのポプラが一本、舊の如くに寂みしく孤立して残つてゐる。これは練兵や閱兵の時のめじるしで、ドイツ統一の老ウイルヘルムは元來武將であつたから、好んで此樹下に立つたので、世にウイルヘルムスバッベルンと名づけたと聞いてゐる。それで老

帝の記念と共に今日までも保存されてゐる。この一本の樹木だになくば、誰れかこの野を帝國時代の十萬の猊貅の馳騁場裡と思ひ得む。私は之を只だ一つの榮としてやつとおほろげなから當時観光の跡を辿ることが出来た。當日カイヤールの馬首を立てたのは彼しこか。列國外交團の陪觀したのは此こか。又た同じ時の秋のことであつた、かの自由戦役當時の英雄であるツルンの元祖ヤーン百年祭が行はれて、全國から數萬の男女ツルン組合代表者が練り込んで來て、一齊に演技した時の總司令臺はいづこに設けられてあつたか。なご且つは自問自答もし且つは同行の人々に尋ねもして、自ら今昔の思に耽けつた。その上に私をして一しは桑海の變を感せしめたのは、大野原の一隅、クロイツベルグ及び昔の軍國を偲ぶ名にしおふミリテール驛の方面、即ち市に接近する方面のところは、市の簡易住宅地と化し、一種の田園市區が現に建築されつゝあつて、昔時の光景が次第に没しゆくことであつた。

以上、テンベルホーフエルフェルトの荒廢及び改造は、ドイツの時代變化を最も明瞭に物語る象徴の一であらう。時代變化とは他でない、極めて抽象的にかいつまんでいへば、重大な領土及び富源の喪失や莫大な賠償の賦課はいふまでもなく、帝政の沒落、君主權の絶滅、軍備の殆んど撤廢に近き制限、共和國の建設、社會民主主義の支配、貴族及び軍人の閉息、セミチズムの隆盛(獨太人の跋扈)、資本家の飛躍通貨の暴落、物價の狂氣的騰貴、一般人民の乞食化、中等社會の沈淪、職業の實際的方面へ轉化、投機者流の横行、外國人の入國、就中、その遊覽客、留學生、亡命者の激増、工業の空景氣、勞働の需要、賃金の社會主義的設定、新階級の勃興、都會人口の膨脹、怖るべき住宅難等これらである。

その他、以上の大變化に伴ふて、種々の悲むべき社會現象が新に生れて來た。それは、家庭生活はいよく破壊され、職争中から既に不道德に陥りつゝあつた一般、特に青年男女の風俗はますます墮落し、人心險惡となり、料理屋、カフェ、劇場、踊場は繁昌し、人々とかく刹那的快樂を貪り、勤儉貯蓄の風は著しく減退し、詐偽盜難等の罪惡類に増加し、一般社會の不安と不愉快とを齎したことである。

二七 物價と生活

一般の物價は、上に一寸述べた交通費よりも、ずつと足早やに駆け昇つた。馬克を以て品物を買ふ外ないドイツ人は、狂氣的騰貴だと憤慨する。それでもこの値上の足並は貨幣相場の暴落程度に後れてゆくのみだから、優勢な外國貨幣所持者には、

生活は安い。私がドイツを最後に出るすぐ前、九月三十日の、ライプチヒの公設市場が発表した品質中等日用品価格を、こゝに表に作成して、一々戦前に對する倍率を出して見る、但しこの馬克は一磅で八千位も買へた、即ち戦前から見ると四百分の一になつて居ることを頭に持つて考へるがよい。

| 品 | 物 | 一九一四年 | 一九二二年 | 倍 |
|-------|------|-------|---------|-----|
| | | 戦前の價 | 九月三十日の價 | |
| バター | 一ポンド | 一、四〇 | 三八〇、〇〇 | 二七一 |
| マルガリネ | 同 | 、八〇 | 二二〇、〇〇 | 二七五 |
| フエツト | 同 | 、九〇 | 二七〇、〇〇 | 三〇〇 |
| 卵 | 一個 | 、〇六 | 二二、〇〇 | 三六六 |
| 外國砂糖 | 一ポンド | 、二一 | 八〇、〇〇 | 三八一 |
| 珈琲 | 同 | 一、六〇 | 五五〇、〇〇 | 三四四 |
| 牛肉 | 同 | 、七五 | 一四〇、〇〇 | 一八七 |
| 豚肉 | 同 | 、七五 | 二六〇、〇〇 | 三四七 |
| 猪肉 | 同 | 、六五 | 一四〇、〇〇 | 二一五 |
| 鰯詰 | 同 | 一、二〇 | 二八〇、〇〇 | 二三三 |

これによると、第一に爲政者の社會政策が利いてゐることが感ぜられる。パンと牛乳の比較的安いこと、これはかの交通賃に次いで頗る安値に保たれてゐる。勿論、農産物では野菜ものは安い方だが、バター、卵、肉類は随分高くなつてゐる、就中卵と豚肉とは約三五〇倍である。而して最も騰貴してゐるのは砂糖と石炭で殆ど四百倍だ。これらは當時の馬克相場の下落に殆ど相當する騰貴を示してゐる。

| 但しパン及び牛乳は官廳之を定む | | 一九一四年 | 一九二二年 | 倍 |
|-----------------|---------|-------|--------|-----|
| 馬鈴薯 | 同 | 、〇四 | 四、五〇 | 一一三 |
| 絹さや | 同 | 、二〇 | 二二、〇〇 | 一一〇 |
| 大根 | 一本 | 、〇五 | 二、五〇 | 五〇 |
| 林檎 | 一ポンド | 、〇二 | 一、〇〇 | 六〇 |
| 梨 | 同 | 、〇二 | 一〇、〇〇 | 五〇 |
| シトロン | 一個 | 、〇五 | 一、〇〇 | 二二〇 |
| 煉炭 | 一ツエントネル | 、六八 | 二六六、〇〇 | 三九一 |
| パン | 一ポンド | 、一一 | 一一、〇〇 | 一〇〇 |
| 牛乳 | 一リテル | 、二二 | 三二、〇〇 | 一四六 |

資本家と労働者の一部の外は、なか／＼肉に有りつけないのが、ドイツ人の昨今の生活である。夕方ポツダム・ブラツから大きな肉切れを提げて歸るのは概して労働者だ。官吏や先生やなどは肉どころか、バターすら買へない。私の知つてゐる家庭では親子二人ぐらしで、昔は少くとも毎日曜には鷄ケンセウライヂンの焼物か何かの肉を食つたものだが、それは昔の夢となつた。彼等の収入では一日二人で二百乃至三百マルク（九月）で食はなければならぬ、では迎も肉は買へないのは、前記の市場の値段書で首肯される。私は一人の大學教師を知つてゐる。その宅へ三回ほど招かれたが、一度も、如何なる肉もそれを完全な姿で頂戴したことがない、精々薄く切つた腸詰かいぶし魚か位で、そんなら、ハム位は有りさうなものだと日本の人は問はれるだらうが、そのハムは高くて到底教師風情の家庭の手に入らない。食卓には砂糖は甚だ乏しかつた。バターは私といふ珍客のために當日だけ特に買ひ入れたのでなからうか。勿論家人の力説した所では、頭を使ふものには脂肪が必要だとあつたから、平生主人公たるプロフェッショナルだけがバターを充てがわれたであらうが、他の家族の人々は如何であつたらう。珈琲は、外國貨幣で輸入されなければならぬ、随て極めて高いから、いつも遂に御馳走にならなかつた。酒類は勿論一滴も振舞はれなかつた。

或る田舎に滞在中、その村の貧民に贈りものするとして、偶そこで落ち合ふた某大學教師に、一萬馬克の紙幣を出して、その内から然るべく中介周旋を依頼したところ、このプロフェッショナルは大きな眼をみ張つて、自分はまだこんな大びらを見た事もないといふ。これは一萬馬克紙幣が出てから、たしか三ヶ月も経つてからのことである。同じ先生が、私を村の農園へ案内して呉れた時、その下男頭を指さして、彼奴の収入は自分より多いのだとの嘆聲をもらしてゐたのが、尙ほ耳に残つてゐる。

抑も目下のドイツ生活の困難の最大原因は、明かに石炭の缺乏である。石炭の拂底は非常だ。毎戸の購賣額は警察令で制限されてゐる。どんな物品でもその仕上げに火力を要するものは、いよ／＼高くなる。前記の表をみよ。比較的高いものは多くはそれだ。例へば砂糖の高いのは何せか。人或はいはむ、ドイツの東部には甘大根が澤山耕作されて砂糖となるから、外國砂糖の輸入を制しえて、その價は安からうぞ。然らばどうしてその甘大根から砂糖が出来るといへば、高い燃料の火力によるの外はない。だから砂糖は高くなるを得ない。次に又た随つて入浴費も洗濯賃も高くなる。今日の生活状態では、最早戦前ほどの所謂「ドイツの清潔」は到底期す

ると出来ない。石鹼は高い、勢力は安くない、石炭は不足だ、それで、例へば、ホテルでも、料理屋でも、食卓に白布のナプキンを使用するものは例外だ。偶にそれが使用される場合にはゲデック料としてその費用をエキストラに勘定する。ナプキンは大抵紙だ。石炭の不足の結果、薪が大分殖えて来たことも、私の目を惹いた。これは戦前の大都會では餘り見なかつたことだ。近來はかくの如く燃料の逼迫の結果、東方ドイツの原野に埋もれてゐる褐泥炭を何とか代用せうと、切りに研究工夫中だといふことだ。それであるから、燈火の節約たらない。街燈の数が減り又は暗いのは既に述べた。每家表の門を夕早く締める、八時か九時かだ。これは一つは物騒の警戒にあるのだが、又た一つには燈火の儉約だ。宿で一吋消燈を忘れると、主婦から厳しく小言を頂戴しなければならぬ。さて寒くなつたら防寒燃料問題の八釜しさが思ひやられる。

戦争の危機に金貨馬克を提供して軍事公債にした人々は馬鹿をみた、これは殆ど全國民みなさうだらう。又た吾がドイツは必ず恢復すると信じ切つて居た貴族や保守派は、いつまでも馬克紙幣を握つてゐたが、やつとこのごろに至つてその夢がさめた。されば國民の富全體が、いつの間にかどか減りしたことはいふまでもない。

さうして、而もその富の分配が非常に變つた。即ち戰時資本家と労働者の一部分との外は、國民の最大多数は、成程外觀は尙ほ昔のまゝ、住宅にすみ、從來の通りの衣裳をまどふてゐても、懐工合からいふと、一時に乞食同然の境涯に落ちおれたといつても差支なからう。彼等には或は建築、設備、物品は残つてゐやうが、有金からいへば無一物同然といふのが、その常である。資本有り又は資本を儲けた者でも、本國に於てはとかく不安全だ、殊に馬克にして置ては危険の上もない、それで倫敦とか紐育とか外國に預ける方が確實だ、よしや國內に不穩が無くても、政府は重税を課し、市は莫大な附加税を取り立てゝゐる。一ヶ月に一千馬克（今日では僅かなものだ！）の給料取る下男下女でも、その一割を課せられてゐる、こんな下給のものに十分の一の所得税とは苛税だ。況んや富める者をや。私の知り合ひになつたケルンの一紳士は可なりの財産家らしいが、収入の六割を上納しなければならぬといふてゐた。そこで資本の外國流出といふ現象が避け難くなる。

馬克暴落の今日、百萬長者が何にならう。せめて少くとも億のけたで數へなくては、小金が有るとはいへない世の中になつた。去る夏以來極々田舎ものはともかく、全國民は自國の貨幣に自信がない、少しでも儲けてくると、彼等は物品の買ひ入れ

に奔る。何せなら下るは馬克だ、上るは物品だからだ。靴とか砂糖とか珈琲とか必需品を買ふて貯めた方が利益だ。相場の下落が甚しくなつた頃には、一週間か二三週間ごとに必ず物價が騰貴する。それで大抵來週の月曜からだと分明つてくるから、金曜土曜の午後のよく流行る店はこんな買手の突進で門前市を成す。さうして十分買物して尙*



伯林のアン・リ・ンテ・ル・ンテ・ンテの新買物の女

*は餘裕あるものは、兩替屋に走つて外國貨幣を買ふ、それは弗か磅である。そこに投機心が伴ふことは勿論である。よしや自分から進んで投機に手を出さなくても、何んな人でも、その人の生活そのものが非常の投機だ。何せなら一日の内にでも時々刻々變動し、一夜越ゆると、一割二

割も高下を生ずる馬克相場に支配されてゐるのだから、おのづから大いなる投機である。されば伯林兒の日々の生活に於て、食ふことはさておいても、第一に知らなければならぬのは、今日は弗が幾馬克するかといふことだ。それで、晝刊新聞である「ミツタク」がよく争ふて購入される。一時一刻を争ふからである。次に投機といへば、外國人が最初からその渦中にうづ捲かれてゐることは容易に想像出來やう。最も頑固なドイツ人自身すら遂に自ら信じなくなつたドイツ馬克を、今尙ほ信じて、その恢復を待つてゐて、大馬鹿を見た外國人も決して慚くない。

二八 外國人殺到 排外氣分

上に述べたところにより、ドイツの事情は、如何に外國人を誘ふてごし／＼入獨せしめたか、が略ぼ推察されよう。この夏の伯林といへば、全世界の外國人でうよ／＼してゐた、何せならトランプが弗か磅かであるからだ。歐米諸國人は勿論のこと、しば／＼エジプト人も、ヒンヅウも、時には黒ん坊さへも見受けた。私は一日KDWといふ百貨店で、一人の印度若しくはその他の東洋から來たらしい英語を話す有色人が、この店で時計を買ふのを目撃した。彼には一人のドイツ婦人が付きそ

ふて通辯してゐた、宿の主婦だらう。彼はあれやこれやと選擇したがどうも氣に入らない。私は廣い意味の東洋人として同情の念が起り、中に這入つて口を利いてやつたら、詮するところ、彼の要求はスウイス製のやうな小形で、同時にドイツ製のやうに安値な時計が欲しいといふのであつた。賣娘も附添の主婦もそんなものはないと説明しても、私が口添ひしてやつても、遂に彼の腑に落ちなかつた。さうすると、案内の主婦らしい女は聲高からかに賣娘に向つて、何分「無教育」ですからねと言譯けた。この語は勿論本人には何の意味も分らなかつたらしい。之を傍らで耳にした私は思ふた、本人も本人だが、宿の主婦も主婦だ、いづれ宿ではこの外國人を善い椋鳥として、取れるだけの金を捲き上げ、蔭ではこの調子で輕蔑してゐるのだらうと。外國人に對してはよい見せしめであつた。

最も多いのはロシア人であつたらう。八月の調べでは伯林だけに二十萬人居た。彼等の多くはボルセウイキから遁げて來たものだ、就中バルチック・ドイツが尤も多い。その外に是等の亡命者の内で生活に窮するものは、ハンブルグの北方の田舎に收容してあるさうだ。その外に政治上經濟上の用務で入り込んでゐるロシア人も少くはない、過激派の首領株も時々伯林へ來てゐるやうだ。何分にも露獨の、よしや

政治上でなくとも、經濟上提携で、聯合國に當らうといふことは、かの前年のラバロ事件以來公然の秘密である。ロシア人は半永久的に住居を伯林に卜するものが多い。彼等は金塊や寶玉を懐ろにし、それを賣喰ひしてゐる。或はロシア關係の會社商店の使用人となる。彼等は子弟を教育するに伯林が便宜だとしてゐる。その外、東北ヨウロッパの混亂の餘波と伯林の生活の安いのと金貰けの機會が多いのとで、その方面から種々雑多の面白からぬ珍客が這入つて來てゐるらしい。それでポーランドやガリチャあたりの漂泊者や惡漢やの類までも流れ込んで、さうでなくとも、ドイツ人自身の墮落で惡化してゐる伯林の空氣を、今一しは悪くしたらしい。

ドイツ人自身も、多數集り勝ちな伯林であつたから、住宅難が高まつて來たのは偶然でない。それで既に述べた通り、住宅建築が起る。之と同時に警察では毎戸毎に家族數と室數とを檢べて、苟も餘裕あるものは必ず賃貸せしめる。中にも外國人で金ある者はドイツ人から住宅を買收し得るから、特に西南住宅區方面では、いつの間にか不動産の所有權が澤山外國人の手に渡つてゐる場合が、だん／＼多くなつたとのことである。

そこで外國人處分の問題が持ち上つた。入國税とか滞在税とか汽車賃の増賃とか

を設けようといふことだ。この差別待遇は、ドイツの繁昌のためにならないとて、反対するものもあつて、全国均一には行はるべくもないが、ともかく直接外人から甘い汁の汲へない多数人民は頻りに之を主張し、中には入國者の資格の制限を設けようといふものもある。何せなら、外人の放漫がますます國內の物價を高くし、その弊をうけるのは、吾々人民だといふのだ。現に私などは、旅行中汽車の中などで、ドイツ人から露骨に、一體君たちが悪いのだと話しかけられたことがしばしばあつた。彼等には外國人に對して嫉妬とひがみを以て臨むで来る傾が多い。中には敵愾心を夾むて来る。現にミュンヘンの市では一切外國人から滞在税を取り立て、居て有名である。ケルンやフランクフルトでは、そのホテルをして外人泊り客に附加金を課せしめて之を市の収入としてゐる。だから室代がさう高くないと思ふて泊り込むと、五割とか七割とか課せられて案外に安くないことがある。又た買物には市により、若しくは同じ市でも店によりて、外國人價として五割又は十割を附加するもある。その上に案外安いものでも、いざ國を出る時、輸出許可税を取られる。或は税關で嚴重な調べがあつて、往々三割なり十割を課せられる。私はドイツを出て了ふ時、バヴリアのリンダウ市で税關を通過して出たが、その時、私の著用して

ゐる外套や洋服が新らしい、何時何處で調製したかと咎められた。私は正直に三ヶ月前伯林でかくくの價で拵らへて爾來著用してゐると答へた。然るに關吏はそれでも輸出許可證を要する、所持してゐるかど問ふ。自分は持つてゐなかつた。然らばとて原價の三割を徴收された。これはドイツの立場からいへば己むを得ない事情もある。例へばスイスとかチェコスロワックとか、物價の貴い隣國の人民は、わざ／＼ドイツへ洋服を新調に行つて、それを著用し若しくは持つて歸るものが多く、況んや單に賣買のためにする冒險射利者流も少くはなかつたからだ。その他、機械、藥品、貨幣の持出しの八釜しいことも無論だ。

私の直接に見た感じでは、この夏は、これまで外國人がドイツに入つた數の rekordであつたらう。時候はよし、紙幣馬克は暴落する、物價の騰貴はそれから後れ／＼に跡を逐ふてゆくばかりだ。東はロシア、北はスカンデナヴィヤ、西はオランダ、ベルギ、南はチェコスロワック、スイス、それに英佛米人は勿論のこと、われ／＼日本人もその一つだ。ドイツ人から見れば、是等は優勢な外國金力を以て内地人の面を張りに來たのだ。この語を文字通りに解しても殆んど差支ない場合すら少くなかつた。別して無教育な成金の多い米國人、殊にその横柄な婦人に多かつたや

うだ。一體に有象無象が澤山出掛けたことだから、吾が同胞のうちにも、同じ無作法者は決して皆無とはいはれなかつたらう。つまり、戦争で殆んど全く侵入を蒙らなかつたドイツは、今は金力で平和的蠶食を受けつゝあるのだ。私は賠償問題をいふのではないこれは別問題として外國の漫遊客の行動



ケルン回覽自動車

が經濟上道德上ドイツ人に及ぼす悪影響をいふのである。ドイツの内でも伯林の如き大都會はいふまでもなく一般に尤も外人の殺到で賑はつたのはライン河畔であつたらう。地理上の便利はいはずもがな、今は聯合國の守備最中である是等の國の本國人

は、おれの國の兵隊の武者振も見がてらに見物に出掛けよう、別して心丈夫の感があるといふのだらう。フランス人の心理は尤も然りだ。だから伯林やハンブルグでは餘り多くは見受けなかつたフランス人はライン河畔に於て、殊に彼等の占領區域に於てうよ／＼するほど集つて來てゐた。隣の白、蘭、スウイス、スカンデナヴィヤはいづれも物價が高いから外國人は行かない、殊に夏のスウイスといへば、通常は外國觀光客を惹きつける一大魔力であるのに、この夏は客稀れで、ホテルは多くが、空の觀があつた。それもその筈、土代、スウイス人自身が自分の國に留まつてゐない、それよりか安いドイツに往かうと、相争ふてラインを下つた。他の隣國人でもさうだ。彼等は少し金があつて、内地で一週間も旅行し得る懐合ひの人々は一ヶ月もドイツで遊んで暮せるから、割方大いに徳用だ。さればライン河畔に於ける外國觀光客の麁集雜沓といへば、實に非常であつた。それで到るところホテルみな満員であつて、餘程上手に又は敏活に手廻はしておかねば、部屋がないで斷はられる。私がトリアに著いた夜はまだ霽の口であつたのに、いづれのホテルも満員で、一時間ばかり此處かしこの素人屋をあさつて、辛うじて或る靴屋のそれはく／＼陋隘極まる部屋に有りつき、それでも真に有り難いといふ感じがした。

汽車は始終こみ合つて、餘程前から手廻はして座席券を買はねば、駄目だ。私が偶然南ドイツで互に譲り合つて、やつと同室同席したハンガリ人夫婦は、よく流暢な英語も話し、車中多くは讀書に耽つてゐた。随分教育のある人らしかった。その内に或る驛で停車の際、偶室前の通り廊下を出て行く米國婦人一行があるのが、われ／＼の御互の目に止つた時、その夫人の方は徐ろに私たちに告げて曰く、彼の人たちは随分無作法ですよ。私の先刻乗車の時、座席さがしに入つた最初の室にはあの人たちが居たのです。私が空席はありませぬかと尋ねると、入口に坐つてゐた一人は突然短かいスカートからその諸脛をにゆつと蹴出して向側の座席へ橋かけして、有無も言はず、私の這入るのを妨害しました。それがレディでした、アメリカの淑女でしたのよと、さすがに憤りの色も見せた。これはバーデン・バーデンからアムステルダム行一等車中の出来事であつた。

因みに日本人のことを一言する。この夏の伯林は、恐らくは日本人の最も多く入り込んだ年であつたらう。その數は一時は一千とも甚しきは二千とも唱へられた。ちよつと街をあるくと一人や二人に出あふ、レストランに入ると大抵誰かに落ち合ふ。殊にドイツ銀行ではさうだ、何せなら馬克の暴落のため小使錢が多く入用

になつて、而も一時は紙幣拂底のため、銀行が一時に一萬馬克以上は出さなくなつたから、頗る繁く銀行通ひしなければならぬことになつたからだ。それでドイツ銀行にゆくと二十人三十人の同胞には屹度出あふ。それがために日本人だけの待合室が出来てゐて、そこが宛で日本人倶楽部の形を成して來た。かく入獨者が多數であるから、自然いろ／＼の人が入り込んで來た。それだから單に研究や調査のために滞在する人々では、是等の新來者の送迎、往來、案内に忙殺されて自分の仕事を妨害される向も少くはなかつたらしい。しかし、郊外にでも住み、その他時間の繰り合せの上手な人は伯林固有の便利と境遇とを善用して、他の都市に住む者よりも有益に暮らしうるだらうと自分は考へる。一時内地の新聞では留學生がだらしない生活を送つてゐるといふ悪評を立てたが、多數のことだから勿論絶無とはいへまいけれども、それは大體に於て新聞種として誇張されたものらしい。それよりか一時這り込んだ通り過ぎの連中のうちには、成金や坊んちの類が少からず有つて、随分擯斥すべきことも仕出かし兼ねなかつたらう。今後西洋に留學する人はかの伯林の悪評を氣にするには及ばない。前にもいふ通り、伯林は又た伯林の長所がある。只だ語を寄せておく、ドイツ人の神経は大いに昂ぶつてゐるから、彼等に對して慎重

な態度を取れど。例へば猥りに大びら切つて彼等を御馳走するが如きは、却つて結果が良くない。それよりか真心こめた待遇だけに止めておいて、餘裕あれば、これを市の救貧事業とか、育兒のためとか、學生救助とかへ義捐する方が、何んぼう金が生きるか知れない。ドイツ人の聯合國人に對する憎惡の程度を案するに、戰爭中は尤もイギリス人を惡み、目下はフランス人を深く憎みてやまず、その肉を食つても慍らない位に憎しんでゐる。之に反して日本人に對する感情は今は大いに和いてゐる。しかしだ、彼等は尙ほ愚痴っぽい。私の舊友にCといふ當時は中學生で、今は伯林で賣り出しの若手作曲家となつてゐるのがある。私はこれと年來から親しい關係が有り、今尙ほその將來に望をかけてゐる。しかしこの青年藝術家すら、今回私と再會の喜びを言ひ交はしたあとで、すぐ何せ日本はドイツに弓をひいたか、と可なり嚴しく問ひかけた。彼はいふ、大戰破裂の始め、ポツダムブラツに於ける國民の激昂の際、幾多の日本學生が、ドイツ萬歳、萬歳、と吾々と共に唱和してゐるのを見た時に、私は日本は確かにドイツの物だと思ふた。然るに數日にして意外にも日本から最後の通牒が來た。君よ語れ、何せ日本は聯合國に参加したのか。この詰問のうらにひそみて居る感情は、即ちドイツ人一般の感情らしい。況や舊軍人

や舊官吏やその周圍のもの達に於てをや。若しあの時に日本がせめてドイツのために好意の中立でもしてくれてゐたならばといふのが、ドイツ人の今更ら返らぬ繰り言である。われ／＼はドイツ人に對して敢て言を左右にしてはならない、われ／＼は吾が日本の立場の正しさと、當時の己むを得ざる事情とを、よろしく男らしく説明すべきである。私は旅行中に如上の詰問にあふ毎に、この態度を以てドイツ人に對して辯じ、以て可なりに成功したと、自分は信ずる。

二八 オーバーマンガウの神劇

外國人の殺到といへば、こどしは、ミュンヘンの奥、オーバーマンガウの殉難劇の行はれた年であつたから、一しは世界の人々をドイツに惹きつけたのだ。私は今回もミュンヘンへ行つたが、殉難劇を再訪する邊を有たなかつたから、前回觀覽の記事をそのまゝ掲げる。これも亦た一興だらう。

オーバーマンガウの知しるめす國には面白い文化の姿が様々残つて居る。Oberammergauのバツヨンスビールはその一である。これは十年に只だ一回だけ催される世界的大行事である。一九一〇年はそれに當つて居る。その夏、私は南獨旅行の次「イザー

ルの雅典」に滞在して所々観光中であつたから、或る一晚泊の道草だけで、之を窺ひうる仕合を有つた。

時は河畔の
リンデンの黄
ばみそめる秋
の九月も半ば
すぎ、パーワ
リヤの女神像
の下、マリヤ・
テレジオン廣
場が十月祭の
國ふりで賑ふ
て居るころ、*



アン・トラン・ゲンの蘇耶

*或る日曜の
午後、私は
一人の友と
上記の観劇
の急行車を
取つた。汽
車は南々西
へ駛せるこ
と約三時間
その途中の
約半時間は

かりは、鷗外博士の「うたかたの記」の場面を走つた、即ちローマンデクな聯想に富むシタンベルガ湖の水際に沿ふてゝある。それから、やがてはアマ川の谿間を廻り

て、その水源を距る
遠からざるところで
始めて目的地たる上
マンマ郷に著いた。
地は實に北デローラ
・アルペンのバイエ
ルン高原地方、郷そ
のものが標高八三七
米突、即ち比叡の高
さに在る一山村で、
人口當時一千六七百
とぞ聞えし。
夕食後友と散歩し
て村外に出た。郷を
環つて三方に、一千

Das Passionspielhaus in Oberammergau



殉難劇場

五百から二千米
突の峻峰があち
らこちらに聳え
て、アマの清流
に映じて居る。
折から一天月澄
みわたり、友よ
く吟咏し、天涯
の客愁は山中の
秋冷と共に一し
ほ身にしむ。こ
の晩、けふは日
曜とて定日のあ
とを受け、明日
はナハスビール

(観客が多かつたから)を控えてゐること、村中は頗る賑ふて居る。途上、長髪の男子、老幼とも多く徘徊す。即ち是れ村人の出演者である。彼等は前年役割が決定するや、それ〴〵蓄髪し一見直ちにおのづから古代人の面影が指すやうにして居る劇中、男女ども鬘も脂粉も用ひない。登場者約五百名の多數に上り、それに世話方約二百名を加へて合計七百、されば全村人口の約七分の三は直接に舞臺や樂屋や見物の事に映する譯である。私らは橋の袂で、一人の長髪青年を拉して相談る。彼年齒十七八ばかり、容姿白哲秀麗。君は何をか演ずると問へば、劇の幕合に出す活人畫中の天使エンジェルなりと答へた。このエンゲルの一語に一方ならず興味を催うし、月の光と橋の電燈との並びさすに任せて、再びさし覗けば、彼の面ざし一しほ神々しく見えて、直感的に、昔は羅馬の市場でグレゴリオ大法皇に、一朝崇高と惻愷との念を動しめたのは、かゝる好青年かと思ひ回らさざるを得なかつた。

パシヨンスビールは、その名の示す如く、基督殉難の宗教劇で、中古に流行したミラクル・ブレイの一である。この種の神劇は、近世に入りて教會改革の新風潮の發生と共に、到るところ次第に衰微した。バイエルンの如き舊教國ですら、百餘年前にすべて之を禁止し、只だこの上アマの一村に限りて古習のまゝに存して許すこと

にした。この村ではもと〴〵御堂の庭(墓場)を利用して演じて居つたが、その頃から、村端れの野田に演劇の場所を拵へ、遠近の人々に見せるやうになり、最近には更に發展して舞臺も觀覽席も立派となり、上アマガウのバツシヨンスビールとて殆ど天下一品の世界の呼物となつた。かく世界的になり始めた動機は、一八七〇年の開催の時である。それは、偶々の年のシーズンに、普佛戦争が破裂し、南獨人も従軍することとなり、當時耶蘇を勤めるヨーゼフ・マイルといふ男も召集されて、ミユンヘンの陣中で服役したが、特に國王の勅命によつて長い髪を斬らずにそのまゝ蓄へることを許された、翌年平和成り兵士等凱旋し、村人更めて神事を行ふた時、このマイル先生首尾よく耶蘇をつとめて大人氣を博したからである。爾來、この地の神劇はミユンヘンのビールの味、アルペンシトツクの樂みと相並びて、世上の人氣を呼び、英米佛乃至海外世界に於ける植民地の士女は、千里を遠しとせず、歐洲中原の避暑かた〴〵、續々來遊するし、一回一回と多きを加へた。去る一九〇〇年の折には、看客總數十八萬五千に上つたと注されて居る。私の行つた一九一〇年のシーズンの觀客は、その記録を逸したが、一層多きに上つたことは勿論である。私の到着した晩の村の景氣も非常であつた。それが夏のシーズン既に落ちて、而もナハ

シビールの前夜であつたに拘はらず、宿といふ宿、レストランといふレストラン、殆んど満員で、頗る雑沓を極めて居た。

晚餐の折、偶隣合はしたのは英語を話す女連の一行であつた。その中の一人は、西濠洲フリーマントルの奥にある黄金産地から歸省かた／＼看劇に來た、さうして前回にも訪ふた、これが二回目だどていと誇りやかに語つた。かくの如く、ミュンヘンの藝術を味ふ者、チロール山中のゾンマフリツシエを樂む者、アルペンの雪を踏破する者、つまり豪奢を競ふ弗旦^{ブルボン}の輩から、健脚を誇る青年男女學生まで、又た十字架上の聖き血を看せられて布巾を濡ふ善男善女から、一切のしぐさを冷視しながら尙ほ刹那を樂まうとする現代人に至るまで、全世界のあらゆる種類と階級の士女を惹き附けて居る次第である。

翌朝、私は夙に起きた。私は開演前に、劇中の大立物をその家に訪問する氣になつたからである。私はすべての役割が村の委員の選舉で定められ、それがしば／＼村の子女の運命に關係することさへ少くはないと聞かされたからである。就中、聖母マリヤは清淨無垢一點の難なき淑女たるを要する。これに當選するか否やは、時として可憐な女の一生を左右することがある。現にことは前回一九〇〇年の行事

に、この花形を勤めた某嬢が今回不幸にして落選したから、世を果敢なみて尼寺に入つたと傳へられた、このローマンズは一しほ私の好奇心をそ／＼つたからである。それでこの本年の月桂冠を戴いたツヅイング家といふのを訪ふた、この家も一小ホテルとなつて居る、先づ父なる人にあふ、彼自らも一役而も裏切者ユードスといふ大役を勤め、一癖ある六十才位の面構、後刻見た舞臺では、彼はなか／＼甘く演つてのけた、蓋し場中の千兩役者と自分は品定めした位である、この人の娘オツヂリ嬢が聖母を務めるのだ。

私たちの訪ふた瞬間、恰ど泊客の朝飯の世話をして居たらしかつたが、やがて父の陰から現はれて、日本のかた／＼ですかと愛想よく握手歎語し、數分間の話の中にも溫和しい卑からぬ印象をわれらに與へた、年齢三十才、小柄でブリュネット、殊に眼は大きく、瞳は黒みで如何にも東國風のやさしい女性に見へた。次に耶蘇を勤めるアントン・ラングを尋ねた、これは陶工で年齢二十五才、長髪豊頬、品位ゆたかにして、成程教祖を扮するに適する。只だ口せきが今一息で當年の神の子の御聲としては少々物足らなかつた。羅馬の代官^{プロクラトル}を勤めたのは現村長其の人で、これは時間がなかつて訪ねなかつたが、舞臺では随分威勢よく演じて居た、村長が代官と

は自然の適材適所。さすれば祭司長は村の僧が勤めたのではなかつたかと、後から想像した次第である。

劇場の様子を紹介する。舞臺は前舞臺と後舞臺に分れる、後舞臺は中央にギリシヤ風の殿堂があつて、この殿堂が重なる舞臺を形作り、場合によつて或はイエルサレムの神殿ともなり、或は耶蘇の出入したそれらの邸宅ともなる、この殿堂の左右翼には同じ恰好の小殿堂がある、いづれも石段附である、右は神殿を司る祭司長の宮殿、左は羅馬の代官ボンツスピラツスの官邸、中央の殿堂と左右の小殿堂の間には、各街路が透視される、その奥に石造の人家の櫛比する状が現はされ、つまり、當年のイエルサレム市の横町の光景が髣髴される、小殿の端には、それ／＼シンメトリにコロナードが附いて、これが前舞臺の兩翼を形作る、前舞臺は東西圓柱廊の間にあつて、長さ十五間から二十間もあらう、ともかく、希臘羅馬時代の寛づくりしたキトンやトーガの衣裳着けた男女約四十人から成る合唱隊が、優つくり一列横隊を作りうるだけの長さがある。而して舞臺及びその建築の全體の上は、勿論青天井でその背景として既記の村の自然の山々が屏顔を露はして居るのが観覧席から見へる。即ち、すべてが野外劇の面影を存して居るのは嬉れしい。私の觀た日

は申分ない好晴であつたが、夏季の山中のこと、て時には驟雨到り若くば濕霧深く鑽ざしがちであるから、ごうかすると、登場者づぶ濡れにぬれても一切構はず演技するさうである。勿論、観覧席の上は高い鐵骨ガラス張りの屋根が設けてある。席の数は約四千人分ある入場券は十馬克から二馬克まで、自分はミュンヘンで前フオーカ買した、すべて番號附である。

演奏は朝八時から夕六時まで晝食の一時間を除いて、休憩なしに息をもつかず行はれる。何となれば、毎齣の始めに開幕に先ちて、かの合唱隊が兩翼から先達に導かれて登場し、オルケストラにつれてその時の本齣に關係ある詩曲を謳ひ出す。歌は序と鑑との二部に分る。鑑は本齣の所作に因縁があり、又は類似がある舊約全書中の或る場面を現はした活人畫に伴ふ歌である。この謳方の順序は、先づ先達が一人で朗々たる音調で序を謳ふこと二三分間、その間に、後舞臺の殿内は、幕の裡で活人畫の拵が迅速に進行してゐるらしい。次に全體の男女は鑑を合唱し始める、この合唱は大抵七八分を要する。この合唱の中間の一二分間だけ後ろの幕が開き同時に合唱隊も中央から二つに分れて斜に後方に退きて、殿内の出し物を觀せる。この鑑及び活人畫の題目は、一例を取つていへば、ユーダスとその師耶蘇を裏切りて祭

司長に賣る場の前には、舊約からヤコブの子供等が弟ヨゼフを奴隷に賣るところを取り、又た耶蘇聖晩餐の幕の前には、モーゼ編中にある曠野に飢え迷へるイスラエルの一族がマンナの豊けき神の賜物を恵まれたるところを示して居る。活人畫はすべて巧い。時としては老若男女二三百人も出る、上記のマンナの賜物の時の如き幼き子らまでが溫和しく見せて、殊ど一絲紊れず、訓練されて居る。

劇そのものにつきてはそれは勿論純粹の藝術でない、しかし或點までは現代の技巧を以て美化されて居る。この日、觀衆滿堂で、その内には、殉難の場では、さめ／＼泣いて居る婦人も少からず認められた、翌火曜にも再びナハスビールがあるといふ偉い景氣であつた。

その夜私らは直ぐミュンヘンへ引き返した、途上シタンベルガ湖上月清し。

附記す。再び斷る、以上は一九一〇年のことである。それで一九二〇年に舉行の筈であつたが、戦後混亂の際とて、實行出来なかつて、ことし一九二二年に延びたのである。ことしのは、戦後イドツの事情と相俟つて非常に賑はつたさうだ。之を實見した人々の話に、耶蘇は矢張りかのラングが演じて喝采を博してゐた。マリアは人が變つて居る。當年のオッチリ嬢は間もなく米國人に懇望されてアメリカへ行

つて了つてゐるとのことであつた。この戀が如何にして成立したかは聞き洩らしたわざ／＼見物に來た弗旦と握手したのか、但しは當時、この村芝居一座がそのまゝ新世界へ買はれて行くと言ひ囃されてゐたから、この噂が果して實現されたのか、さうして、その折に紐育あたりで出来合つたのか、私には分らない。

二九 八月十一日

一 憲法記念

バスチーユを記念する七月十四日、レトワルの凱旋門あたりで、フランス共和國の國民祝祭の盛大さと意氣込とを目撃した私は、今八月十一日、この伯林で、戦敗の惱みの中から恰ど三年前に生れ出た新ドイツ共和國が、けふの憲法發布の日を記念する、その沈痛な有様を親しく體驗し、彼此相比して、一しほ深く感んじた。

之より先、この年の春明けてから、ドイツはいやが上に不幸つゞきだ。五月には上シレジャのポーランドへの割譲が確定したから、全ゲルマニヤはその喪に服した六月下旬、外相ラーテナウが暗殺された。列國との諧調、新ドイツ維持の目標として、共和國の内外に對する信用をつないだ、この新人物が、これで亡くなつた。さ

うでなくとも、だらだら下りのマルクはこの二の事件で急に大下落し始めたのだ。右の暗殺の下手人は學生であつた。こんな危険な反動運動の巢窟はバウリアに在るといはれてゐる。こゝでは、舊王家ウイッテルスバハが中々の人氣だ。勿論プロシヤの舊軍閥連がこれと呼應してゐる。殊に將軍ルーデンドルフはそこに隠くまはれてゐるといふ評判だ。それで問題は伯林對ミュンヘン、ドイツ統一國家對バウリア國の抗争となつて來た。尙ほ其外に、中央政府に對して極左的反對の潮流が、共産黨主義者の運動によつて、動きつゝあることも事實だ。このものはまかり間違へば社會黨と共に、先年のやうに労働者の總同盟罷工を煽起實行するといふ一大武器を持つてゐる。伯林の統一政府は、これでは折角の新共和國が破壊される虞れがある。と考へて、ラテナウ暗殺後直ちに共和國保護律を立法發布して不穩取締に着手した下手人も捕縛される、不穩團體で解散されたものが續々ある。ところが、ミュンヘンの政府では、この非常法に對して、七月下旬に一個の抗議令を發布して、それが憲法違反だから無効であると宣した、何故なら憲法が保證した各聯邦固有の國土主權を侵害するからといふのである。その結果、人は或は南北統一の破壊、バウリアの獨立となりはしないかと恐れた。

その折からだ、巴里からボアンカレがドイツの賠償延期願を峻拒し、フランス單獨に頗る強硬な威嚇的談判を持ちかけて來たのは。それで、軍事占領地内での制裁は勿論のこと、進みてルール工業地方の占領も仕兼ねまじい勢を示したから、既に大下向きの爲替は一溜りもない、忽ち又急轉直下の暴落して、その時、一日のうちに一馬克五厘から三厘内外となつてしまつたのだ。若しこの調子で進んで行つたら、ドイツも第二のオーストリアになりさうだ。

國民が窮迫すると絶望のあまり、共産主義に走り、その果はボルセキに陥るに至るかも知れない。若しくは、寧ろ保守派の反動に應じて蹶起し、再び君主主義に復するかも知れない。ドイツ共和國の統一政府の苦心はこゝにある。その上に、聯邦の諸國が或は中央權力から分離獨立することがないとも言へない。現にバウリア國の如きは君主主義と分立主義との二つを標榜するものである。又ライオンランドなどにも、先年來しばしばケルン市を中心として一獨立共和國を作る運動がほのめ、て見える。かくの如きドイツの小邦分立は十七八世紀の時の如く、フランスの尤も歓迎する所で、現に或るその政治家の如きは、若しドイツの國憲が聯邦の分裂するやうに改造せられるならば、ヴェルサイユ條約のドイツに課した義務を緩めてもよ

いどまで公言してゐる。これは多数フランス人の熱望であらう。

既に君主主義がある、共産主義がある、又た分立主義がある。此等は新ドイツ共和統一政府が、その内部に於て警戒しなければならぬ三大敵國である。かゝる危険に對して三年前に制定されたのが新憲法だ。ドイツ文化の脊梁たるチューリッゲン山中、ドイツ國民的詩人ゲーテとシルラの共同提携した文化中心たるワイマル市に於て、當時國民が會議して作り上げた共和憲法だ。

その精神はドイツ國民の協同一致するデモクラシーに在る。抑も過去の大戦に於て、よしや、カイザルが勝ち果せたとしても、彼が戦争の遂行の爲に、徹頭徹尾、事實上國民に依頼しなければならなかつた以上、平和恢復と共に、どうしても將來しなければならなかつたのはデモクラシーであつた。デモクラシーがドイツでも目下の大勢だといふことは、戦前から既に分明であつて、只カイザルの捷利の場合には、尙ほ君主が保存されるだけで、ドイツ國憲が愈々デモクラシー化されなければならなかつたのは、何人も豫期して疑はなかつた所である。況んや戦争が不幸に終りたるに於てをや。戦後、休戦前後のごさくさを一しきりづゝ切抜け、巴里會議が課した重大な條件を忍受してゆくまでの、最初の半年餘りの難局のうちに、漸次穩健な社

會民主黨主義が勝利を占めて、外に對してはウエルサイエ條約に調印し、内ではこの調印後一月半経つて、八月十一日に成立したのが、即ち新憲法であつた。爾後、この國憲が、一方過激派からも、他方反動派からも威嚇されながら、遂に蹂躪を免れてよく保持され、又た聯邦の分立運動をも抑へて、過去三年間、ともかくも成長して來たのはドイツの幸福で、列國も、多数ドイツ人も、これに世界の平和の保證の望みをかけてゐる。

その上に、今日の三周年記念日には、上述のバツリア政府との紛紜も、目出たく妥協が出来、同國政府はかの抗議令を取消し、之と同時に中央政府は將來の國土の安堵のためにする或る宣言を發し、一切圓く治まつた。それで、差當りドイツ人の頭上に懸つてゐるのは既記の賠償問題の雲行だ。それは恰ご倫敦で、ポアンカレとロイド・ジョージとの間で會議されて居る。これは昔にドイツ人ばかりか、實に全歐洲、否全世界の運命に關する大問題だ。今日の憲法記念祭は、實にこの暗雲を背景として行はれたのである。

二 議會へ

夏の盛りとはいへ、日本の初秋にも比すべきうす涼しい日の、而もそぼふる朝時

雨の中を、私は帝國議會へと驅つた。私の御者に、ポツダム橋の袂から、わざと道筋を戦捷路ジグスアレーに取れと命じて、そこを走らした。

このカイザル・ウイヘルム二世の御好みで拵へられた逍遙路は、ゲルマニアの武勇傳中の騎士の名を負ふローランドブルンチン泉から始まる。

私の指して行く手は、言ふまでもなくアレーの終端、約七百メートル先のケイニグスブラツである。殊にこの廣場の真中に立つ一八七〇—七一年役の戦捷碑ジグスアレーが、ローランド泉の邊から真正面に當つて、路の兩側の並木の繁みを抜いて、彼方の半空に高く聳へてゐるのが見える。此碑の頂點に鎮座しますのは、天がける兩翼をひろげた勝利の女神であつて、全身から放つ金色の光がいと輝かしうに拜まれる。辿りゆく兩側の歩道には適當の距離を置いてつき／＼しく大理石像が居並ぶ、左右ともに各十六體ある。これは十二世紀から十九世紀までのブランデンブルグ・プロイセン國の歴代の君主の御影で、各君主は各自の後ろに當時の代表的臣民の二人づゝを胸像として侍立せしめてゐる。だから、今これらの間を驅つてゆく私は、さながらこの國の歴朝から拜謁を賜はるといふ格、勿論外臣としてだ。

殊に右側の列像はドイツ勃興の近世史に關するものであるから、一つ／＼に深い

興味が湧く。現に路程の半を過ぎると、最初から第九番目に當る立像は、正しくブランデンブルグ・プロイセンの基礎を据ゑた有名な大選帝候である。それから中二つ置いては、御馴みの三角帽を冠つたフレデリク大王が立ち、その協立として音楽家バハと將軍シユウエリンとを従へてゐる。次はフリドリヒ・ウイヘルム二世で、これに侍する臣下の片席を大哲學者カントが占めて居るのは、當時のドイツ文化の形成を偲ばせて面白い。それから、同三世の君はナポレオン戦後の文武の名臣シタインとブリユヘルとを率ゐ、次の同四世王は、彫刻の大家ラウフと、有名な博物學者にして多方面の碩學たるアレクサンダー・フォン・フンボルトとを扈從せしめてゐる。それから最後に私を迎へてくれたのが、勿論ウイヘルム一世老帝であつて、其兩脇に新ドイツ帝國の建設を翼成したビスマルクとモルトケとが控へてゐることは言ふまでもない。

私はこれでは、歴朝の拜謁を済ませた。さうすると、茲に既記のケイニグスブラツの廣場が私の眼前に開ける、さうして久しぶりにドイツ人、殊に伯林兒の誇である戦捷碑を、その臺下から見上げることが出來た。廣場の右には、ビスマルクの國民記念像が立つ、これはカイザル御氣に入りのペーガスが、入念にも、いろ／＼

の要素を取り入れて頗る複雑に作り上げた寧ろ群像だ。之を前景としてその後

大雄偉なる帝國統一
議會が立つてゐる。
して見ると、私の
こゝまで通過して來
た路筋は、宛らブラ
ンデンブルグ・プロ
イセインの勃興、殊
にそのドイツ帝國統
一といふ發展史その
ものゝ象徴ともいへ
る。然るに私が最後
に指摘した帝國的大
記念建築物が、今日*



に日念記法憲 會議ツイド林伯

一九二二年八月
十一日に於て勤
める役目は、ド
イツ皇帝が統制
する國憲のため
ではなくて、實
にドイツの人民
が支配する共和
國憲法のために
その記念祝典の
式場を演ずるに
在る。之を私の
取つて來た記念
物で象徴さすといふ見地からいへば、記念物上の連絡は茲に忽ち中斷して絶えてゐる。しかし思ひ返すと、それだけ最近數年間の急轉直下の大變動が無形のうちに雄辯に物語られてゐるから面白い。

十一時過ぎから民衆は可なり澤山にビスマルク記念像下及びその附近に集つてゐる。彼等は最早カイザルの軍隊の行進を見るがために來たのでない、共和國の國防隊の増列を見に來たのだ。彼等は昔の如く稜威嚇々たる皇帝の鹵簿を拜まうとして蝟集してゐるのではない、彼等が選舉した平民大統領の式場入りを眺めんとて集めてゐるのだ。私は十年ぶりに獨逸式の太鼓や笛入りのトットコと囃し立てゝ來る

兵隊の練込みを目撃した。成程個々の兵士の風采の緊張、一歩々々ランボーの整調、又全體の勇ましさ、是等の光景は、全然昔のまゝだ、實に皇帝政治の盛時を思ひ出させる。しかしこの一團は最早カイザルの股肱ではない、又歐洲と戦ふべき陸軍でもない、只國民の防衛に過ぎない。その軍装の變化、殊にその質素になつて寧ろ見すほらしいのは、當然とはいへ、そゝろに今昔の感を催さしめる。

この國防隊増列の前を一わたり檢閲しつゝ、共和國大統領エーベルトは正午十二時といふに議會に入つた。私も幸に日置大使に陪して入場するの光榮を有した。

この朝大統領は既に親書を發して全國に檄してゐる、それが早くも朝刊に掲げられて伯林兒の感動を惹いた。

『三年前ドイツ人民は自己の將來の基礎たる憲法を自ら作つた。此日をば吾々は現時のあらゆる艱難に拘らず、喜びと望みとで祝ひたい。ドイツは滅び果つべからず。これ吾々の息の音の通ひ、手足の働さうる限り、吾々の固き盟である。』

吾々は兄弟牆に鬩ぐを欲しない、部族の分裂を好まない。吾々は法を希ふ。憲法は困難な争鬭を経てこの法を吾々に與へた。吾々は平和を愛求する。法は力に先き立つべし。吾々は自由を欲す。法は吾々に自由を齎すべし。吾々は統一を欲す。法は吾々をして協同一致せしむべし。かくて憲法は吾々に統一、法、自由を保證許與すべし。

あゝ統一と法と自由とよ *Einigkeit und Recht und Freiheit* 詩人の歌の中にある此三拍子ドライクラングは曾て國內の分裂と抑壓との時代にあらゆるドイツ人のあこがれを表明した、今日も又同じ三拍子は吾々の艱難な國の歩みを導いてより善き日に到達せしむべし。……昔は詩人の愛せしが如く吾々は今日あらゆるものを越えてドイツ *Deutschland ueber alles* を愛す。ドイツのあこがれを満たすべく黒、赤、黄金の三

色旗の下に統一と法と自由との三拍子の歌は、今日の祝典に當りて、吾々の抱く祖國の思ひを表現すべきである。』

この親書のうちに、統一政府はけふの祝典に際し、國本培養のために、學問藝術及び手工の獎勵に三百萬マルクを、又野外スポーツによつて全國人民の健康増進のために百萬マルクを支出すと發表し、それに『この金額の些少なのは我々の國土の困窮を物語る』と附け加へてゐるのは悲惨だ。右の二口合計四百萬マルク、之を今日の相場に換算して只の一萬圓そこらに過ぎない。之を、一九一〇年の秋、伯林大學がその百年祭を祝した時、皇帝がカイザル・ウイヘルム學術研究所創立のため、内帑から下賜したのが九百萬マルクであつたと記憶する、これは當時の價では四百四五十萬圓であつた、彼此相比して今更ならねど桑海の變に驚かれる。とはいへ、けふの支出は誠に貧者の一燈だ、その志は貴い。

それで私が十年ぶりに伯林に入つて具さに感じ得た氣分は、ドイツがこの間に少くとも無慮一世紀間を逆戻りしたのではないか、十九世紀初の對ナポレオン時代乃至それに引きつゝいた立憲運動時代と同じ困難な時代に還つたのではないか、といふ心持である。今日の共和國憲法記念日に遇ふて、この感一しは深い。現に前記の

親書の中に引用されてゐる黒・赤・黄金の三色旗は、實はこの十九世紀の艱難期の産物だ。かのナポレオン及びドイツ君主の暴虐に反抗して起つたドイツ國民及青年組合が推し樹てた旗幟は實にそれであつた。黒・赤・黄金 Schwarzrotgold! 言ふ心は、暗黒な奴隸状態から、赤き鮮血を流して、黄金の自由に到達したいといふのだ。その同じ三色が新共和國の國旗となつて、今日の祝典に際して所在の役所に掲げられ特にけふの式場たる帝國議會の内外に翻されてゐる。又既記のドイツランド・ユーベル・アルレスの國歌も亦同じ時期の産物だ。時は一八四一年、詩人ホフマン・フォン・ファルレルスレーベンの作で、内はオーストリアその他ドイツ諸君主の壓制、外はフランスとの對立に悩んでゐた國民が發せしめた聲である。かのエーベルトの所謂三拍子は即ちその内にある標語である。かくの如き國歌が、けふの大統領の親論のうち引用されたのは時節柄意味深長だ。何せならば、當時之を謳ひだした人々がこれで「大ドイツ」を建設せうと努力したやうに、ヴェルサイユ條約後の今日のドイツ人は失はれたドイツを恢復せう、殊に同條約が禁止してゐるオーストリアとの合併を何とかして實現せうとの隠れたる心の底の表明とも解釋出來やう。又最近の問題であつたバウリアのやうな分立的傾向の取押へのためとも言へやう。或は又現時

の憂たる黨派的感情による内部の抗争を取鎮めるために、一切の黨争を超越してドイツランドを大事にせうといふ意味にも取れやう。

何はともあれ、大統領の自動車が議會に着くと、國防隊の音樂團が合奏したのはこの國歌だつた。議場の内部で、議長席の上正面には新らしいドイツの徽章たる鷲が現はされ、この鷲の下に大文字で描き出されてあつたのが、即ち同じ國歌の中の眼目たる三拍子語の統一と法と自由である。それから二階傍聽席前面を環つてプロイセンを始めとし、バウリア、その他の聯邦が、一々その名と其の紋所とで表示され、尙ほ滿場は青々とした緑の苔かづらで飾り立てられてゐる。場内には聯邦諸國の代表者が參列し、就中バウリアのそのの着席は時節から人目を惹いた。議員席には聯邦各國議會の代表者、殆どすべての政黨の代表的議員が居並ぶ、尙ほ若干の婦人も參列してゐる。來賓としては、二階の外交團席には日、英、米大使等が居並び、中にも、フランスの代表者の缺席、之に反して勞農政府のチチエリンの參加は尤も衆目を惹いた。やがて大統領入御して舊カイゼルの玉座に著くと、滿場起立して敬意を表した。

茲に式はファイルハルモニのオルケストラがエグモントの序曲を力一杯に演奏する

ので始まる。成程ドイツの音楽だ、久しぶりに偉いものだと感じた。次に今日の眞打ちとして、バーデン國統領ドクトル・フォン・フムメル起つて祝典の演辭を述べた彼の冒頭は、カイザル政治の斷未魔に、初めて議會の選舉によつて全國宰相になつたのが、バーデンのマックス親王だつた、又た現大統領も亦たバーデンの出身だとして、自國と民主政との縁起關係から始まつた。因みにいふ、この演辭者の所謂個人的關係は別問題とし、國柄からいつて、彼の代表するバーデンは南ドイツの雄邦の一だ、さうしてアルザスとはラインを夾みて相對し、地理上からいつても、歴史上からも、フランスに近い、或る意味で親しみのあつた國だから、この際ドイツランドの統一のために、代表的に發言するには尤も恰好の國柄である。その上にこの南ドイツの由來自由主義の國からは、前世紀以來國民運動に犠牲を捧げた人々が澤山輩出してゐる。例へば、一八四一年の革命の風雲に乗じたフランクフルト議會を中心とする國民運動期を見よ。勿論フムメルも冒頭に之を引き出して居る。それから彼はいよく本論に入つて先づ『全國なくして何ものもない』と力説し、一歩を進めて、全國統一がドイツのために絶對最善の必要であることを高唱して、國歌中の三拍子にふれた後、『新憲法は、文化を創造する一切の身分者が社會的に結合

勞作する唯一の基礎である、だからドイツの經營にはドイツ國家の憲法生活の精神を以て満たされるべきことが何より必要だ』とて一切の破壊主義者流に當てこすり、『吾々は舉國一致この實現に貢獻したい』と熱望した。フムメルは更に一轉して、目下思想の動搖と前途の不安とに悩んでゐる未來の國民に言及し、『吾々の青年は徹頭徹尾艱難辛苦の生活を嘗めつくしてゆかなければならぬ。庶幾くは彼等はよく諒解せん、彼等の思ひは後方を顧みないで只前方へのみ馳せてこそ、彼等の將來は好き實を結びうべきことを』と沈痛な警告を發し、彼等のために、新共和國がドイツの精神生活維持のためにあらゆる努力を惜まざるべきであると鼓舞激勵し、『吾々は最早從來に似たる憲法のデモクラシー的精神と之に對する反動との抗爭を見たくない。それでは滅亡するより外はなからう。一大轉機は今日にある。數週間前現に此處から擔ぎ出された偉人(ラーテナウを指す)の寢棺の上で、吾々は敵も味方も雙手を出し合つて心から仲直りするが何よりも適切恰好ではなからうか。』現にバワリアとの紛争も圓滿に治まつた、之は何よりの好吉兆だとして『ドイツ共和國萬歲』で結び、會衆之に和し、これに續いてドイツランド國歌の吹奏せられるや滿堂起立して之を高唱した。式典の最後は再びフィルハルモニ・オルケストラのマイステルジンゲンの

一合奏で目出度終りを告げた。

四 炬火行進

この夕大統領は諸名士を国立劇場に招待し、そこでハウプトマン作の或るフェストスピールを観覧した後劇場附のアポロレストランでピアー・アーベンドを催した。

かゝる間に、諸團體の聯合主催で



一大炬火行列が組織され、宮城前ルストガルテンから前記劇場のあるジャンダルメンマルクトへ行進することになつてゐる私は八時頃にウンテル・デン・リンデンを経て

大學前を通り、宮城橋を渡つてゆくと、そこは既に一杯の人出である。ガルテンの二面を圍む博物館の廻廊にも、ドームのテラツセにも、諸團體の人々が手に手にする松明の焰で、その邊一帶は火の海の觀を呈してゐる。こゝかここで熱烈な演説があつて、しばし共和國萬歳の聲が揚がる。わけて私の目を惹いたのは、『共和主義的青年團ラーテナウ』と記標を立て、練りゆく一團であつた。故ラーテナウが少くとも一部多数の新人間の追慕の的となつてゐることが分る。勿論、新ドイツの勢力を壟斷してゐるこの故人と同族の猶太人一派の匂ひもする。九時過ぎから、行列は音楽隊と共に動き始めた。此間、總員が『ドイツユランド』と『インテルナチヨナーレス』とを取り交せて高唱するところに、時局の特徴が窺はれる。動き出した行列の人波はいつのまにか見物人をも捲き込んだ。私も知らず、暫時は行列と共に漂ひゆくの外なかつた。此時私は測らずも革命勃發もこんなものかとしみじみ感じた。何故なら大勢の潮はいつのまにか無心のものまでかつさらつて行くことが多からうから。又私は、此の際十二年前の秋の夕に、自ら伯林大學百年祝典行列に参加したことを思ひ起さなければならなかつた。しかし、彼の時の氣分と今夜の心持とは全く違つてゐる。昔味はつたのは全く學生氣分であつた。又一種のブロイセン氣分で

あつた。然るに眼前の行列には無論學生も交つて居るやうだが、大多數は商店員や労働者やの階級の様だ、そして四五人に一人の割に市の婦人がゐた。加ふるに中には年若な一塊の連中が黄色な顔した私を見つけて『やあヤバーナだ、彼奴はわが青島を……』と何か無禮な穢かならぬ敵愾的嫉妬的言辭を弄したのが、明かに私の耳朶に留まつた。私はこの國でヤーインハーゲンと何とやらはゐるものだと、無論大目にいや大耳に聞き流して居たが、連中の年嵩な一人が若者たちをシイ／＼と制止して了つたのは、矢張り無秩序の行列でもないと思はせた。やがて松明の波はウンテル・デン・リンデンへと流れた。私はわざと列を外して宮城橋から勝手知つたバウアカデミ脇のウエルダリツシエ・マクトへ抜けた。するとこゝにも行列が來た、それは少年青年男女の團體でフリードリヒスハインから出發して來たらしい。それで西の方フランチオジセ街を指した。彼等は合唱又合唱、見るから可憐な勇ましい行列だ。これらもまた前記ジャンダルメン・マルクトの集合地へ參加するらしい。

私はこれから後を割愛して歸寓した。何故なら、その時分から行列の後を逐うて目的地に向つたとて、もう只の見物人のそこに這入りやうもなからうし、且つ今夜の気分はもう可なり十分に味はつて満足したからである。後で聞いたことだが、一

切の行列が國立劇場前のシルレル記念像を中心に集合し了つた十時半頃、大統領及びツイルト首相は、劇場から出て、そのテラツセの上から、各一場の演説を試み、その都度非常に盛んな萬歳萬歳が起つて暫しは鳴り止まなかつたさうである。

五 悲壯な聲

この日全國でも所在に祝典が行はれたことは勿論だ。目下反動傾向の主力として嫌疑を蒙るミュンヘンは何うであつたか、ホーヘンツォルレルンの君主神權主義の發祥地と目されるケーニヒスベルグでは如何なりしか、それはいづれも報道を缺ぐが、ハンブルグでも、ケルンでも、スツットガルトでも、それ／＼式が行はれ、就中新憲法の三年前に取り上げられた搖籃地ワイマーの市では、此の日、ゲーテとシルレルの二大國民詩人の立像の前で、當時の會場であつた劇場の建物に、その旨を刻んだ記念表が挿入されることになつたさうである。

それは偕おき、同じ夕、伯林の内諸團體の會合が所在にあつて、それ／＼熱烈な演説があつたのを注意したい。就中、デモクラット黨は新憲法起草者であるドクトル・プロイス、多數社會民主黨は内相ケーステルの演説をそれ／＼傾聽した。プロイスは、戦後の國家瓦解の危機によく國民の統一を維持してボルセウイキの襲來を防

止し得たのは、全く新憲法だと断定し、之によつて、吾々は同じ危険から、雷にドイツ自らばかりではない吾々に打勝つた國々までも救うてやつた。然るに自らデモクラシの本場と誇る戦捷國が、勝利を濫用して、ドイツ國民に對して多大の屈辱と其經濟上破産を持ち來らさんとするが如き、勝手氣儘な行動を執りつゝあるは、正しく世界に於けるデモクラシ思想を墮落さすこと之より甚しきはないと慨言した。ケーステルは、わが新憲法は今日の世界の新設諸國の模範である。現にアイルランドの友人からは問ひ合せの手紙が來た。しかし、このものも、その本を尋ねるとフランス人から出てゐる。然るに、そのフランスは、今や吾々には諒解出来ない行動で、ドイツ共和國に對する最悪最大の敵となつてゐる。世界周知のアメリカの十四箇條が三百代言的に、箠棒にも、吾々を誑かした後で、いや賠償だ、いや制裁だと、引切りなしの壓迫が、わが新共和國におつかぶされ、吾々に重い／＼負擔を突き附ける。しかもこの外來の嵐と、之に加ふるに内部からのカップや、暗殺やの打撃とが頻りに襲來してきたに拘らず、今日の國憲がよく維持されて來たのは、即ちそれが深く人民の血肉と混和して一心同體となつてゐるといふ何よりの證據だ、既に一心同體である、吾人將た何をか怖れんやと、切りに青年を激勵した。

尙ほ、この憲法日に關して一つ特記しておくべき國際的辭令の交換がある。それはこの朝、米國大統領ハルチングから大統領宛祝電『大いなドイツ共和國が、蹟かすに平和の道を前進して、一個のよき諒解妥協と繁昌幸福とに達せむことを望む』とあるに對して、エーベルトが『ドイツは、吾々共通の共和國體の同一なる原則及び理想が、吾々人民同志の一個の善良なる諒解妥協と幸福なる未來とに到達せしめ得んことを望む』と答電したことである。

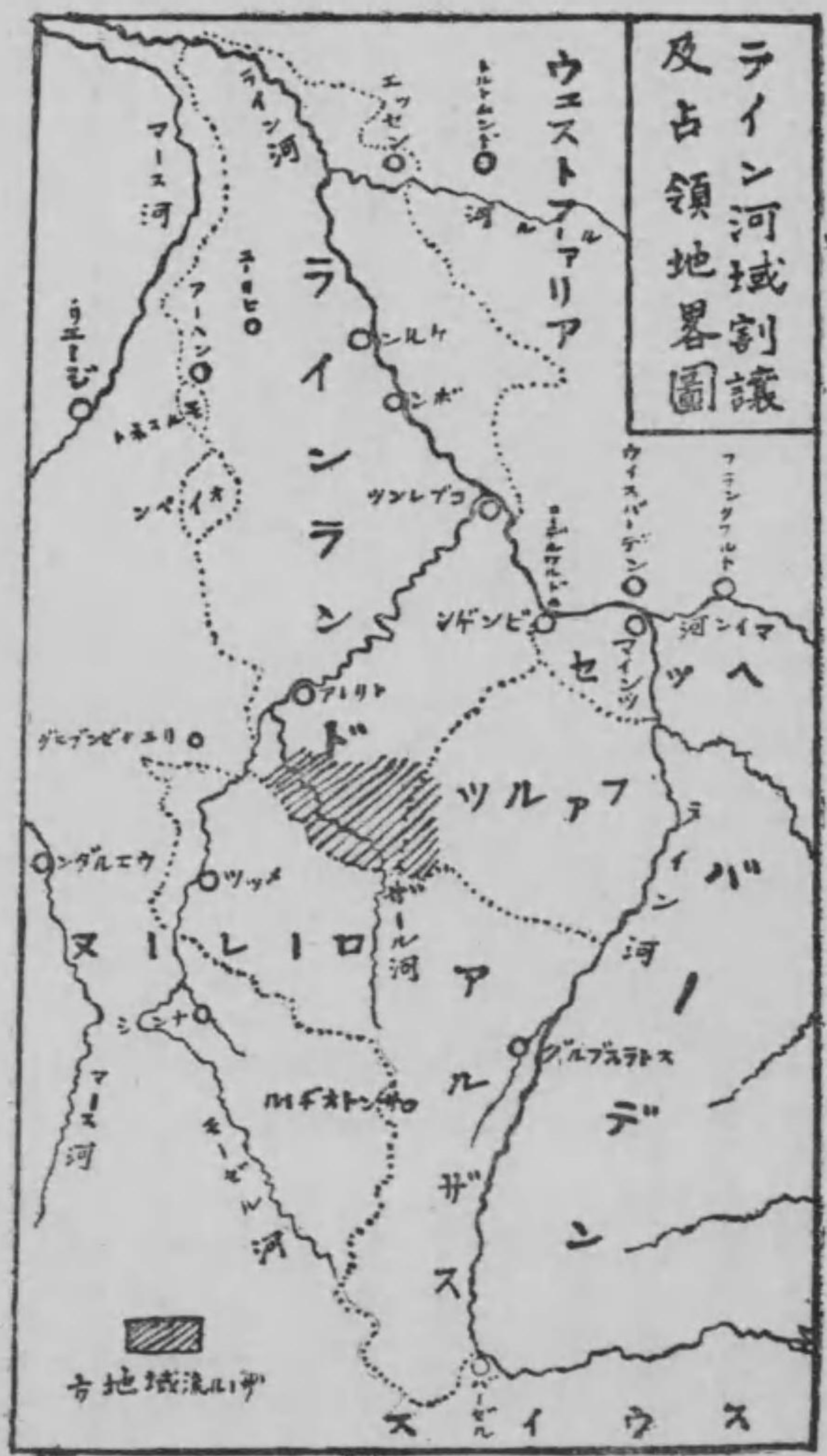
目下の歐洲國際的大問題たる賠償事件で、直接にドイツ共和國に關係してゐるのはアメリカではない、主として西歐の兩民主國だ、イギリスとフランスとだ。それで昨今倫敦協議會で主として英佛兩國が論議を重ねてゐる、一方は寛恕、他方は峻嚴、各々主張を持してなか／＼相下らない。詮するところ金錢の問題だ。抑も大戰の結果、イギリスはフランス始め聯合國の債主だ、さうしてこの債權の半は實はアメリカから借りてゐるのだ。それで今日の歐洲が二進も三進も動き兼ねる根本は、一方ドイツに在ることは勿論だが、他方ではアメリカに在るともいへる。一體ヴェルサイユ條約は前大統領ウイルソンが學者の空想に馳せて、クレマンソーや、ロイド・ジョージの如き、海千山千の政治家連に乗せられた失敗の文書だ。憲法上批准の

源たる元老院は之を認めない、だから合衆國政府には責任はない、現大統領は何も知らないど知らぬ顔の半兵衛を極め込むのは、米國の國柄としては當然の言前だといふことだが、公正を持する世界の面前では、あまりにヤンキー式で、勝手氣儘すぎる申分だ。いくら厚顔のアメリカだとして、少くとも可なり大きな道徳上責任を感せずにはゐられまい。勿論アメリカの世界戦に對する過去の功勞は何人も認める。が、爾來十四箇條發表以後の尻拭ひをして居らぬ以上、アメリカは大戦参加以來の責任上、決して有終の美を全うしたとはいへない。今後、ハルディング及び彼の國民が、目下尙ほ混沌不安状態にある歐洲、殊にドイツ共和國の救済に對して何をか爲さんとするか。是れ世界のひとしく刮目する所であらう。

三〇 ラインの面影

轉じてライン河畔一帯、特にその左岸地について私の印象を物語らう。條約によれば、聯合軍の守備はケルン、コブレンツ及びマインツの三橋頭へ進出して居る外は、左岸地に限られてゐる。この占領が若しルール河盆地へ擴大したならば、外國軍の銃劍の支配が、下ラインランドの右岸の一帯からウエストファリア境內まで喰

ライン河域割讓
及占領地畧圖



ひ入るであらう。目下ライン及びルールは世界の問題中の問題であるから、私の印象記の前置として若干の地理上のデータを挙げておかう。

| | 面積 (日本の 四國の) | 人口 (百萬) |
|-----------------------|--------------------|------------|
| 佛に割讓されたアルザ ス・ローレーヌ | 〇、八 | 一、八 |
| 普領ラインランド | 一、五 | 七、一 |
| その他 | 〇、四 | 約一、四 |
| 合計 | 四國の二倍七分 | 一〇、三 |

その内、ザール炭田地方は大體ラインランドの内にある、面積一六〇〇平方キロ、即ちラインランドの約十六分の一、人口六十五萬である。以上の表でラインランドの人口稠密が一目瞭然である。獨佛間の最大重要經濟問題は鐵と石炭だ。戦前のドイツに於いて、ローレーヌから全國鐵礦の七割五分を産出し、これが熔解用の石炭全額の内、ザール炭田は一割五分、ルール炭田は六割九分を提供した。而してフランスの炭田は戦争で破壊された。因つて、ドイツはこの損害賠償のため、而して實は、より多くは、ローレーヌの鐵熔解用のために、ザール炭田全部をあげて十五年間フランスの利用に提供し、一九二一年二月一日以後尙ほ毎月々二百二十萬噸づ

（スバー協定）フランスに提供しなければならなかつた。この提供は自然ルールの産出に埃つ外はないザールは戦前にドイツ全石炭産額の九プロ、ザールは實に六〇プロを産出してゐる。但しこの六〇プロとは一億千四百五十萬噸であつたのが戦後には九千萬臺に落ちてゐる、而も上シレジアも失はれたのだから、かく生産が減少したとて、*



む望をウガンイラび及橋ツンイマ らか上船覽遊ンイラ

*ルール炭は尙ほ全獨産額の八割といふ大歩合を占めるその内から、前記の如く、月に二百二十萬噸、年に二千六百四十萬噸を提給しなければならぬ、即ち全體の二割三分、ルールの殆ど三割近くに當る。だからドイツの國民教育者たちは、この重大な負擔を一般人民に説き聞かして、ルール地方から、晝夜休みこな

しに十分毎に十噸積貨車五十臺の列車が石炭を満載して國境を越えてフランスに貢ぐ譯だと言つてゐるのはこれだ。尤もこの石炭賠償が、現金賠償と共に、近時とかく滞りがちになつたから、それで問題が起つたのだ。既に全産額の七割五分の鐵を失ふた上に、この莫大な石炭の貢をしなければならぬのだから、ドイツ人は溜らない。フランス人としては、この賠償の延納又た延納に對して、こりやドイツの手管だと業を沸かし、まかり聽かなければルールを占領せうと主張する、その上、まだ愚圖々々するならば、ルールをばザール同様に管理利用してやる、自分の管理利用とならばルール石炭をローレーヌの鐵山へ運ぶの迂愚はしないで、ローレーヌの鐵礦をルールの炭田に持つて行つて加工する、かうしたならば大した利益にならう、これがフランス人の十露盤玉だ。

一 ラインの爭奪

フランスは新に恢復したアルザスに於て再びラインを國境とし、詩人ミュッセーの「吾らは汝らのラインを持つてり」の昔に返した。臆を得ては蜀を望む。此ラインの國境を延長してその下流までの全線をも我物としたいとの、フランス人の考は、強ち無理な野心とばかりに排斥出來ない。

この地方が今日の如くドイツ風に化して居るのは、約二千年前以來、羅馬時代から中古史への發展の結果だ。二千年前、羅馬人のこゝまで遠征して來た頃、ライン左岸地は大體ガリア人のものであつた。その後この方面で羅馬帝國の威令の衰ふると共に、かねてその機會を窺ふてゐたゲルマニ人が、數世紀かけてラインを越えて西南に向つて侵入移住定著することになつた。之に反してこの時までラインからビレネースに至るまで擴かつてゐたかのガリア人は夙に羅馬人に征服せられ、既に羅馬化せられてゐた。但しゲルマニ人の如上の南下の結果、中古に於て若干のゲルマニ血液の混入を受け、特に北方に於て然うであつた。しかし大體に於てローマ化の影響の下に今日のフランス國民が作り上げられた。されば現代のドイツ國民が古のゲルマニの遺鉢を繼いだものとすれば、フランス人は古羅馬人の繼承者である。そこでライン河が果してこれら獨佛國民の正しい境界であるか否やについては、先づフランス側からは、羅馬帝國の事實上創始者シーザルがガリア征服の時に作つた印象が引合ひに出される、即ち彼の「ガリア戰記」にいふ「ゲルマニはライン河の向ふ岸に住めり」と。ここがフランス人の言前の歴史的根據だ。彼等は二口目には必ず反詰して、天下をしろしめした羅馬のインベラトル・シーザルは何と證言してゐるか

ど。ドイツ人も負けてゐない、見よや中古ドイツ帝國の歴史を、マインツやケルンやトリアは勿論のこと、ストラスブルグでも、各地に聳え立つゴチック大伽藍を見よ、又たその市を見よ、人物を見よ、いづれも純然たるドイツ文化の都でないものがあるかと思ふ。事實、獨佛兩國建國の初である西曆第十世紀には、ライン、モゼル、マースの諸川筋一帯の地方は、ロタリンギアの名の下にドイツ王國の領有となつて居た。だから、アルザス・ローレーヌはしばらくおき、左岸地は今日まで十世紀間ドイツのものだつたと。いへば、巴里兒は之を挫いて、近代の歴史を根據とし、教會改革の紛擾時代から、ルイ大王までのライン河畔に及ぼしたフランスの勢力を指摘し、降つて大革命以來自由平等博愛の祝福が傳へられたこと、當時のフランス共和國の光榮がアルザス人によつて衷心から頌たれ、その間から幾多のナポレオン部下の忠實な將軍を輩出したことを説く。ドイツ人は之を押へて、それは皆な兵力による侵略とレユニオンによる強奪との産物だと反駁する。それで十九世紀の半ば、國民主義運動が盛となつた頃、しばしば兩國國民の敵愾心がいきり立つたことがある。ドイツでラインの守りが謳はれると、上記のフランスの詩人ミュッセーがラインはわれわれのものだと撥ね返したのはこの時だ。一日私はボンに遊んだ。

ボンはいふまでもないが、ラインの左岸にある。その大學の近くに河に臨むで見晴らしのよいアルタ・ツオル小公園がある。そこに自由戦争の詩人アルントの像が立つて、溶々たる流れを見下ろしてゐる。像の臺石に刻してある彼の語「ライン、これドイツの流れ、ドイツの境でない」といふ簡勁な一句は時節柄私の注意を惹いた、また、そこ



ボンのライナ橋 アルタ・ツオル

* 是は旅行季でもあり、ドイツ人の來りてこの詩人の像を仰ぎて低徊去らず、かの一句を感嘆三誦するもの少からざるを認めた十九世紀中葉の國民主義は遂に一八七一年ドイツ人をしてストラスブルグを恢復しメッスをも合併せしめた。彼等の考では、これ中古の昔に復したばかりだ。ところがフランス派は之を以

て強奪だと抗議を唱へて来たが、それから五十年後の今日、大戦の結果、アルザス・ローレインをば、再び取り返へしたのだ。フランスはそれだけで満足出来ない、出来べくばラインランドをも、大ナポレオン時代の如く、再びフランスの薬籠中のものにした。ウエルサイユ條約で、ザール炭田地方を十五年間國際聯盟の委員會の管理の下に置いたのは、如上の野心の下地と考へられる。何せなら委員の一人は必ずフランス人たるべく、その豊富なる炭田は、既述の如く今回取り返したローレインの鐵鑛用の燃料に使用され、その警察と税關はフランスの手にて支配され、満期の曉には、住民の一般投票に問ふて、獨佛いづれかへの所屬を決定すべしとなつてゐるからだ。更に進みて同地方の内情を尋ぬるに、この地方のフランス語を話す住民は、六十餘萬人中、最初から數萬人と報告されて、その理由で、如上の國際委員の管理云々と決したのであるが、實はその數は數百人に過ぎなかつた。住民は殆ど全部ドイツ人である。又た條約によれば、上に述べたる如く憲兵によつて警備しうるも、軍隊を置くべからざるに、目下可なりフランス兵士が使用されてゐる。それで私のこの方面旅行中、ドイツ人が國際聯盟に向つて抗議を發してゐるのを新聞で見た。しかし國際聯盟においては、フランス人の報告とその意見とが重きを成してゐるから、かゝる抗議はいつも無効に終るが、その常である。

二 ライン共和國

若しそれラインランド全體に關しては、聯合軍の占領と決するや、ケルン市を中

心として、スミッツ等的人物が早くも親佛運動を起した。これは、この地方をドイツから、少くともプロシアの支配から分離して、一個の自由獨立のライン共和國を建てようといふのである。さうして、大ナポレオンの全盛時代に於てラインとエールベとの間にウエストワリア王國が出来、これを中心として「ライン同盟」が作られて、實はフランスの傀儡となつたことがある。之と同じく新に建てらるべきライン共和國も、實はフランスの勢力圏内に網羅すべきは勿論だ。一旦ドルテンをその大統領と宣言するまで進んだが、今日までのところ、この運動は全然失敗に了つて居る。但し佛軍の占領中、機會ある毎に擡頭した、又するであらう。

成程、歴史から見ると、親佛運動の下地は近代になつてから可なりに深く根ざして居る。何せならば宗教からいへば、プロシアの新教とは異つて、フランスと同じく舊教の信仰の盛な地方だ。また政治上より見れば、大革命の時以來、自由・平等・博愛の宣傳を受け、ついで一時、ナポレオンの統一政治の下に、その法律上四民平等

の恩恵に浴したことがあるからだ。

十九世紀の中葉になると、西欧流行の自由主義はこゝに輸入し、ブルジョワの隆盛で以てドイツ文化に貢献した、現にこの地方から幾多の自由主義的博愛運動が起つた。かくの如き意味では、ラインランドは頗る世界的の位地に立ち、世界的人物を輩出した、例へば音楽の天才ベートーフェンはボン市から出た、今その市場の横町に彼の生家が博物館として保存され、又たその伽藍の廣場には彼の立像が設けられてある。又たブルジョワの反抗者カール・マルクスは實にトリア市から出た。

江山は秀麗である、水陸の交通は便である、人口は稠密である、文化は豊かである。殊に下ラインランドはウエストフリアと相離るべからざる姉妹關係に立ち、ルール河域の大工業地を中心としてドイツ富源の最も大いなる部分を形作つて居るフランス人のこゝに垂涎するのは無理でない。しかし住民の血液と心情とは全くドイツ的だ、アルザス人の如く中間的乃至兩面的でない。若し彼等に最も親身な間柄の隣國はと問へば、彼等はベルギーとも答へず、フランスとも言はず、必ずすぐ河下のオランダを指さすだらう。オランダは近世までドイツの一部であつて、西方ドイツと親密の關係にあり、人口の移住又は出入甚だ多く、例へばかのマルクスの母

はオランダ人であつたが如きである。然らばその次に英佛いづれに近きかと問はゞ彼等は寧ろイギリスを取るであらう、何せなら下ドイツ人の血液は、フランス人よりも、アングロ・サクソンにより親しく通ふてゐるからだ。それでライン共和國樹立運動は、それがフランスの勢力に支配されるものである以上、ラインランド一般の人心を惹きつけることは出来ない。

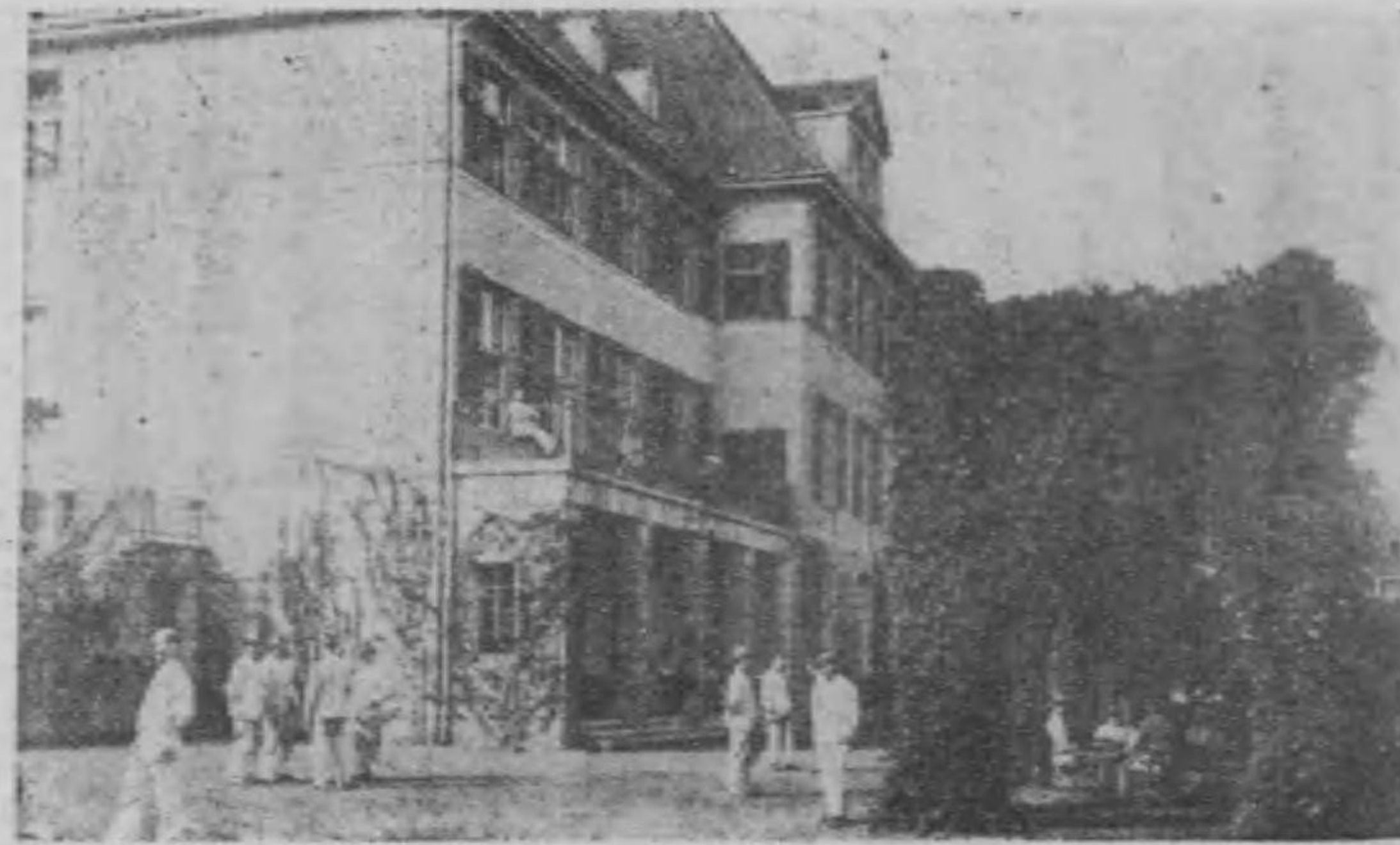
ラインを少しく河上に遡ると、河下に見られない特徴がある。それは葡萄畑だ。ラインガウ(政治區域としてはラインランド外にある)を始とし、ライン及びその支流河畔の多くの地方、殊にはトリアを中心とするモーゼル河一帯の地方の日あたりの良きところ、満目の丘陵地盡くワインベルグであることだ。私のこの方面に漫遊したのは、時方さに九月、秋の始で、遠く近々の高みは悉く葡萄畑で、正に房々と實成りて收穫を待ち、實に豊かな光景であつて、ライン、モーゼルの芳醇の名が中央ヨーロッパに鳴りわたつてゐるのも、偶然でないのを知る。而してこの方面から、ライン共和國の主張に對して、經濟上の反對が出た。それはラインランドの富の一半を形作つてゐるこの葡萄栽培及び醸造者側から、有力な抗議が出たのだ。ライン・モーゼルの酒はドイツ本國を最大得意とする、今若し獨立論者の唱ふる如く、

ラインを境として祖國から離れ、フランスと提携したならば、ドイツは必ずラインランドからの輸入の酒に重税を課するであらう。さうして、フランスとは關稅同盟のため、そのシャンパーニュの酒は自由に東方に搬入されるであらう、實際フランスは國內の酒の多産に困つてゐる、然らばライン・モーゼルの酒は如何にしてこのフランスの酒と競争し得やうか。これがラインランドの酒屋側の論點だ。さうでなくとも人氣の薄い獨立運動はかくの如き經濟上の理由から破壊された。

三 クルツツ

ケルンはラインランドの眼ざしである。その天に冲するゴシック式大伽藍はケルニツセ・ツアツングといふ大新聞と、化粧界で八釜しいオウ・ド・コロニーと相並んで、この市の三大名物で、いづれもケルンの名と共に天下に鳴つてゐる。この地はイギリス兵の守備にかゝる。大伽藍前の廣場横にあるエキセルシオルといふホテルがこの本營となつて、ユニオン・ヂャックがその屋上に翻つてゐる、例のすらつと背高いアングロ・サクソン兵士が三々伍々市中を往來するのを見た。市民の直話によると、フランスの軍隊よりもイギリス人の占領の下にあるのは、市の不幸中の仕合せだと喜ばれてゐる。

この地滞在中、私は一日西の方アーヘン見物に出かけ、それから轉じて國境を越えて、リエージュの要塞跡をみにいつた私はこゝで當時のベルギ人の勇敢な防禦と、之に對するドイツの四二サンチ砲の破壊との跡を具さに踏査した。この怖るべきドイツの攻城殺人器の製造元であつたクルツツ工場を實



館養静子男 社會ブルク

見すべく、他の一日はラインを越えて、ルール河盆地に入り、エッセンにいつた。この流域の下流地方はラインランド洲に屬し、中流以上一帯の地はウエストファリア州のもので、すべて豊富な炭田及び鐵鑛地方で、そこにはエッセンを始めとして、同様に繁昌する工業市

が澤山出来てゐて、實にドイツの國富の重要部分を形作つてゐる。全ドイツに取りては他に掛け替へのない寶庫だ。

この一日のクルツプ見物につきて語りたことは随分多いが、今は只二三だけ述べる。條約の結果、この工場に於ける一切の武器製造の設備は、聯合國委員の手でざしく破毀されて、一九二一年十一月三十一日までに全く無くなつて了つた。それで、今は専ら平和的機械器具の製作に従事してゐる。汽車、汽罐、船舶用農業用の器具類などがざんざん造られてゐる。數萬の職工が何等の失業もなく、孜々として働いてゐる。この繁昌の大原因は外國からの注文の殺到にあるさうだ。それについて、案内者の口から聞き込んだ最も重要なことは、ロシアの勞農政府から殺到して來てゐる大注文だ。ロシアの當局はドイツの工業を利用して自國の恢復を圖らうとしてゐる。ドイツがこの關係から、西方で塞がれてゐる原料や農産物をロシアから取り、ロシアの内地の企業をドイツの掌中に收めやうと計畫してゐるのだ。それでのこのラバロに於ける露獨の通商條約締結の企てといふ抜け駆けが成程と首肯される。

この見物の時、私たちを終日案内してくれた一紳士は、私のドイツ旅行中に親しく接觸したドイツ人中可なり強い印象を私に與へた一人だ。この朝始めてクルツプの應接室で私を迎へて握手する時、紳士は『御免なさい』と斷つて、左手を出した。私は變だなど思ふた。それから案内中にだん／＼話してみると、彼が戦争中に右腕に負傷して手先が全く不能になつたからだど分つた。彼は年齢四十代の半ば位だらう、見るから、顔色憔悴、形容枯槁、服装はきちんと正うしてゐるが、決して上等とはいへない。しかし何處となく品位があつて物腰ゆかしく、或は貴族の成れの果かと思はれた。エツセンホテルで晝飯の時卓上の話がはづんだ序に突込んで聞いてみると、彼は果してヘツセ山中の一貴族の出身で、實はフォンVとて、最近までプロシヤ軍團に屬し、大尉まで累進し、時にはカイゼルの身近くに咫尺したが、不幸にして東部戦線で負傷して、今の如き不具となつた。彼は元來英佛露の三國語に堪能であつたから、藝が身を助くるほどの不仕合せで、先年來クルツプ會社の案内人として雇はれ、それで定期の日本人の工場觀覽には必ずわれ／＼の東道をするといふ。世が世ならば、或はカイゼル近侍の武將となり、若しくは露佛に使ひする外國武官どでもなつたであらうに、今は一會社の社末に列する一雇傭人に落ちぶれてゐる。所詮V大尉も亦た目下のドイツ社會の大變動を象徴する一人だ。即ち貴族の零落、職業の轉換の一代表例だといへる。

四 占領軍

ケルンが英國兵の守備地であるやうに、アーヘンはベルギー軍、コブレンツはアメリカ軍のそれ／＼管轄地である。その他の殆んど全部のライン左岸地はフランス軍の受持である。ルール占領實行と共に米國兵が引揚げたならばコブレンツもフランスの守備に歸する筈だ。フランスはドイツの石炭及び材料の引渡が遅れる、又賠償金の支拂が滞ほるのを理由として、現に守備車の占領してゐるラインの橋頭堡から、占領を延長して右岸地に於ける商工業地を差し押へやうと、一再ならず企てゝゐる。現に先年は一旦マインツ橋頭から進發してフランクフルトを占領したことがある。尙ほ私の旅行後のことであるが、果してフランスはベルギと協同で一月以來占領をルール河盆地に延ばして、エッセンその他の工業市の差押へを實行することになつてゐる。

この外國軍の占領は、ドイツに取つて、國家の榮辱國民の面目からいつては申すまでもなく、單に財政上、經濟上からいつても一大苦痛であつて、これから起る憎しみは非常にふかく、さうしてこの憎しみは主としてフランス軍に集中されてゐる。凡そ守備兵は宿舍の徵發は勿論のこと、買物並に税關の自由をも許されてゐる。ド

イツ人は一切の兵營や練兵場は勿論、軍人の私宅をも徵發に應じて提供し、その上に莫大な守備費を支給しなければならぬ。私はケルニツセ・ツアイツングの商業部長と話したが、その直話によれば、ドイツ政府は守備費として兵卒二人につき一日十二金貨馬克が支拂はれる、然るに實際フランス兵一人の給料は實際二金馬克で、その給養費は二乃至三馬克に過ぎないといふ。果して然らばフランスは兵卒一人につき少くとも一日七金馬克づゝ儲けてゐる。假にフランスの守備兵を十萬とすれば差引一日に七十萬金馬克を只儲けする譯だ。況や若し守備兵を引上ぐれば、百二十萬金馬克が浮く筈だから、この金貨馬克を今日問題になつてゐる北方フランスの戦地賠償に充てたならば、一日の守備兵費を以て優に一町一村づゝを復舊して餘りあらう。ドイツは殆ど全く武装解除されてゐるのだから、目下に於てはラインランドを業々しく占領する必要は無論ないから、早く撤退してその費用を賠償に轉用した方が、十露盤上からいつて遙に利巧であらう。しかし政治上からいつたならば、フランスの間屋はこの問題をさう安くは卸されなからう。つまりそこが大きな國際問題だ。フランスは將來に對する確實な保證を得なければならぬ、この保證はラインランドの占領だ、さうして昨今はルール河盆地までの占領となつてゐるのだ。

占領地のドイツ人は守備軍の要求に應じて苟くも餘裕ある場合には、これに住宅又は居室を割愛しなければならない。これが随分ドイツ人の迷惑である。又品物の賣買ではライン河畔ではしばしば外國人値が付け出されてゐるボンのテイツ百貨店で、一足二百馬克の靴下を買ふた。ところが帳場の支拂には四百馬克取られた。それは間違いだらうと反問したら、否、外國の御方からは百パーセント頂戴しますからと撃退されたことがある。ところが守備兵及びその家族は免除されてゐる。店によつてはそのことを麗々しく店頭に書いて軍人の顧客を惹いてゐる。フランス兵卒らは金貨馬克で給料を受取りその紙幣馬克に對して有する、百倍、五百倍、千倍、否今日では殆ど底止する所を知らない非常な優勢な購買力でどん／＼低廉なドイツ品を買ふ。家族親類も占領地へ遣つて来て、軍族として買物に参加する。守備隊の交代期には、是等の軍人やその眷族たちは、立派なドイツ製のトランクやカバンを買ふて、これにしこたまドイツ品をつめこみ、大手を振つて自由に税關を通過する。だからフランスの土百姓の兒が忽ち立派な贅澤品を持ち去りて紳士となり、附き添ひの下女風情の者が、一朝にして奥様令嬢姿に化けて、國境を出る。之を目のあたりに見るドイツ人は切りに切齒扼腕するばかりで、どうも手の出しやうがない。軍

人及びその家族のために、普通列車の中に彼等限り専用の箱が幾つも設けてある。窓にレゼルウエ・オウ・ミリテールと貼札してあるのはそれだ。この旅行季節、普通旅客の箱が溢れてゐる、が、いくらから空でも軍人用の箱は融通ささない。こゝに、さうでなくても悪まれてゐるフランス守備兵を一層不評判にした事情が尙ほ一つある。それはフランスが守備地にアフリカからアラブ兵や黒人兵を呼びて用ひたことだ。これはフランスとしては、國內の人口が手薄だから、前世紀以來しばしば常習になつてゐることであるが、さてヨウロッパの、而もドイツの占領地に用ゐられたから住民間の不平不満はいふも更なり、文明國間の非難を蒙つた。その勢か、近時はフランスの方でも引き上げの方針を取ることになつたさうだ。随分これらの有色人種は風俗習慣も異なる上に、しばしば人道に容るしがたい亂暴狼藉も敢て恣にしたとすら噂されてゐる。ドイツ人の言ふところによると、ケルンやボンといふやうな世界旅客の往還には遠慮して置かれないうことになつたが、少し片田舎に入つたら、尙ほ有色兵を見る。例へばケルン方面では一寸内へ這入つたユーリヒ市の如しだといふことだ。私はモーゼル河畔を遡つて入つたトリアア市に於て現に之を實見し、又ライン名勝の一つであるビンゲンでも目撃した。

それで占領地に於て守備兵と住民との間に幾多の事故が續發する。英米の兵隊は少数でもあり、殊にその人間が比較的呑氣で、國民としてはドイツに對して寛大だから、事故は多くは生じない。事故の多いのはとかく佛、白兵との關係だ。兵士が夜行して負傷又は死亡でもすると、下手人は必ずドイツ人の間に求められる、實際さういふことが多いさうだ。私のラインランド滞在中一つの面白い新聞を見た。或るフランスの守備地で、ドイツ吏員の一人がフランス兵の不清潔不整頓を指摘して宛で豚のやうだと痛罵した。かねてから仲の悪い彼の同僚の一人は之をフランス軍に密告した。憐れな小吏員は裁判に上された。しかし彼はけなげにもなほ例證を擧げて、事實は事實だ、自分の兵隊時代の兵營と今日フランス占領時代のそれと比較してみよ、フランス兵は忽ちにして兵營を不潔にして仕舞つたじやないか、なご抗辯して下らなかつた。最初軍隊の幹部ではこれは小供らしい一小事であるから、大目にみるつもりであつたが、餘り本人の言ひ分が強かつたので、裁判の結果一箇月か二箇月かの禁錮に處した。こんな小せり合ひはざらにあるやうだ。目下神經の亢ぶつてゐる占領地のドイツ人だから、その言動は動もすれば常規を逸しやすからう。しかし清潔と整頓に關しては、公平に判断すれば、團扇は尙ほドイツ人の方の上

がらう。フランス人が古來あらゆる文明開化の高さを維持してゐるに拘はらず、物事のさばき方や、町や家まわりの整へ方については、ドイツほど十分でないやうだ。尤もこれはドイツが十九世紀中葉以來富の程度が充實し、社會教育の進歩し、科學思想が普及して來た結果かも知れない。それであるから、今日のやうなドイツ全國の惨じめな状態が持續すればドイツ人の躰なり習慣がいつの間にか退歩して、不潔亂雜の生活に傾くの外なからう。私のドイツ中を旅行したところでは、戦前に比べて頗るその感が深かつた。

私は獨佛間の間をしばしば出入した、殊にライン河畔の旅行に於ては尤も然りであつた。その際雙方から各敵手に對する言ひ分をしばしば聞かされた。フランス人の側から言へば、ドイツ人の西方侵略及び北佛占領中の殘忍暴虐破壊掠奪の數々が並べたてられた。私がウオーシュ山中の逍遙で邂逅つた一人の巴里兒は彼の父が開戦の初リアルに居て平和の業務に従事してゐて、何の理由もなく虐殺された一部始終を語りて、ドイツをばバルバルだ、バルバルだと連呼痛罵してやまなかつた。フランス人はかくの如き過去の損害を彈劾して容赦しない。之と同じく私はライン占領中のフランス軍の横暴ぶりを耳蝸の出来るほど聞かされた。ドイツ人は全

く眼前の現状を極悪無道として訴へてゐる。けれども、この現状はフランスがヴェルサイユ條約といふ鐵則を楯として、之を論理的に實行せうとするもので、即ち法律上自然の結果だ。さうしてこの條約の果實を取り立てる執達吏が極めて嚴峻なのだ。それは誰あらう、當の英雄ボアンカレである。彼は實に一八七〇年の恨を忘れないローレイヌ人だ。さうして彼は法律家であつて、彼の背後には四千萬の愛國者が復仇に燃えてゐる。

五 ライン郷 ゲルマニア

ライン河畔で、一番賑はつてゐたのは何といつてもウイスバーデンであつた。こゝは世界一の温泉場といはれるだけ、あらゆる贅澤と便利の具はつてゐる所だ。この地は、酒で名高いラインガウの首府で、北には羅馬人の國境守備線を形作つてゐたタウヌス山脈を負ふてゐる。この守備線上に、かのザールブルグの羅馬軍の陣屋の古跡もあつて、温泉から程遠くはない、又た古來、ドイツの教會の首席を占めて居る大監督の住地マインツ市は勿論のこと、有名なフランクフルトといふ大都會も近い。このフランクフルトは條約によるマインツ橋頭堡からの守備圏外で、先年の一時の外は、辛うじてフランス人の占領を免れてゐるが、ウイスバーデンは守備圏

内に在るから、温泉療養院の前の廣場、カイゼル・フリードリヒの騎像の下、世界各國の湯治客で賑ふてゐるところ、フランス兵の勇ましい軍樂附きの行進や、かの頂點を尖らしてそれを横倒しにした水色帽に、同じ色の制服つけた、個人としては柔和さうなフランス兵の、三々五々散歩するを見うけた。



ザールブルグの羅馬軍陣營の學童ツイド

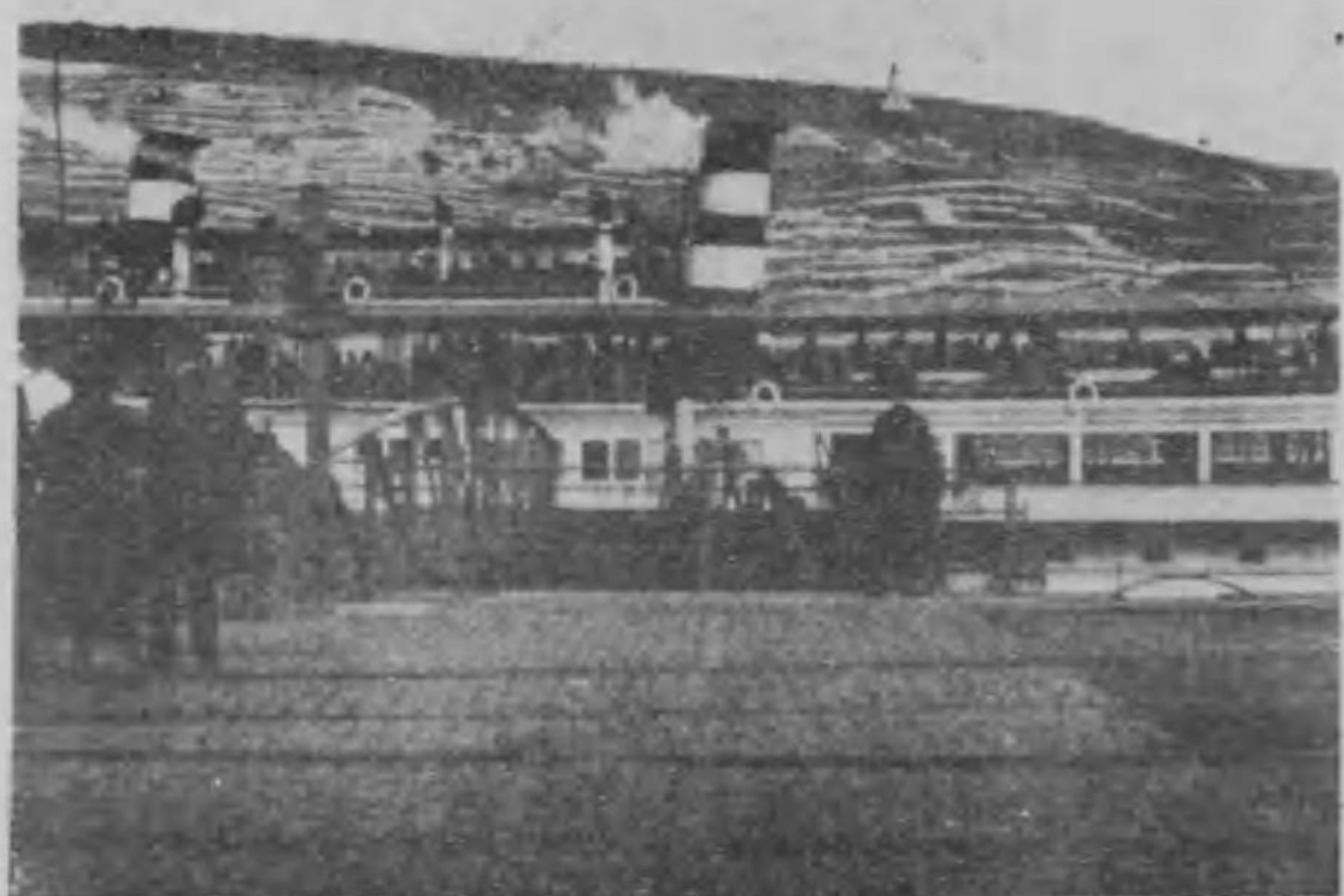
* 私はマインツから遊覧船で、ラインを下つてビンゲンに到つた。マインツ橋頭堡にはフランスの三

色旗が翻つてゐた。私の乗つた船には、舳には同じ國旗が吊げられ、艦にはドイツの三色旗が立てられてゐた。幾多の石炭船が珠數つなぎに曳き船されて來るのに出

あつた、これらは皆かのルールからの貢物であらう。われ／＼の船中の客は多くは外国人である。中にはドイツ語を話すのもあつたが、それはドイツ人でなく、大抵オランダやスイス人だつた。客の過半数はフランス語を話した、これはフランス人が多いからだ。この遊覧船は今日のドイツ人には、餘りに贅澤だ、それでドイツの旅行者は多く陸の兩岸を走つてゐる汽車の三等か四等かに乗つてゆく。彼等は多く背囊を負ふて徒歩いてゐる。

われ／＼の船は溶々たる流れを下つた。右岸の丘陵地は即ちタウヌス山脈の裾野を成す南うけの斜面で、満目すべて葡萄畑である。即ちこれライン郷であつて、船の下るに随ふて、ヨハニスベルグや、リュデスハイム等の酒の名産地が吾々を送迎する。先づ日本の灘伊丹といふ格だ。ビンゲンから先きは、ラインの豁谷は兩岸の山迫つて狭隘となり、ます／＼山水の趣を加ふるのであつて、先づ中古の傳説で名高い鼠塔モイゼルツルムがあり、それから、同じく詩に成つて有名なローレライの名勝など出てくる、かの如くしてかのコブレンツの船橋の邊まで、ライン風景中の壓巻を形作つてゐる。しかし、この方面は寧ろ文人墨客の領分に屬するから、私はそれよりはとて、ビンゲンに上陸して了つた。何せならビンゲンの對岸、かのリュデスハイムの

背後に當つて、タウヌス山脈の尾で、可なり高いニードルワルドの丘(高さ三四三メートル)に登臨し、そこに屹立する有名なゲルマニヤ國民記念碑を憑吊しなければならなかつたからだ。此記念碑はかの贅澤な船でラインを下る外国人らには、百中の九十九まで、只だ船中から雙眼鏡で遠望するばかりで大した感興を與へないやうである。外國*



む望をアニマルゲ 頭埠ンゲンビ

*人にして、この日わざ／＼これに登臨するため下船したのは、極めて少なかつた。元來こゝへ登るには對岸リュデスハイムから齒輪鐵道があつて約十分間位で碑下に達し得る筈である。然るにこの年旅行の好季節であるに拘はらず

れてゐる。やがて鐵道は荒れて草むらになつて了ひさうな有様だ。それで登山者は爪先き上りの町を通り抜け、それから大廻はりして、葡萄畑の間の阪路を登り、すべてで徒歩四五十分間にして始めて達す。それでもドイツ人は老若男女の別なく随分多く登山してゐた、彼等は即ち多くはかの陸行者であつて、中には、男女の區別なく背囊すがたの者も少くはなかつた。この日は恐らくは數百人の登山者があつたらうが、私はその内の極めて少數な外國人の一人であつたらう。途上あちらこちらに合計三四の廢兵が路傍に土下坐して憫を乞ふのを見た。是等の人々はみな札附きで、その上にそれ／＼幾バーセント、例へば七十五バーセント、百バーセントの不能者だと官廳の證明が書いてある、いかにもドイツ式だと感じた。頂上の碑の傍には、元來軍人と思はれる番人がゐて、碑下の草つ原に鷄や雞を放ち飼ひにしながら、登臨者の集り來る毎に、一しきりづゝ碑の説明をしてゐる。これは普佛戰役の勝利を記念するために建てられた國民的記念碑である。その臺石の規模雄大、高さ二十五メートルに及び、臺石を環つて戰爭の模様を語る浮彫あり、その上にゲルマニヤの像が立つ、このもの高さ十メートル六あり、たかくニードルワルドの柏の森の梢以上に出で、如何にもコンマンデングだ。女神の眼ざしはラインの流れを見おろし、

眼下のペンゲンに於てラインに落ちるラーヘ河の谷間を遡つて遙か向ふの雲烟縹緲の間には、當年の勝利によつて新たに取り返したアルザス・ローレインを望み見、宛らフランスの復仇に對してゲルマニヤの國土を永久に守護するかの如くに仰がれる。みるから美にして雄々しく又た神々しい姿である然るに今回の*せるどころ、ペンゲンのドイツの兵營にはフランスの占領軍の一部として、アフリカから出征してゐる有色人の兵隊が屯在してゐる。



アニマルゲ

* 敢えなき
敗戦の結
果獲物は
又もや敵
手に委し
た。それ
で女神像
下からあ
り／＼と
肉眼にて
も瞰下ろ

六 モーゼルからザールへ

モーゼルのラインに落つ込むところは、由來、兵略上重要な地點であつて、そこにコブレンツ市がある。これは、コンフルエンテスとて拉丁語の會流といふ語から來た名で、實に古羅馬時代からの市だ。恰どこの會流地點にカイゼル老ウイルヘルムの大騎馬像が立つてゐて、之を有名なライン河に架してある船橋の上から眺めると、河岸から可なり高く空中に傑出して、はつきりとした輪廓を見せて、五十年前のドイツ統一即ちフランス撃破の偉業を思ひ起させる。さうしてこゝはラインランド州の政治上首府である。

この古い由緒ある市の守備に當つてゐるのは、既に言つた通り、私の訪ふた時、新世界の民主國からの兵隊だつた。これは、よしや時代錯誤でなくとも、一寸見て變な現象だ。米國建國の初めの政治家たちが、アメリカの新らしい天地は舊い組織のヨウロッパとは、政治上では、全然無關係無交渉でやつて行かう、といふ外交の國是を樹て、置いたのに、このモンロー主義の國がヨウロッパの中原まで兵を出して守備してゐるとは、たとひジエツフェルソンを地下から起して來なくとも、今日の米國人自らが隔世の感を抱くことであらう。最近世界史の一大展開圖がこゝに

も見られる譯である。

私はこゝからモーゼルの流にそふて遡つてトリアに入つたこゝでも、フランス古領軍にかの有色兵隊までも混じてゐるのを如實に目睹したこの地はコブレンツよりも一層有名な羅馬時代からの市だ、現に幾多の遺跡が残つてゐる、中古ではマインツ、ケルンと*



トリア市 モーゼル河 葡萄畑の遠望

*相並んで、神聖羅馬帝國のドイツ最高の三大監督の一の鎮座所である、又たモーゼルワインの中心地である。こゝで三日間これら新舊兩様の風物に接して、具さに種々の今昔感を味つた。それから或る午後、更に程をつぎ、轉じてザール河域に入つた。こゝまでは外國軍の占領にかゝる

こゝからは、河幅漸く迫つて水清く山美はしい谷間を遡つてゆくと、やがて同じライプツィヒの内でも、かの國際管理にかゝるザール炭田地方に入つたのである。これは行政上一個の獨立特殊の區域だ。それから更らに乗りついで行くと、間もなく私の汽車は今回フランス領となつたアルザス・ローレインに這入つた。

それであるから、私の汽車がザール河の中流谿谷を駛走する僅か一二時間のあいだに、前後三回の途中下車を要求せられた、即ちバス及び税關の検査のためだ。勿論、その上に汽車の通はし切符が發行されてゐないから、切符の買ひつきもしなければならなかつた、それには錢の兩替もしなければならなかつた。こんな面倒を重ねてから、私は漸くその夕に、この日の旅行の目的地なるアルザスの首府ストラスブールに着いた。これが、戦後に通有な交通状態の悪化の一例だ。

三一 アルザスの秋

両面文化の悲哀

ストラスブールが最近まで五十年近くの間、ドイツの帝國州ライヒスランドの首府、その總督の鎮守地として、アルザス・ローレインのドイツ化の策源地であつたことは、言ふまで

もない。それで公用語としてホーホドイツが學校を通ほして官公衙にも、またその他の公けの場所に輸入されて話されることになつた。ところがこのドイツ政治開始までの約二百年間近くの間は、この地方はフランスの支配だつたから、フランスの言語、思想、風俗が傳播されて頗る深くこの地方に扶殖されてゐた。随つて、ドイツ時代になつてからも、中流以上の家庭や、感情文化を尙ぶ社交界やにあつては、尙ほ佛語が保持されてゐた。是等の相對抗する二つの國語の外に第三者がある、それは土人の話す地方語だ、アルザス語だ。これは元來ドイツ語のこはれたものだ。それ故にアルザスには三種の相異なる國語が話され、時と場合と人によつて、どれかその一つが優先してゐた。概していへば、官公的の鹿爪らしい態度を取らなければならぬ場合には、ドイツ語が話される、對話者がリファインした容子を示す場合、例へば交際社會で紳士淑女の間とか、又た淑女同志の間柄では、フランス語、親しい心持を出す場合には、土語が使はれるのが、一般の風習であつた。そこで今回再びフランスの支配になつてからは、ドイツ語の代りに、フランス語が法律を以て學校及び官衙で強制され、又た一般に獎勵されて來た。今日ストラスブールの街で、その途上往來の人にあつて話しかける時は、ドイツ語を使つて、以前より不便

を感じるほどには、まだフランス化してゐないが、市中を歩いて、町名、看板、掲示の類の書き方の上には、明かに變化が讀まれる。時としては、名前が單にドイツ語からフランス語に翻譯されてゐるばかりでなく、全然意味の變つたフランスの名前に改名されたものが少くないのを目撃した。例へば驛から市に入る大通りは「古い酒市通り」といつたものだが、今回は、よく巴里などにもある何月何日町といふ命名の仕方、たしか十一月の二十一日であつたか二十二日であつたか、月日の町名に改められてゐた。思ふに、かの一九一八年の秋スバーにおける休戦降伏條約後間もなく、フランスの儼めしい龍騎兵などが長驅してアルザスに入り、この通を堂々と入城したその日の記念でなからうか。ドイツ皇帝の離宮前の廣場のカイゼル・プラッツが、共和場となつてゐるのは尤もだ。大學附近に、かの有名なドイツの國法學者の名を負ふたバウル・ラーバンド河岸が今は全く違つた人名のケー・ド・ルーゼー・ド・ワールと改まつてゐる、これはいふまでもなく、かの有名なマルセイエーズの曲を作つた、大革命當時このストラスブルにおけるフランス軍の陣中におゐた青年士官だ、その名が採用されたのは良い思ひ附きだ。その他、旅館、スレトラン・カフェなどは全くフランス化してゐて、をかげで、私は二ヶ月前に味はつた甘い

巴里料理に再び有附いて舌鼓を打つた。私はこの市で、先年來の舊友であつた工業學校の教師をしてゐたドクトルトと再會したく、前以て書面を出し、こゝで氏の返書を受け取るやうに手筈をして置いた。この人及び家族は随分日本びいきであつて、娘には時に日本服を着せて日本の御膳の前に小笠



學大ルースラトス

原流に座らせて喜び、明治天皇及び皇后の崩御の節には、夫人は御哀悼の詩を作つて遙かに私たちの許へ寄せたこともある。ところが私はストラスブルに入つて見たが、この家族から杳として何等の消息に接しない。或は開戦の初め

日本に對するドイツ人の憤怒に中てられて、こゝを逃げ出したのか、但しは最近の併合當時にドイツ國民派の内に數へられて放逐されたのか。放逐といへば、現に去る八月の伯林政府に對する強談判の時にも、ボアンカレはアルザスに於て一朝五百名のドイツ人に退去命令を執行した。尙ほその上に更らに五百名の黒表を作つて事宜によつては、之をも放逐せうとしてゐると、切りに噂されてゐた。これは當時世上の非難が高かつたから、二回目の方は遂に實行しなかつたらしい。要するに、フランスのやり方は随分復讐的だ。しかし之についてフランス人の方では五十年前のドイツがアルザス人のフランス派に對して如何なる待遇を加へたか、と反對に問ひ返すだらう。只だ尤も迷惑なのは、かくの如き歴史的復讐の繰り返しの中にさし夾まれた美はしいアルザスの國土とその平和なる住民とである。

アルザスはそれ自身に固有な地方文化を有つてゐる。而も根なくして漂ふ浮草ならなく、昨日はドイツの手に引かされ、けふはフランスの風に靡かされる、その住民の境遇の哀れさよ。何はともあれ彼等の文化に兩面あることは否定出来ない。彼等の血はドイツ人と通ふてゐる。實に彼等の祖先は中古の昔に對岸のシュワールンから移住して來たものだ。さうして言語もこれと近い。之と同じく知識も經濟も

ラインの河を中に、彼此相融通してゐる。しかし、情意に於てはこの土地の住民は北獨のプロシヤ、即ち最近までの帝國建設者に對して快よく思ふて居ない。彼等の心持では、爽やかな風は東から吹いて來ない、西の方ウォージュの峠を越して來ると思はれてゐる。實に自由な思想、雅びた風俗を齎らすのはフランスからだと思はれてゐる。かゝる兩面的文化がアルザスの特徴である。これは、畢竟數世紀に亘つた獨佛兩國の勢力争ひが生み出した歴史的運命であらう。

二 聖オデイル

私は一日、ストラスブルからウォージュ山中のサント・オデイルへの探勝團に參加した。このドライブは半ば周遊の形を取つて、途中しばしば然るべきところに下車したから、往復約九十キロメートル即ち日本里程二十二里半といふ可なりの距離だか、自働車で朝から暮まで九時間を費し可なり悠つくりと見物し得た。その内、麓まで十里ばかりの間、全く平遠な田舎を通り、道路は、勿論米國のやうには行かぬが、舗張よろしく、車體の震動も甚しくない。加ふるにその兩側は多く林檎樹を秩序正しく植ゑた並木であつた、折しも九月の初秋とて、紅い實が熟して枝も撓はに成りさがつて、その間を疾走する車上の吾々の帽子をば、時としては掠めるほど

であつて、却て吾々の興味を増した。無論、路傍の丘や野は多く葡萄畑であつて、これも亦た房々した實が熟しつゝあつて、吾々の過ぎゆくところの東村西落はおのがじゝなる高い寺の塔で、さながら吾々を送迎するが如くに見え、車が是等の村落に入る毎に、概ね古拙雅趣ある家屋櫛比し、人口稠密にして民の竈も村の市場も賑ふてゐるのを見た。かくて約二時間たつてから漸く山中に入つたが、こゝでも到るところ道路悪しからず、前後左右の山地はつき／＼しく植林され、巨樹大木鬱蒼として茂り、殊に吾々一行の晝餉を取るため小憩みしたホーワルド村の如きは、旅館別荘備はり、風景よろしく、避暑地として又た木材産出地として繁昌してゐる。要するに、アルザスの田舎は、田園山林ともによく整備し、ドイツの政治が最近五十年間如何ばかり拮据經營したか、裕に當時のドイツ官民の腕前も思はしめる。

村落の或ものには、最近戦死者のために新しい記念碑が建てられてゐた。碑面には、日本ならば忠魂碑とでもあるべき筈だが、アルザス人には忠君愛國のある筈がない。彼等の子弟は誰のためにか、將た何のためにか倒れたる。若し戦死者がドイツ祖國のために忠死したとしたならば、今や彼等はその所謂祖國からは既に割き離されてゐる。その上に、新しい支配者たるフランスに對しても濟むまい。され

ばとて、幾多の犠牲になつたといふ子弟や父兄の爲めには、何等記念をも捧げないでは、彼等の情に於て忍び難いであらう。それでは何と題してゐたか、曰く「不幸にも戦争に斃れたる村の健兒らのために」

と、只だそれだけである、この命題豈悲しからずや。

私たちの

車の山中を*

山村の茅屋には容貌風俗の頗る異なる田舎人をも認め、フランスのブルターニュ人にも似てゐる、或は古のガリヤ人の子孫か。吾々の目的地であつたサント・オデー



町舎田のスザルア

*登るに隨ふて、あらゆる高い尾上に中古封建時代の城廓のルイーオンが散見した。またどある

ルに近づいたところでは、所謂「異教徒の山城」といふ廣大な規模のルーインも見
た。これはシーザルのガリヤ征服の時土民の逃げて立て籠つたところだと傳へられ
る。

サント・オデイルは高さ八百餘米突もあるウォージュ山中の高臺の一つである、こ
ゝに有名なフランク時代の女人尊者傳説中にある一尼院があるのである。そこから
眺望も頗る好い。この日は恰ど日曜とて、ストラスブールを始めとして、遠近の町
村落からの登覽者が頗る多く、午後三時ごろには無慮五六百人にも達したらう。こ
の群衆のうちから、私は興味ある一團體を發見した。それは山麓を距る程遠くはな
いルス村の青年壯年の男約三十名ばかりから成つた聖セシリア唱歌組合である。折
しも彼等は、尼院の庭の大きな柏の樹か何かの木かげで、一人の純然たる巴里兒風
した紳士の指揮の下にフランス語の謠を合唱してゐた。私の聴いたのは二番であつ
た、一は「田舎人」次はガリアの進行曲だ。合唱終るや、取り巻いてゐた群衆は拍
手喝采した。私もその一人であつた。前記の指揮者の満足は勿論だ、察するに彼は
併合後新たに村へ聘せられた學校教師であつたらう。その際、私は不圖この唱歌隊
の背後に、一人の年のころ六十ばかりの、營養のよい、顔色つや／＼しい、豊頬肥

軀なる黒衣の法體が佇立み、合唱中尤も熱心に之を傾聴してゐたが、今しもそれが
濟むと、人知れず最も快心の笑みを漏らしてゐるのを見附けた。それは疑もない、
村の加特力僧で、村人の靈の司、けふしも唱歌組合の顧問とか監督といふ格で尾い
て來たのであらう。そも／＼アルザスの新支配者は鋭意ドイツ文化を排除して、フ
ランス文明を扶殖せうとて、百方施設計畫を怠らない。それには、何より便利で有
功な機關は舊敎の敎會と學校との外はない。それで、到るところの自治體では、牧
師と敎員との人選を慎み、彼等を通ほして切りにフランスの言語、音樂、趣味、思
想を鼓吹してゐる。私は今圖らずもその實例の一端をこゝに見ることを得て、淺か
らぬ感興を覺えた。殊に面白かつたのは、如上の組合員が各自に胸につけてゐる組
合メダルがまだフランス語に改鑄されてゐないで、依然としてドイツ語で、ゲザン
グフェルアイン・デル・ハイリグン・チエチリンと記してあつたことだ。この組合は
元來ドイツ時代のもので、之をフランス人が利用してゐるのだ。

合唱が終つて彼等が尼院のカフェへ入つて行つたから、私もその後へに隨ふて入
り、わざと彼等に接した卓邊で休憩した。自然、私は彼等の内の若干の青年らと話し
あひ、ビールのをちもあけてプロージットした。かくて御互によい心持になつたころ

私は彼等の一人に、君たちの先刻話つたのはフランスの歌だつたね、それに君たちはまだ胸間にドイツ語の徽章をつけてゐる、それでは時々ドイツの歌もうたふのかねと皮肉つたら、その青年は聲高らかに揚言して、いや、いや、フランスの歌ばかりだ、語はフランスに限る、フランス語ほごよい言葉はないからね、君も何ぞドイツ語をやめてフランス語を話さうと逆襲して來た。私は彼のこの揚言を憐れに思ふて沈黙した。すると、他の一人が、僕の兄は青嶋で捕虜となつて歸り、日本はよい國だと褒めて居るよと、途ざれた話をついで私に水を向けた。私は尙更ら不幸なアルザンよと、衷心から彼等の罪もなく、意味もなく、只だ國際間の風雲の動くまゝに漂はなければならぬ運命の悲しさに、一しは同情せずには居られなかつた。峰の狭霧が尼院の古庭に下りかゝつてくる晩い午後、彼等唱歌隊の、私の出發に先ちて、下山の途につくのを、私は沈思して眺め送つた。彼等の乗物は只だ一臺の大きな無蓋自動車だけだ、恐らくば、平生は村の酒樽積むでストラスブルへ通ふ荷車だらう、今日は、山から折つて來たらしい種々の青葉の枝や蔦かづらの類で、滿艦飾に粧り立てられてゐる。それに彼等一行全部が乗つたから、溢れるばかりだ。彼等は出發に際して何か諸聲張りあげて合唱した。さうして私の車の前を通過する

時、彼等の車上から五つ六つの帽子が私に對して盛に打振られた。私も勿論之に酬ゐた。聖チエチリン組合は宛でバッフォースの凱旋の心持で下山したらしい。

三三二 ハンブルグ「海外週」

若し敢て日本に比當せよといふならば、ルール地方は日本の北九州だらう、否なそれ以上にドイツには重要な富源だ。が、假りに譲つて、さう比當してみれば、ドイツの横濱神戸に當るものはハンブルグとブレーメンであらう。ハンブルグにはハンブルグ・アメリカ會社がある、ブレーメンにはロイド會社がある。それでドイツの海運は主としてこれら兩港に由る。若しそれルール地方といふドイツの富を控へ、ケルン、その他ライン方面の繁昌な諸市にも比較的近いブレーメンを神戸とすればハンブルグは、ドイツの東京ともいふべき伯林の方に遠くないから、先づ横濱だらう。勿論ハンブルグの大きと隆盛さは神戸や横濱どころのものではない。若しどれか一つを取つてドイツの港と名ざしてみれば、ハンブルグは、確かに自らドイツの港と傲慢な名乗を上げて、差出がましくなからう。それほごまでに偉大なのは、エルベ河口の舊ハンザ同盟の盟主にして、今は世界の自由港たるハンブルグである。

ハンブルグの港灣の設備や、その經濟事情は私の領分外に亘るから、私は十分に語り得ないのを遺憾とする。私は只だ通り一遍の漫遊客として、しかし注意ぶかき観察者としての見地から、次のことを確かに言ひうる。

私は去る八月下旬恰どハンブルグで「海外週」^{ユルゼイウツ}といふ盛大な催しに遭ひ、その全一週間をこゝに滞在して親しく體驗した。これは、かの古來からドイツ及び中歐で有名な年中行事になつてゐるライプチヒのメスや、ミュンヘンの十月祭に倣ふて今回始めて催されたものだ、この會の總裁はその後間もなくドイツの宰相になつたクローネだ、即ちハンブルグをドイツの港たらしむる所以の主要部分を働いてゐる前記の船會社H P Gの社長が之を勤めてゐた。この催はハンブルグ気分、隨て戦後の恢復のために苦戰惡闘してゐる新ドイツ氣分を味ふには、何よりの好機會であつたので、私はこの地在住の舊友O君の親切な援助に依り、出来るだけこの「週」^{ウツ}行事に参加することにした。行事の重なる一つは勿論港内の觀覽及び前記H P G社の或る汽船への案内であつた。かくの如き光景を實際に觀た眼には、如何にハンブルグが新ドイツの建設に忙はしいか、が明かに看取された。私が既に説いたかのルール地方でクルプ工場がごん／＼働いてゐるが如く、全ハンブルグも大いに活動してゐる。

る。就中造船所は致々として船舶を作つてゐる、又た殊にイギリスが引渡さしめた船舶にして世界の不智氣のため、イギリスでは繋船するの他なかつたのを、昨今ドイツ人は買ひ戻して之をドイツの海運に使用することにした、その數頗る多い、それでこの一兩年間にドイツの持船噸數は非常に激増し、しかも繋船どころかいづれも随分忙はしく立ち廻はつてゐる。ドイツの輸出貨物は非常に多い。無論ドイツの船腹だけでは積み切れない。

果せる哉、年末の倫敦から入電のロイテル通信によると、千九百二十二年度歐羅巴大陸諸港の船舶出入數に於て、ハンブルグ港はアントワープ及ロッテルダムの兩港を凌駕するに至つた、即ち同年中ハンブルグに入港せる船舶數は、總計一萬八百三十八隻其噸數一千三百萬噸に達し、アントワープは第二位となつたとある。即ち一九二二年一年間の統計は、ハンブルグがその年ヨーロッパ大陸第一の船舶出入港になつてゐたことを證明する。

しかし、この外觀上極めて幸福にみゆるドイツの好景氣は、一寸と考へ直ほしてみるとその裏面には多大の悲觀材料をつゝむでゐる。勞働賃金は馬克の暴落にそれほど伴ふて上らないから比較的に安い。原料も亦た同じ理由で比較的に安い。安い

DEUTSCHLAND
und der
FRIEDENSVERTRAG
in
Wort, Bild u. Zahl.



Ein Volksbuch über den Vertrag von Versailles
von Dr. Walther Croll
LIGA ZUM SCHUTZE DER DEUTSCHEN KULTUR

平和條約の鐵鎖で縛られたドイツ

ドイツ文化保護同盟の出版本の表紙

勞力で安い原料を使つて作つたドイツの貨物は比較的安い、だから外國市場から非常に需要される、それでドイツには失業もなく繋船もないのだ。この現象の根本は馬克相場の下落にある。即ち馬克が下れば下るほど輸出が多くて好景氣だ。それは宛も酒呑みが一杯一杯又一杯で酔へば酔ふほど上機嫌であるがやうなもので、決して正常ではない、空景氣だ、正氣の沙汰でない。いざ外國と決濟となつたならば、一體ドイツで不足する食料品も工業の原料も弗や磅で買ひ入れられてゐる、即ち高い相場の金で取引されてゐる。逆も紙幣馬克風情のもの幾百倍積むだとして、これに當ることは出来なくなつてゐる。だから輸出が盛んだ、工場は忙しい、船舶は満載だ、といつても末は恐ろしい、いつかはカタストローフが來なければならぬ。宛も大酒家が自己陶醉して喜んでゐるが如きで、その酔つてゐる間は善い心持だが、その酔が醒めて來る曉には、若し頭痛鉢巻でなければ、必ず虚脱に陥るの外はなからう。況んやドイツ國家としては一千三百餘億の金貨馬克の賠償が課せられて居るに於てをや。ハンブルグ市中を歩くと、要所々々の廣告の内に種々興味多いポスターが目につく。その一つは削り取られて小さくなつたドイツが、鐵の鎖でがんにがらみに縛られてゐる地圖を描いてある。是れ正さしく條約によつてドイツの國土が

不當の束縛を受けてゐることを示して居る。

さればこの所謂好景氣の半面を見せてゐるハンブルグの「海外週」では、曰く何々展覽會、曰く何の博覽會、曰く何の劇とて全市舉つての幾多の御祭的催しがあつた傍ら、他面に於ては、「世界經濟と平和條約」を主題とする全週ぶつ通しの特別講演が開かれたのは、偶然でない。この會では實に素眞面目な、沈痛な、悲哀な、壯烈な半面がありくと現はれた。

講演會場はハンブルグ大學講堂だ。因にいふ、ドイツの世界政策が大車輪に發展してゐた帝政の晩年、ドイツの將來は海上に在りとの前カイゼルの獎勵鼓舞の下に、ハンブルグ都市國家は植民研究學會コロニアリイニシュタットといふのを創立した。ドイツに取りては、眞に適當な機關が適當の場所に設置されたものだ。このものは先年訪ねた時は尙ほそれであつたが、その後次第に擴張充實して、近年はハンブルグ綜合大學となつてゐた。さて今回の「海外週」講演は毎日午前に二三人の名士學者で行はれ、その一人は大抵ドイツに對して理解を有つてゐる外國人であつた、或る日には南米のアルゼンチナからの一人であつた。或る他日にはロシアから一人、即ちかの外交界で知られてゐるクラツシンその人であつた、實に此日は講演全部がロシア問題であつて

その上クラツシンの出演といふのだから、可なり世上の注意をひゐたと見え講堂は頗る賑はつた。然るに意味あつてか無くてか、クラツシンは差支へ缺席となり、その代りに少壯なロシア通であるドクトル・エクハルトが代講した。それに他の一人はプログラム通りで最近にドイツ赤十字社派遣委員として、ロシアの饑饉地方救済に出かけて歸つて來た某醫學教授であつた。要するにこの日の講演は、一方では、ドイツはロシアとの關係を親密にして世界經濟の復舊を謀るべしと力説し、他方では、ロシアの目下の慘怛なる有様に同情を寄せ、その救済の急務を高唱したものである而して後者の主張に關聯して、一人の論者がドイツ自らの我が身に引き較べて、絶叫した悲憤の一語は尙ほ残つて私の耳に在る。曰く吾々は昨年オーストリアの慘狀に對して深甚の同情を傾けた、さうして吾々はオーストリアの如くになつてはならぬと自ら警めた、然るに吾々の現狀は如何、吾々は方さに正さしくそのオーストリアと同じ深き淵に沈みつゝあるではないか、今日茲に吾々はソウイエット・ロシアを憫みつゝある、しかし焉ぞ吾々が明年同じ轍を踏まざるを知らむ。この一切のヨウロッパの不幸、否な世界の禍は、かの咀ふべき平和條約に胚胎すると。

講演の最後の日には條約改訂論者として世界に知られてゐるキーンズが出演した

彼は夫人と共にわざ／＼イギリスから出掛けて来た。人気學者の講演として大學の講堂が狭からうとの虞れから、プログラムに於て最初から市中の大集會所コンウエン・ト・ガルテン開催と定められた。果しての大入りで座席盡く賣り切れてゐる。彼は冒頭の挨拶だけドイツ語でやり、それから跡の講演は英語でやつた。彼の論旨は、平知條約の改定にあること勿論で、既に著書やマンチエスタ・ガーヂアンやを通して我が日本にも知られてゐる範圍を出でなかつたから、こゝに紹介の必要がない。満場は勿論不賛成の筈はない、要所所で喝采切りに起つた。講演終つて、最後に演壇に現はれて、今日の主賓キーンズに對し、又た全講演會に對し、一場の挨拶を述べた巨大な紳士は、即ちH P G社長にしてこの「週」の總裁たるクローノーであつた。これで大會終了し、キーンズが總裁に導かれて退場する時、私はこの英國學者を廊下に要して自ら紹介しながら、私は貴下の著書を面白く讀みました、今日は御聲咳に接して一層愉快ですと述べたら、彼が嬌々しながら返す挨拶の内に「譯書で、すか、近頃私の本は日本でも譯されてゐる」といふのが耳立つたので、自分は少々閉口したが、この世界經濟界の人氣學者と會つたのは、わるい氣はしなかつた。

三三 ビスマルクの思出

忙はしいハンブルグ滞在中、私は半日の閑を偷みて静寂なフリードリヒルヘへへ奔り、そこで心しづかに又た心ゆくばかりにビスマルクの晩年隱棲の舊邸を訪ね、又その今は長へに安らげく息ふなる墓マソレウを弔ふた。

國破れて偉人を思ふといふ譯で、今日のドイツ、殊にプロシヤの人々が第一に追慕してゐるのはフレデリック大王であるらしい。この人物の事蹟はレツクス・フレデリクスといふ題名で活動寫真で演示され、盛んに人氣を呼び、大流行であつた。今日のドイツ人は、學校に於ても家庭にても社會にても、時代の變化に應じて世界の公民としての教育を盛んにし、之と同時に愛國教育、否な敵愾心鼓舞をもなかく、怠らないらしい。フレデリックについては、ビスマルクが尤も思はれて居るやうだ。勿論、或意味ではこの人物の方が一層の人氣を惹くであらう。けれども聯合國、殊にフランスに對しては遠慮しなければならぬ歴史が、この人物に伴ふてゐる。だから、ビスマルクに對する崇拜は暗流たるに止る。回顧すれば、ドイツ最近の不幸はカイゼル及びその左右の幕僚が遠大な政治家的伎倆を缺いて居たことに根ざして

ある。五十餘年の昔
いざ鎌倉といふ危機
に臨む時、高處大
局に立ちて卓抜な見
地から、軍閥の跋扈
を抑制し、歐洲的外
交と國家的政策とを
展開し、一著又一
著と地歩を占めて、
遂にはドイツ帝國を
建設したのは、ビス
マルクその人であつ
た。若し少ウイルヘ
ルムの晩年、第二の
ビスマルクが現はれ



宅邸の樓閣公クルマスビ ヘルスヒリドーフ

てドイツの帝國
の上に立つて居
たならば、ドイ
ツは全世界を引
き受けるやうな
彼様な戦争の苦
境に陥らなかつ
たかも知れない
所詮、カイゼル
政府には偉大な
るステーツマン
シツプが缺けて
ゐたことが、今
日のドイツに古
來未曾有の大困

難を齎らした最大原
因であるに違ひない
このことたるや、私
は上の如く無難作に
片付けたが、實は一
個の内容の重大な歴
史上眞理であつて、
何人も否定し得ない
若しこれを十分に論
述せうとならば、千
萬言を費しても尙ほ
盡きなからう。
ビスマルクの思出
は、ドイツを逍遙せ
ば隨時隨所に起るだ



墓の公クルマスビ ヘルスヒリドーフ

らうから珍しく
なからう。然る
に今回の旅行の
次、南佛に於て
三たびフランス
の風物に見參し
た時、ゆくりな
く故人を憶ひ出
すの便がに接し
たのは、茲に記
念せずにはおか
れない氣がする
マルセーユから
近郊遠足の或る
一日、足を伸ば

してロロンを溯り、アウイニオンに遊んだ。これは當年の「幽囚」法皇の故宮を訪ひ詩人ベトラルカの隠棲谷や、ラウラとの戀の跡も偲ばんが爲であつた。沿道の満目多くは橄欖茂げる田野であつて、平和の瑞祥に溢れてゐる。私の夢は再び現代に返らざるを得なかつた。時は恰ど六十年前の昔である。當時ビスマルクはプロシヤの巴里駐在公使であつて、夏から秋へかけて、ひろくこの南フランス地方を漫遊してゐた。その間に、伯林では軍備擴張問題のために、憲法上衝突起り、プロシヤ國王もほど／＼困じ果て、一時は禪讓の考まで起した。時局はかくまで切迫した。この危機に陸軍大臣ロロンは急電を巴里へ發してビスマルクを召還した。ビスマルク茲に内閣議長として始めて議會に臨み、自己の胸中を披瀝し、大局の爲めに上下一致、和衷協同を求めた。その際、彼が懐中の紙入から取り出して議員に捧げたのが、即ち彼が最近にアウイニオンの森から手折つて來たといふ橄欖一枝であつた。時は一八六三年十月、鐵血宰相の大政治家的經綸はこゝに始つたのである。

三四 不安なヨーロッパ

凡そ一國の理解には大都會を見ただけでは不十分だ、その田舎の地方をも探らね

ば真相は分らない。この見地から、私は今回も亦たドイツの田舎にも入つた。一つはヘッセ山中で、チユーリッゲン境、ペーブラ附近の小農村に二晩、他はケーニグスベルグ附近で、フレデリック大王時代の大地主的貴族を思はしめるフックスヘーフェの大農園の一日である。これらの田舎視察で、かくの如き草深いところまで、都の勞働爭議や*プロシヤに對する獨立の氣分と伯林の社會黨的共和政府に對するウイッテルスバハ



影面の族貴ヤシロブ 問訪エフヘスクツフ

*階級闘争が入り浸つてゐることは勿論であつたけれども、都會に比して、尙ほ頼もしい堅實の風が遺つてゐ、プロシヤの精神の磅礴するのを發見した。殊に南方の雄邦たるパワリヤをも訪ねて、こゝでは

家の君主政治のあこがれとの、著しく勃興してゐるのも看取した。これも亦たドイツ國家生活の一面として見逃がしてはならない。

主義として何等か特定の政治上意見は、歴史家たる私の抱いて居らう筈がない。私は只だドイツの新憲法による共和統一國家が、如何なる發展の徑路を辿るべきかにつきて、觀察してみたいばかりである。この見地からみると、舊軍人、是等のものを尤も多く供給して居た貴族の階級、それから地方の地主や農民らが尙ほ依然として帝政又は君主政を思慕してゐるのは事實だ。如上のバワリヤ人はそれだ。勿論若し何家が統一君主として尤も適當なるかにつきては、到底歸著點が見付からなからう、何せなら、強ひて或る一家を推戴せうとしたならば、ドイツ分裂の虞れがあるから。しかし全體に互つて人民が現状に満足しないのは明かだ。この不満を代表してゐる者の一つは、大學及び大學生であらう。彼等の多數は現狀を不可とし、知識の政治を主張してゐる。現政府の社會主義的立法によれば、一切の賃銀は年齢に準じて均一でなければならぬ、例へば、廿歳の者は十九歳の者より、廿一歳の者は廿歳の者より、一定の定率に従ふて増賃を給せられるだけで、すべての同年齡者は、知識の高低、能率の多少は少しも顧慮されずに、均一の報酬を受ける。これ

は大學及び大學生が代表する知識の文化政治論者の到底耐え得ない凡庸均一組織である。ラーテナウの暗殺に徴してみても、社會の不平が學徒の間に潜伏することが分明する。それで共和政府は下層社會の知識化を以て教化の方針とし、切りに勞働階級の向上を叫び、その間から大學に進み入らしめるやうにせうと考へ、大學の機關をば、貴族や地主や資本家やの子弟の獨占壟斷に歸せしめないのを期してゐる。政府は之を以て現在の社會主義的共和政治の國憲*

Fritz Ebert
 Brautstraße 16 (E 31)
 Bierhalle, Restauration
 und Billard.
 Versammlungsort
 für Klubs und Vereine.

昔今の領統大民平

*維持の最良最適の方法と考へてゐる。大統エーベルトはもと鞍作り師であつたさうだ。さうして彼の生涯の或時代には、ブレイメンでレスタウラチオンと稱する餘り上等でない料理屋を経営してゐた、平くいへば銘

酒屋の亭主だつた。彼は當時ブレイメンの新聞に、「ビィヤホール、レスタウラチオン、玉突、俱樂部及び協會の集會所」といふ廣告を出したもので、この廣告の掲載されゐるブレイメンの新聞は、この夏には一枚一千馬克の相場場で羽が生へて飛んで行つた、私もその一部を手に入れた、それは一八九九年のものである。凡そ社會黨